

2009年3月期決算 アナリスト説明会



2009年5月1日
ソフトバンク株式会社

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。

また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

経理編 4

連結P/L分析 5

連結B/S分析 15

連結C/F分析 25

財務編 29

事業編 57

ブロードバンド・インフラ事業 59

固定通信事業 63

移動体通信事業 67

経理編



**ソフトバンク株式会社
経理部長 兼 内部統制室長**

君和田 和子

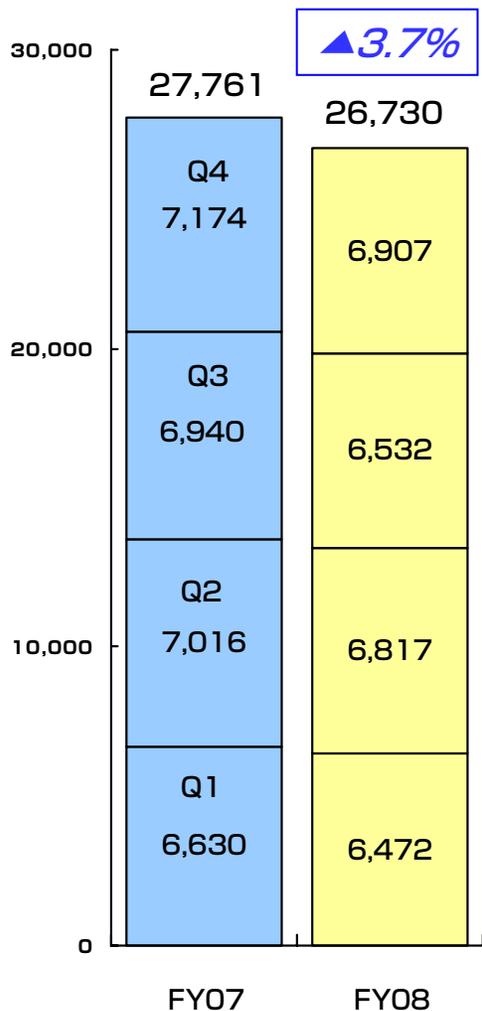
連結P/L增減分析

連結P/L総括

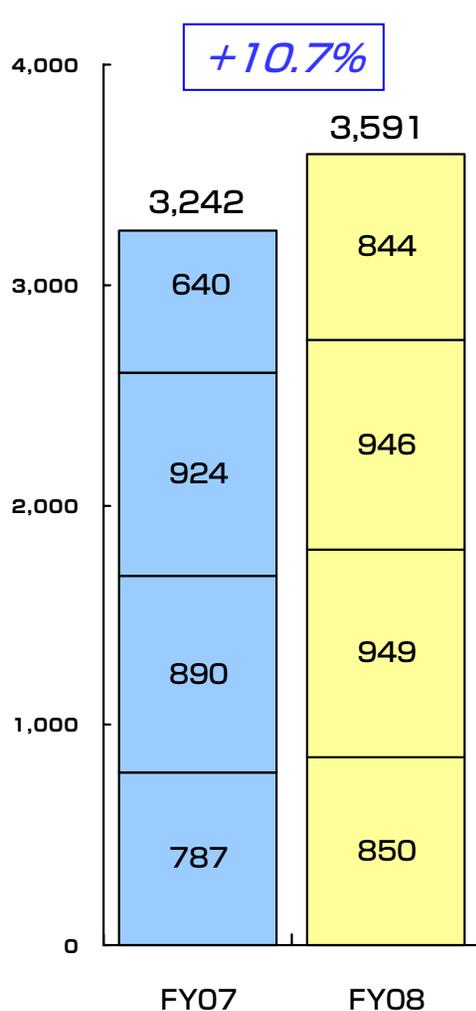
<P/L-1>

<億円>

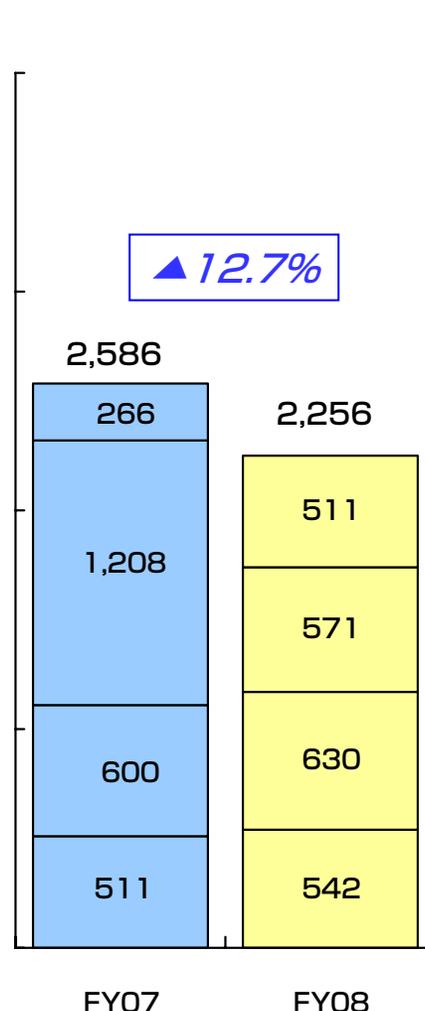
売上高



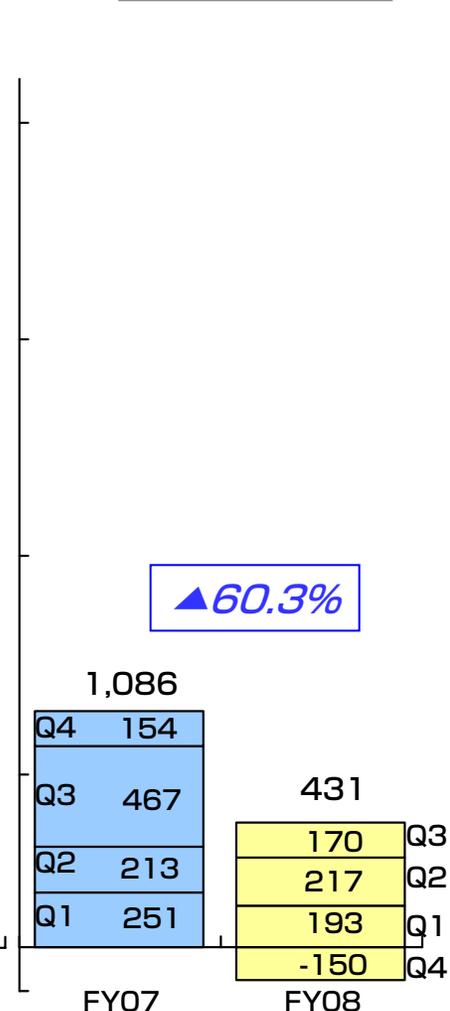
営業利益



経常利益

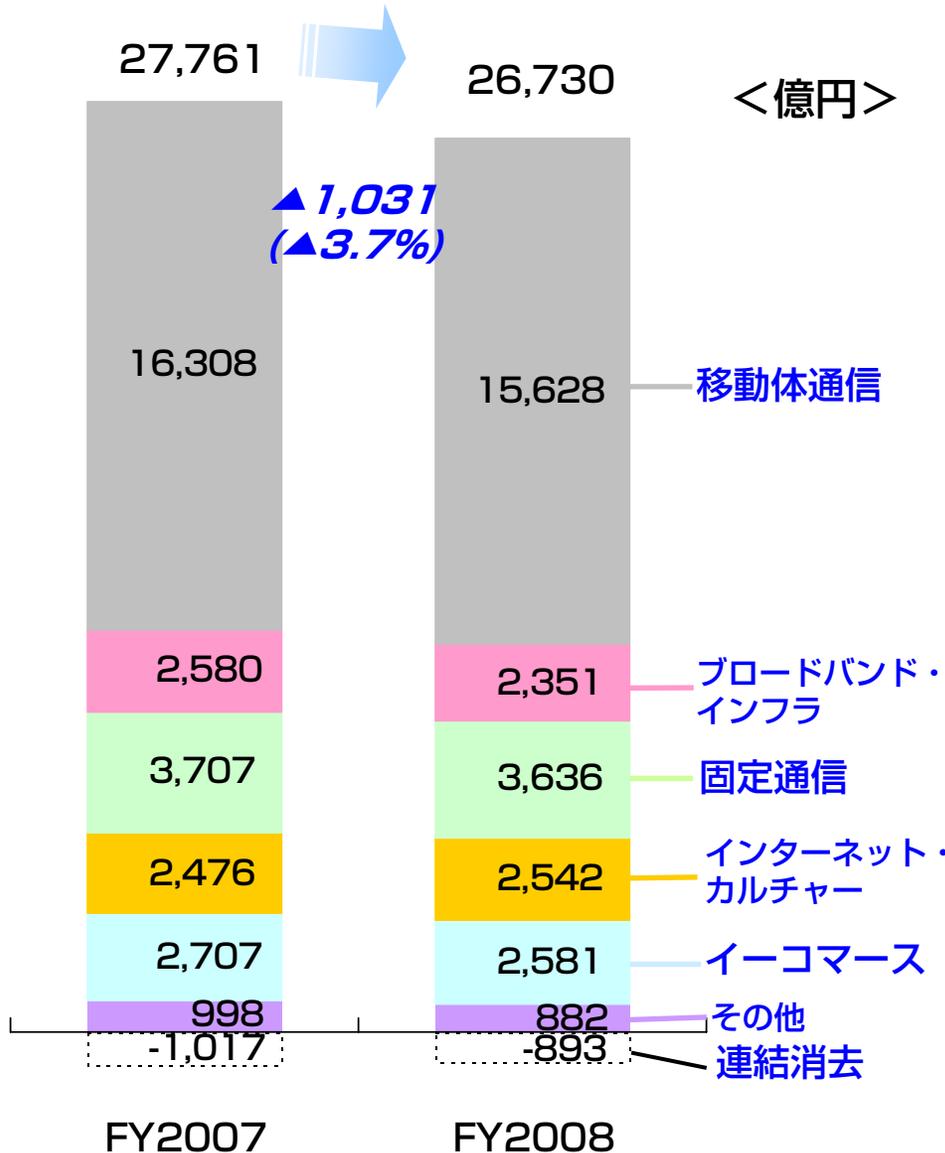


当期純利益



連結売上高

<P/L-2>



移動体通信事業 ▲679億

- ・電通事業売上の増加 +140億
 - 〔契約者数の増加 +1,405億〕
 - 〔ARPUの低下 ▲1,367億〕
- ・附帯事業売上（携帯電話端末売上等）の減少 ▲819億

ブロードバンド・インフラ事業 ▲228億

- ・ADSL 課金件数の減少 ▲167億
- ・ADSL ARPUの低下 ▲19億
- ・ODNの減少 ▲32億

固定通信事業 ▲71億

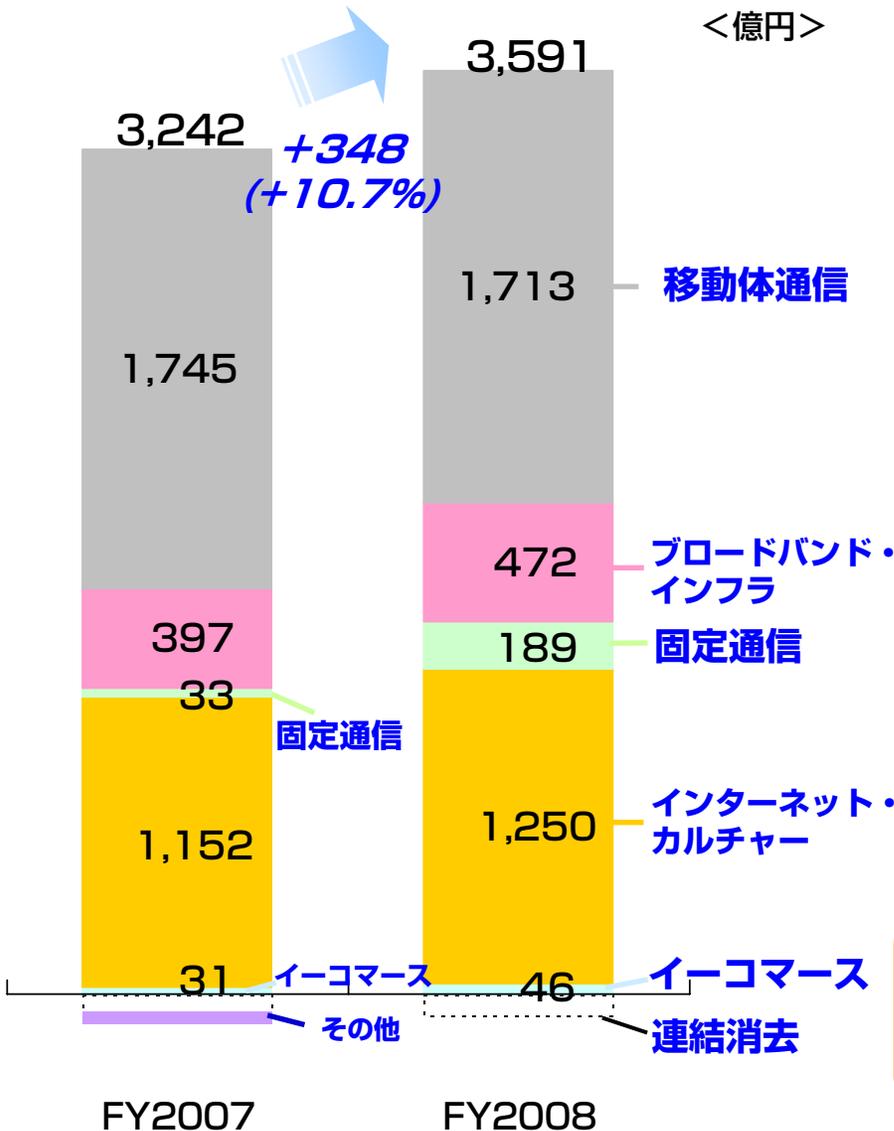
- ・おとくラインの増加 +126億
- ・法人データ増加 +45億
- ・マイラインの減少 ▲127億
- ・国際電話の減少 ▲98億

インターネット・カルチャー事業 +65億

- ・広告事業の増加（グロス表示ベース） +327億
- ・売上高の一部をグロス表示からネット表示に変更したことによる影響額 ▲301億

連結営業利益

<P/L-3>



移動体通信事業 ▲31億

- 売上高の減少 ▲679億
- 売上原価の減少:
 - 端末出荷台数減少などによる減少 +690億
 - 減価償却費の増加 ▲184億
- 販売費および一般管理費の減少:
 - 販売促進費の減少 +140億
 - 販売手数料の増加 ▲89億
 - 貸倒引当金繰入額・貸倒損失の減少 +138億

ブロードバンド・インフラ事業 +75億

- 売上高の減少 ▲228億
- 通信サービス回線、減価償却費などの売上原価の減少 +124億
- 販売費および一般管理費の減少
 - 販売手数料および販売促進費の減少 +182億

固定通信事業 +156億

- 売上高の減少 ▲71億
- アクセスチャージなど通信設備使用料の減少 +141億
- 業務委託費の減少 +21億

インターネット・カルチャー事業 +98億

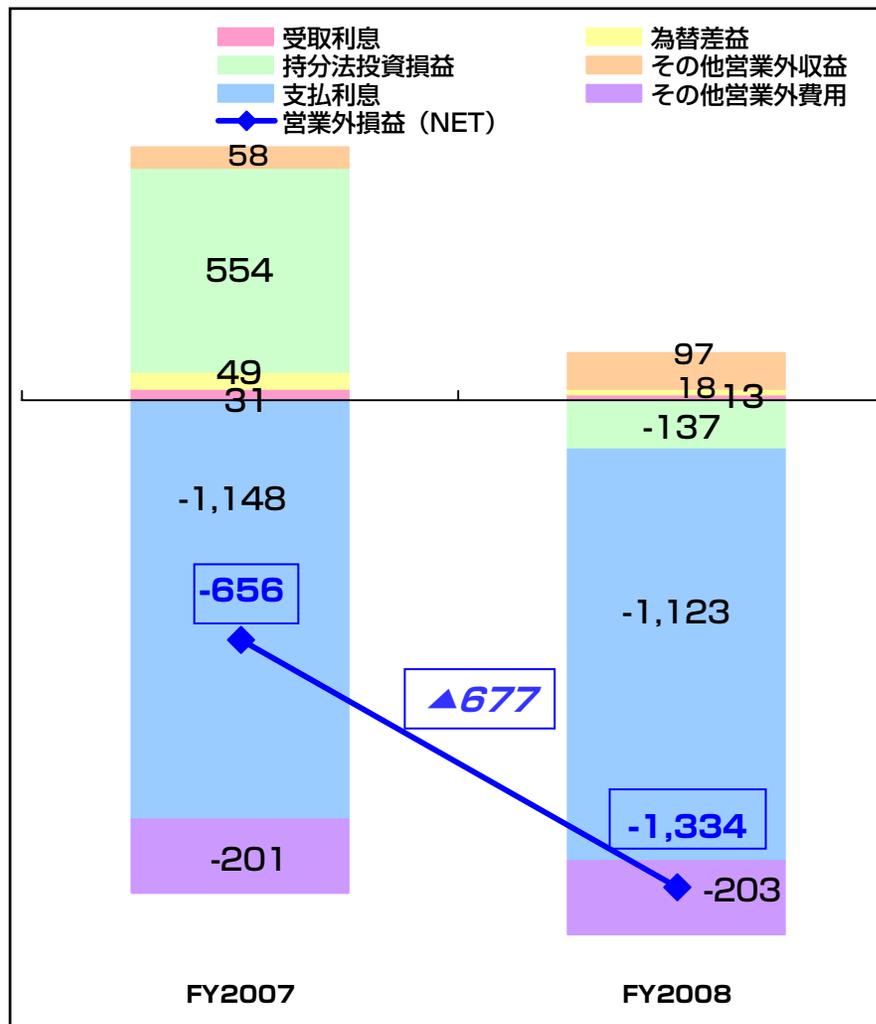
- 売上高の増加 +65億
- オーバーチュア前年度Q2新規連結に伴う原価の増加 ▲12億
- 人件費の増加 ▲50億

営業外損益と経常利益

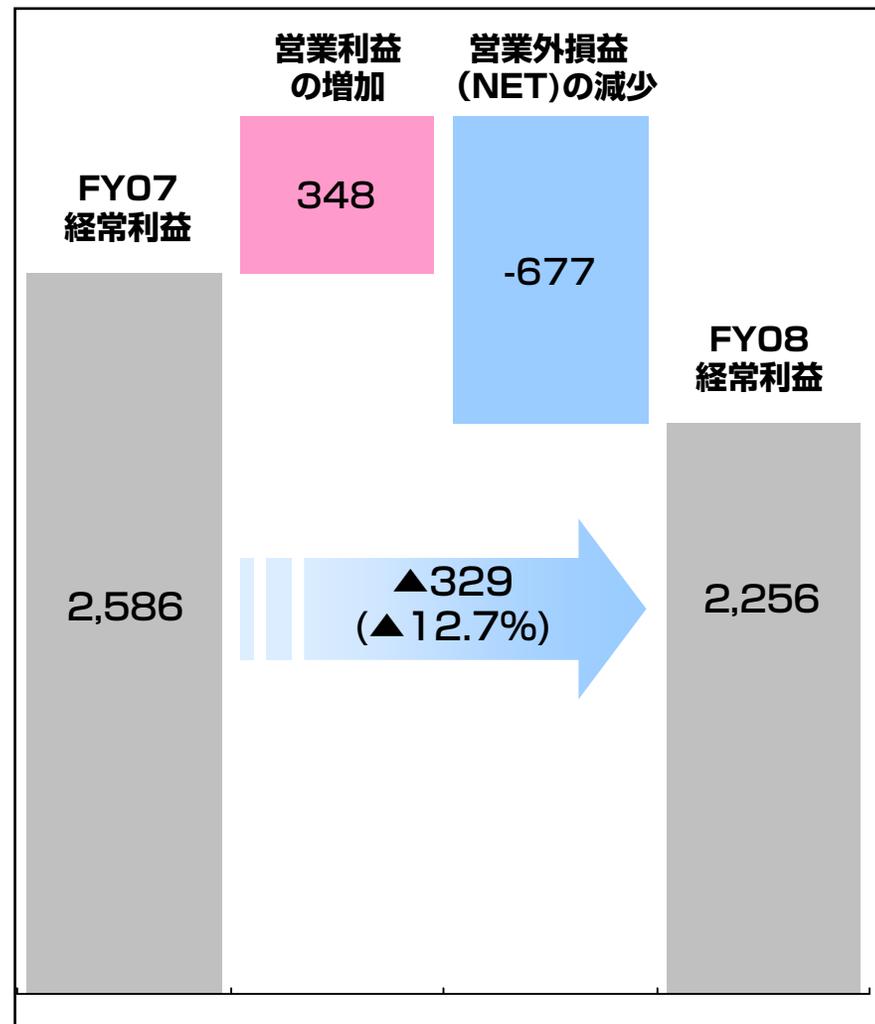
<P/L-4>

<億円>

営業外損益



経常利益



持分法による投資損益の増減

<P/L-5>

<億円>

	FY07	FY08	増減
持分法による投資損益 (NET)	554	▲137	▲691
(主な増減)			
Alibaba Group Holding Limited の子会社の上場に伴う利益計上	572	-	▲572
持分法適用会社で運用するファンドか らの損益計上	123	▲66	▲189

特別損益項目の内訳

<P/L-6>

<億円>

特別利益	FY07	FY08	増減
投資有価証券売却益	64	34	▲29
持分変動利益	37	24	▲12
米国子会社の投資会社会計に基づく投資有価証券評価及び売却益	129	-	▲129
子会社清算益	-	29	+29
その他	66	23	▲43
特別利益合計	297	112	▲185

特別損失	FY07	FY08	増減
投資有価証券評価損	218	115	▲103
米国子会社の投資会社会計に基づく投資有価証券評価及び売却損	-	53	+53
減損損失 (主な内訳) FY08: ・BB事業「Yahoo! BB光」専用資産 289億円 FY07: ・固定通信事業 直収電話サービス「おとくライン」の アナログ回線用交換設備 88億円	106	294	+188
デット・アサンプションに係る追加信託損失※	-	750	+750
その他 (主な内訳) FY07: 固定通信事業「おとくライン」のアナログ回線用設備 ・貯蔵品除却損: 120億円 ・固定資産除却損: 54億円	300	82	▲217
特別損失合計	625	1,295	+670

※デット・アサンプションに係る追加信託義務について、長期末払金750億円を固定負債のその他に計上しています。

税金・その他調整額の内訳

<P/L-7>

主な税金費用の内訳

<億円>

A	法人税、住民税および事業税	393
	(主な内訳)	
	1. ヤフー	255
	（ヤフーとソフトバンクIDCソリューションズ（IDCS）の合併により、IDCSの繰越欠損金をヤフーが引継ぎ利用。法人税、住民税および事業税の220億円の減少効果）	
	2. SBM 住民税および事業税（BBM連結納税対象外）	155
B	法人税等調整額	▲196
	(主な内訳)	
	3. BBM 連結納税グループ（繰越欠損金利用等）	139
	4. SBM 一時差異計上（主に貸倒引当金）	▲94
	5. SBM 減価償却等調整額（SBM連結時全面時価評価に伴うものの調整）	113
	6. SBB 繰延税金資産の計上	▲291
	（SBBの収益性の安定、繰越欠損金残高の重要性の低下により、繰延税金資産の回収可能性が高まったため計上）	
	税金費用合計(A+B)	197

税率差異

<P/L-8>

主な税率差異要因

	率(%)	金額(億円)
税金等調整前当期純利益		1,073
法定実効税率	40.7%	436
(主な税率差異要因)		
・ のれん償却 (主にSBM)	22.8%	244
・ 評価性引当額の減少		
1. SBB繰延税金資産計上 <small>(SBBの収益性の安定、繰越欠損金残高の重要性の低下により、繰延税金資産の回収可能性が高まったため計上)</small>	▲31.2%	▲334
2. ヤフーとIDCSの合併 <small>(ヤフーとIDCSの合併により、IDCSで繰延税金資産計上をしていなかった繰越欠損金を利用したため)</small>	▲20.6%	▲220
3. その他の評価性引当額の減少	▲1.7%	▲20
・ その他	8.4%	91
法人税等の負担率	18.4%	197

繰越欠損金 (2009年3月末)

<P/L-9>

<億円>

会社名	前期末残高 〔課税所得 ベース〕	当期発生 〔課税所得 ベース〕	当期使用額 〔課税所得 ベース〕	その他増減	当期末残高 (課税所得ベース)	繰延税金資産 (税額ベース)	有効期限
BBモバイル	1,202	-	▲430	-	771	314	2015年3月～2016年3月
ソフトバンクテレコム	828	26	-	-	855	359	2013年3月～2016年3月
ソフトバンクIDC(注)	665	-	▲665	-	-	-	
ソフトバンクBB	670	-	▲436	-	234	95	2013年3月
その他	1,083	897	▲350	▲338	1,291	505	2010年3月～2016年3月
全社合計	4,451	924	▲1,884	▲338	3,153	1,273	

評価性引当額 **▲891**

繰越欠損金に係る繰延税金資産B/S計上額 (全社合計) **382**

(注) ソフトバンクIDC (平成21年2月2日付けでソフトバンクIDCソリューションズへ商号変更) は、平成21年3月30日付でヤフーを存続会社とする吸収合併により消滅しました。

連結B/S增減分析

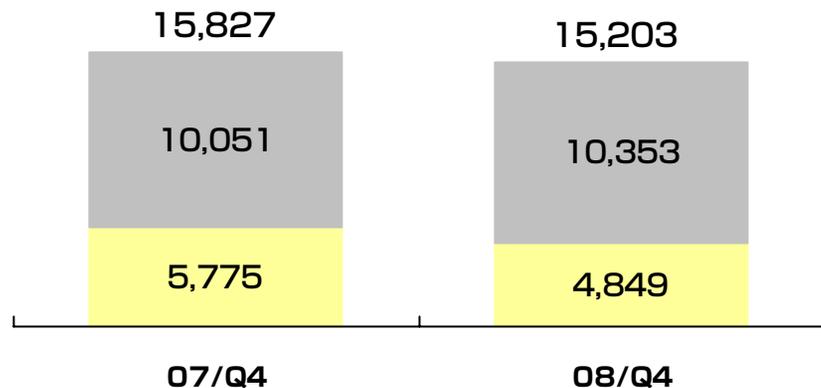
連結B/S 総括

<B/S-1>

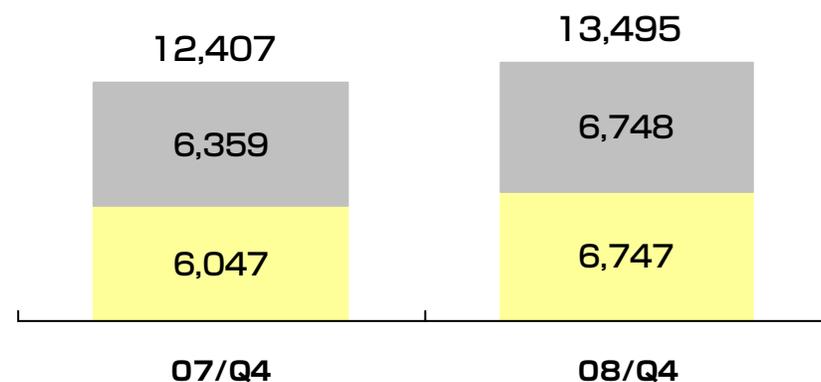
■ SBM ■ SBM以外

<億円>

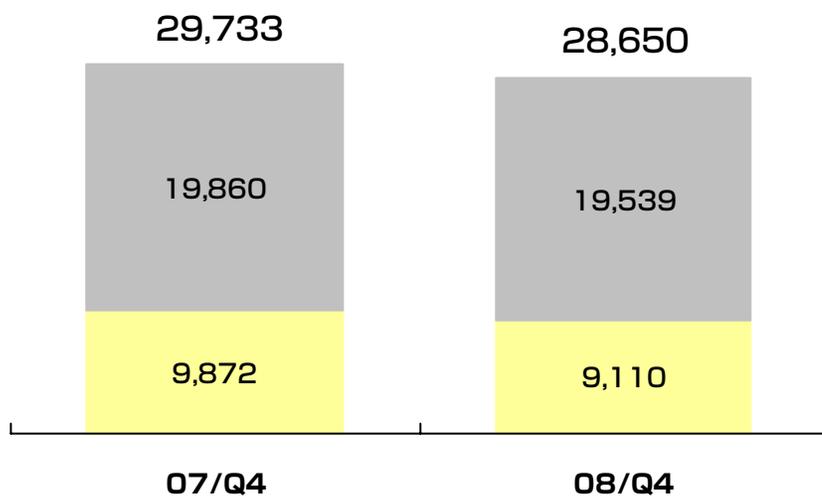
流動資産



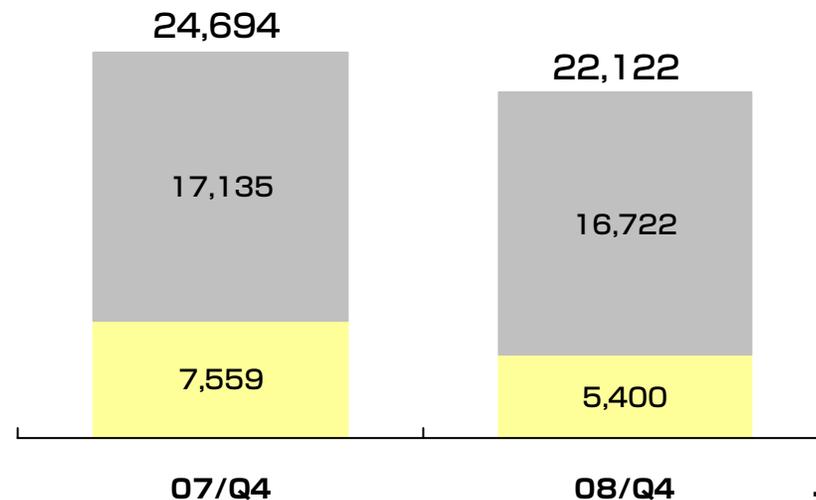
流動負債



固定資産



固定負債



連結B/S (1) 流動資産

<B/S-2>

<億円>

資産	07/Q4	08/Q4	増減	摘要
流動資産	15,827	15,203	▲624	
SBM	10,051	10,353	301	
その他	5,775	4,849	▲925	
現金及び預金	4,911	4,579	▲332	
SBM	2,369	2,666	296	営業活動による増加 (+3,014) 割賦債権流動化 (調達+2,097、返済▲2,068) 新規取得設備のリース化による調達 (入金+837、返済▲806) 固定資産取得による支出 (▲1,811) SBM借入返済 (▲916)
その他	2,541	1,913	▲628	SB単体：08/3末 (578) →09/3末 (939) 内訳/借入金 (+1,344)、投資有価証券売却 (+458) 社債償還 (第20回SB(▲125)、第21回SB (▲200) 第23回SB (▲200) 2015年満期CB (▲500)) 利息の支払い (▲240) OPI等株式取得 (▲229) 配当支払 (▲26) ヤフー：08/3末 (972) →09/3末 (164) 内訳/営業活動による増加 (+832※法人税等支払 (▲537) 後) 自己株式取得 (▲820)、借入金返済 (▲200) 固定資産取得 (▲98) 配当支払 (▲62)
受取手形及び売掛金	8,877	8,580	▲296	
SBM	6,830	6,827	▲3	携帯電話端末の割賦売掛金 08/3末 (4,795) →09/3末 (4,878) 通信収入等売掛金 08/3末 (1,316) →09/3末 (1,235) 携帯電話端末販売 (代理店向け) 08/3末 (678) →09/3末 (664)
その他	2,046	1,753	▲293	SBB : 08/3末 (891) →09/3末 (688) SBTM : 08/3末 (668) →09/3末 (545)
商品及び製品	581	423	▲157	
SBM	462	323	▲139	携帯電話端末など
その他	118	100	▲18	
繰延税金資産	1,058	930	▲128	
SBM	521	425	▲96	
その他	537	505	▲32	
その他	1,082	1,177	95	
SBM	469	523	53	未収入金 08/3末 (241) →09/3末 (230)
その他	612	654	41	
貸倒引当金	▲683	▲488	195	
SBM	▲601	▲411	190	長期貸倒引当金へ振替 (+482)
その他	▲81	▲77	4	

連結B/S (2) 有形固定資産

<B/S-3>

<億円>

資産	07/Q4	08/Q4	増減	摘要
固定資産	29,733	28,650	▲ 1,083	
SBM	19,860	19,539	▲ 320	
その他	9,872	9,110	▲ 762	
有形固定資産	10,292	10,009	▲ 283	
SBM	6,929	6,971	41	
その他	3,362	3,038	▲ 324	
建物及び構築物	757	715	▲ 42	
SBM	315	294	▲ 21	ネットワークセンターなど
その他	442	421	▲ 20	SBTM : 08/3末 (289) →09/3末 (268)
通信機械設備	7,440	7,389	▲ 50	
SBM	5,914	6,040	126	
その他	1,525	1,348	▲ 176	SBTM : 08/3末 (1,049) →09/3末 (1,024) SBB : 08/3末 (445) →09/3末 (277)
通信線路設備	860	796	▲ 64	
SBM	93	89	▲ 4	
その他	766	706	▲ 60	SBTM : 08/3末 (766) →09/3末 (706)
土地	234	225	▲ 8	
SBM	107	108	0	
その他	126	117	▲ 9	SBTM : 08/3末 (71) →09/3末 (62)
建設仮勘定	455	374	▲ 80	
SBM	210	173	▲ 37	
その他	244	201	▲ 43	
その他	543	507	▲ 36	
SBM	286	264	▲ 22	
その他	256	242	▲ 14	

連結B/S (3) 無形固定資産

<B/S-4>

<億円>

資産	07/Q4	08/Q4	増減	摘要
無形固定資産	12,383	12,221	▲ 162	
SBM	11,196	10,774	▲ 421	
その他	1,186	1,446	259	
のれん	9,744	9,567	▲ 177	
SBM	9,299	8,785	▲ 514	償却による減少
その他	444	781	337	ソフトバンクテレコムパートナーズ (+198)、ヤフー (+189)
ソフトウェア	2,241	2,261	19	
SBM	1,826	1,897	71	
その他	415	363	▲ 52	
その他	396	392	▲ 4	
SBM	70	91	21	
その他	326	300	▲ 25	
投資その他の資産	7,057	6,419	▲ 637	
SBM	1,734	1,793	59	
その他	5,323	4,626	▲ 697	
投資有価証券	4,649	3,201	▲ 1,448	
SBM	31	17	▲ 14	
その他	4,618	3,183	▲ 1,434	Yahoo! Inc.株価下落など
繰延税金資産	1,268	1,582	313	
SBM	1,198	1,285	87	
その他	70	296	226	
その他	1,184	2,007	822	
SBM	503	810	306	売掛金より振替 (+319) (貸倒処理による相殺後)
その他	681	1,197	516	SBH:デリバティブ資産 (+439)
貸倒引当金 (長期)	▲46	▲371	▲324	
SBM	-	▲319	▲319	短期より振替 (▲319) (貸倒処理による相殺後)
その他	▲46	▲51	▲4	
繰延資産	28	13	▲ 14	
SBM	-	-	-	
その他	28	13	▲ 14	

・当期 ヤフーの自己株式取得による計上
金額：196億円 償却期間：20年

08年4月 子会社化による計上
金額：220億円 償却期間：10年

連結B/S (4) 流動負債

<B/S-5>

<億円>

負債	07/Q4	08/Q4	増減	摘要
流動負債	12,407	13,495	1,088	
SBM	6,359	6,748	388	
その他	6,047	6,747	699	
支払手形及び買掛金	1,872	1,603	▲ 269	
SBM	1,133	1,005	▲ 128	携帯電話端末仕入債務の支払いなど
その他	738	598	▲ 140	SBB : 08/3末 (452) → 09/3末 (383) SBTM : 08/3末 (85) → 09/3末 (55)
短期借入金	4,485	5,755	1,269	
SBM	1,659	1,857	197	割賦債権流動化スキーム一年内借入金 (+197)
その他	2,825	3,897	1,071	SB単体 : 08/3末 (2,180) → 09/3末 (3,360) SBTM : 08/3末 (320) → 09/3末 (209) ヤフー : 08/3末 (200) → 09/3末 (200)
1年内償還予定の社債	525	640	114	
SBM	-	-	-	
その他	525	640	114	SB単体 : 償還 (第20回SB▲125、第21回SB▲200、 第23回SB▲200) 長期からの振替え (第19回SB+190) SBTM:長期から振替え (+450)
未払金及び未払費用	3,644	3,521	▲ 122	
SBM	2,623	2,688	64	主に設備、経費の未払
その他	1,021	833	▲ 187	SBB : 08/3末 (307) → 09/3末 (179) SBTM : 08/3末 (374) → 09/3末 (334)
リース債務	697	882	184	
SBM	697	867	169	長期からの振替え (+975)、リース料支払い(▲806)
その他	0	15	15	
その他	1,180	1,092	▲ 87	
SBM	245	331	85	
その他	935	761	▲ 173	

新リース会計基準の処理。2008年4月1日より前の取引については引き続き賃貸借処理で注記対応

連結B/S (5) 固定負債

<B/S-6>

<億円>

負債	07/Q4	08/Q4	増減	摘要
固定負債	24,694	22,122	▲ 2,571	
SBM	17,135	16,722	▲ 412	
その他	7,559	5,400	▲ 2,158	
社債	4,452	3,245	▲ 1,206	
SBM	-	-	-	
その他	4,452	3,245	▲ 1,206	SB単体:2015年満期CB繰上償還(▲500)、2013年満期SB買入償還(▲55) SBTM:1年内償還予定社債へ振替え(▲450)
長期借入金	15,866	14,362	▲ 1,503	
SBM	14,142	13,057	▲ 1,085	SBM借入 08/3末(12,764)→09/3末(11,848) ポーダフォン劣後ローン 08/3末(845)→09/3末(845) 割賦債権流動化による借入 08/3末(532)→09/3末(362)
その他	1,724	1,305	▲ 418	SB単体: 08/3末(200)→09/3末(50) ヤフー: 08/3末(300)→09/3末(100)
繰延税金負債	419	287	▲ 131	
SBM	-	-	-	
その他	419	287	▲ 131	
ポイント引当金	438	418	▲ 19	
SBM	438	418	▲ 19	利用顧客に対するポイント割引
その他	-	-	-	リース取引についてはP20を参照
リース債務	2,414	2,333	▲ 81	
SBM	2,414	2,276	▲ 138	新規調達(+837)、一年内へ振替え(▲975)
その他	0	56	56	デット・アサンプションに係る追加信託義務(P11を参照)
その他	1,103	1,475	371	
SBM	140	970	830	長期未払金(+750)
その他	963	504	▲ 458	SBH:デリバティブ負債(▲205) SBB:長期前受収益(モテムレンタル事業証券化の前受ロイヤリティの残高) 08/3末(159)→09/3末(37)

連結B/S (6) 純資産

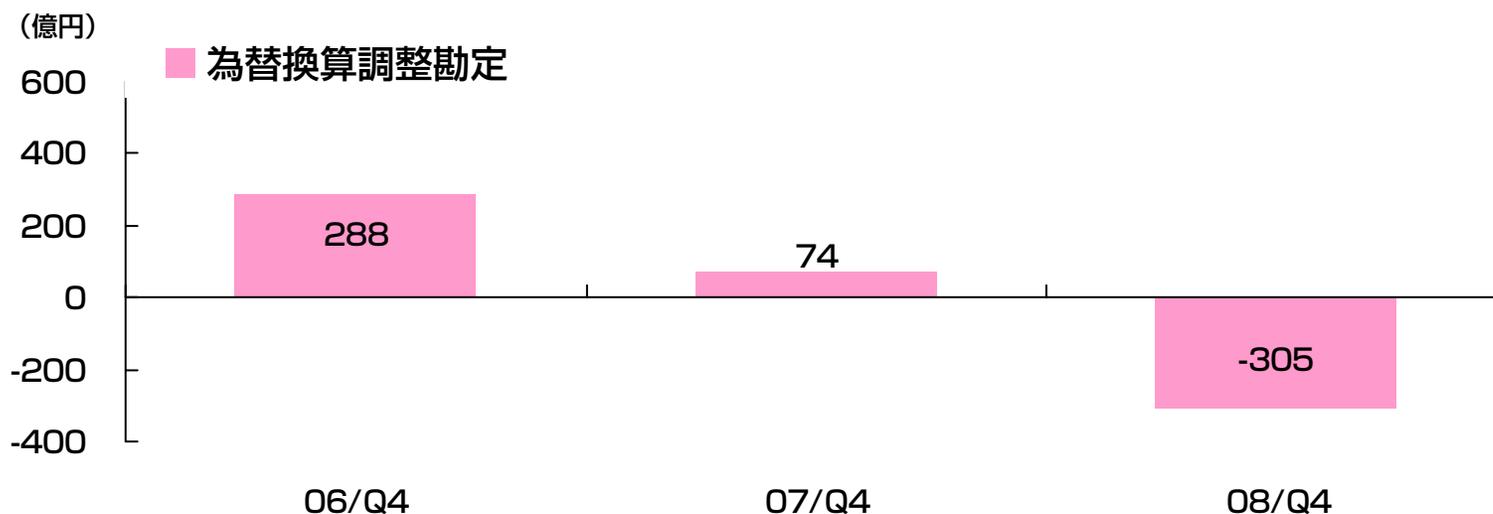
<B/S-7>

<億円>

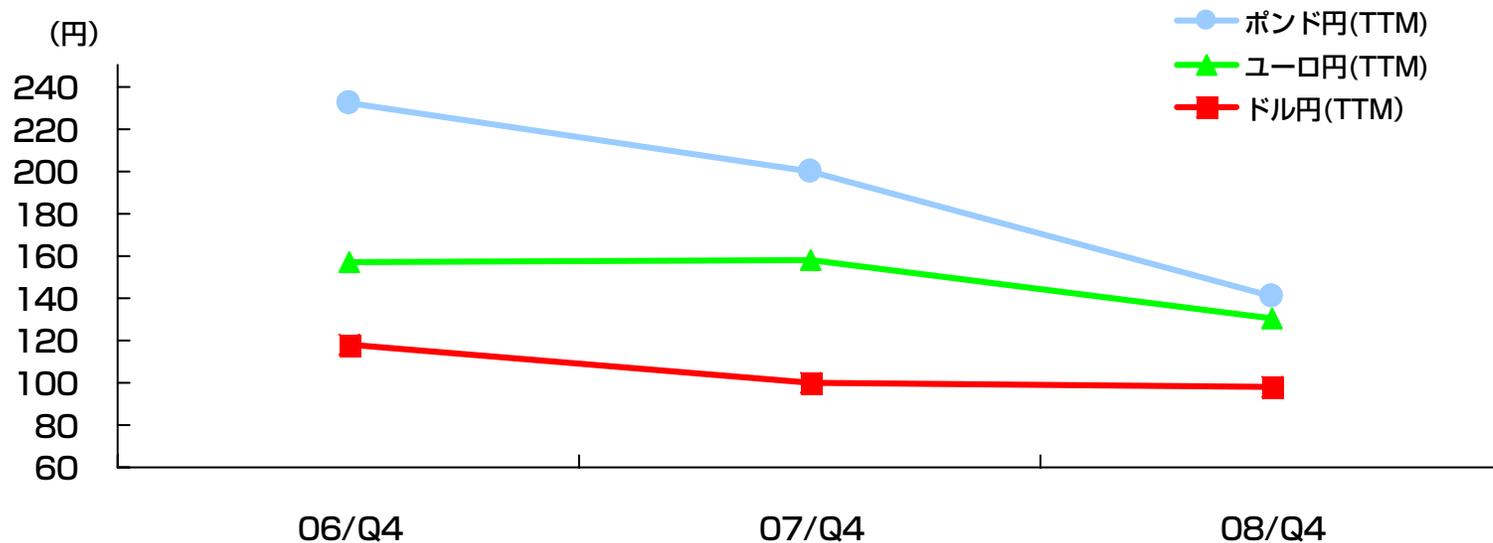
純資産	07/Q4	08/Q4	増減	摘要
純資産の部	8,487	8,247	▲ 239	
株主資本	3,072	3,481	409	
資本金	1,874	1,876	2	
資本剰余金	2,117	2,119	2	
利益剰余金	▲ 917	▲ 512	404	当期純利益 (+431)、配当支払 (▲27)
自己株式	▲ 2	▲ 2	0	
評価・換算差額等	765	258	▲ 506	
其他有価証券評価差額金	809	313	▲ 495	Yahoo! Inc.株価下落など
繰延ヘッジ損益	▲ 118	251	369	
為替換算調整勘定	74	▲ 305	▲ 379	期末の為替レートが期首より円高
新株予約権	1	2	1	
少数株主持分	4,648	4,504	▲ 144	BBM 09/3末 (3,000) ※Vodafone International Holdings B.V.に対する優先株 ヤフー 08/3末 (1,473) →09/3末 (1,322) ※ヤフーの自己株式取得に伴う減少

[純資産]為替変動による為替換算調整勘定への影響

<B/S-8>

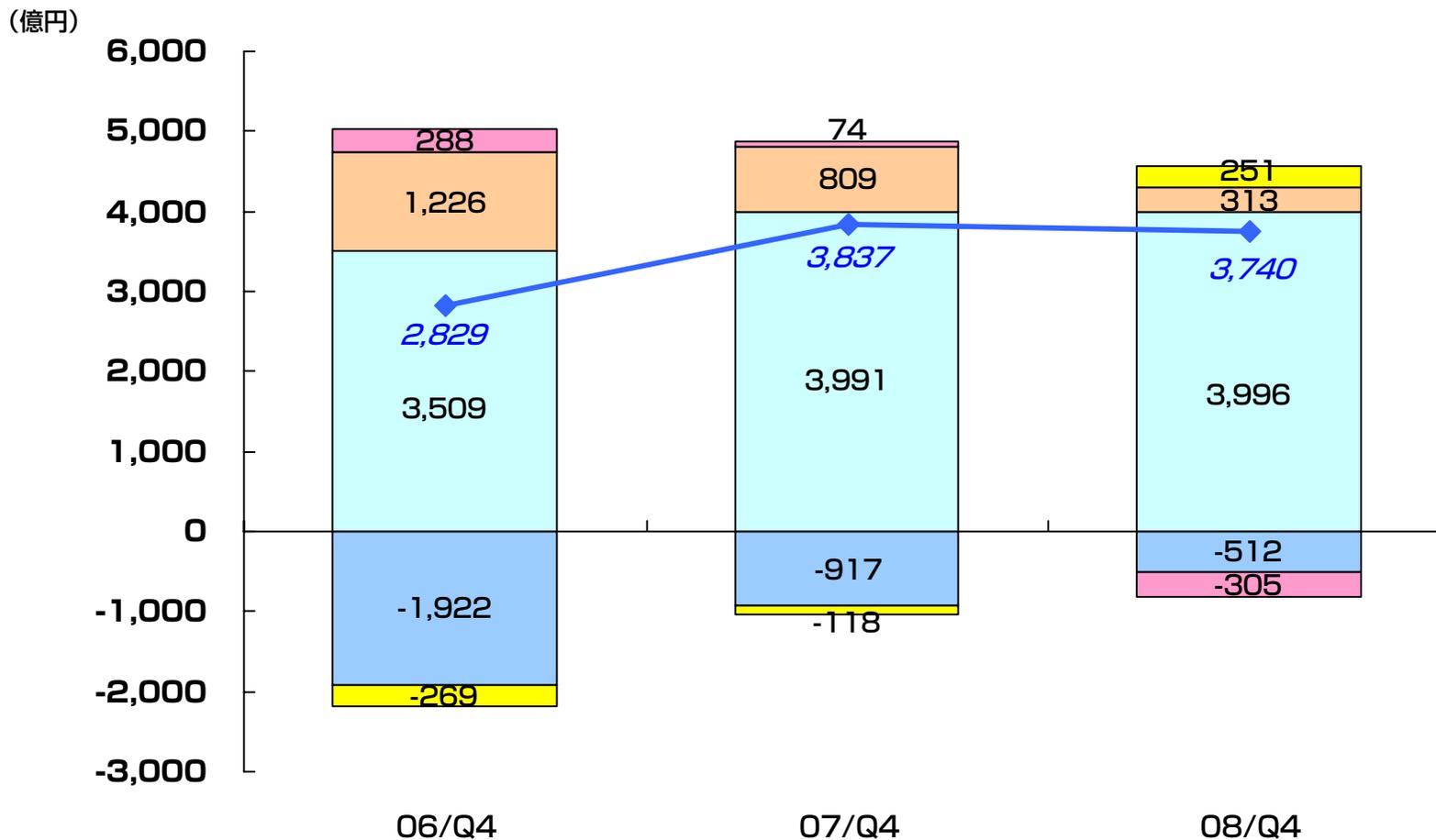
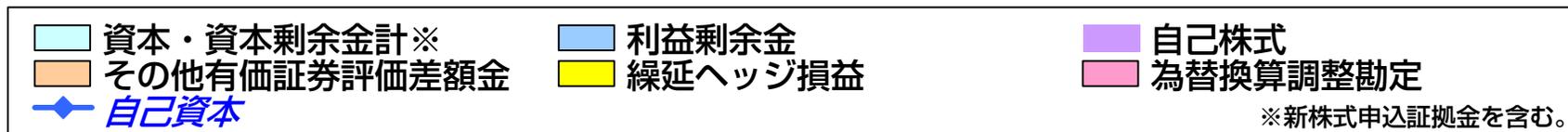


<参考> 主要な為替レートの推移



[純資産]自己資本の推移

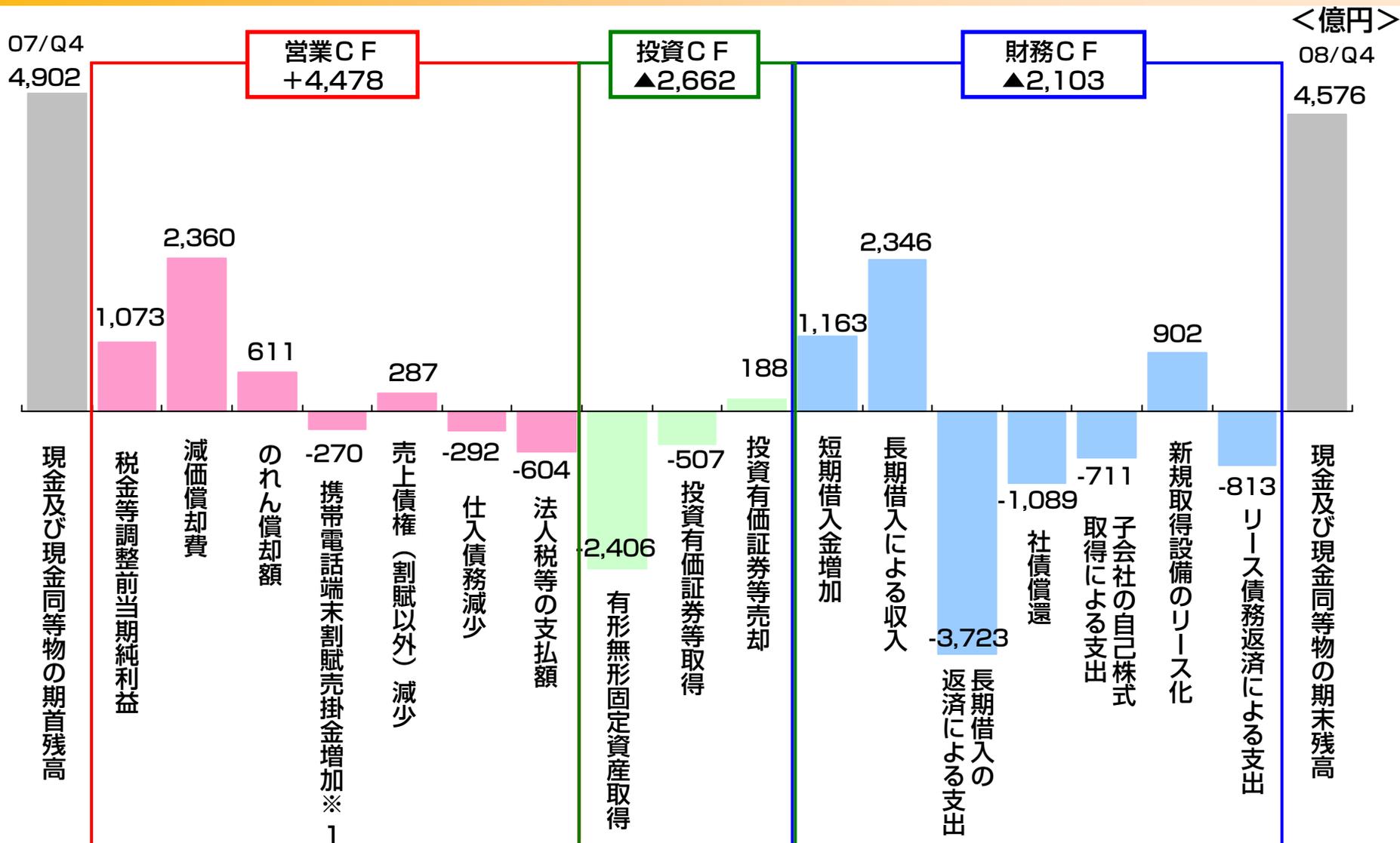
<B/S-9>



連結C/F增減分析

連結キャッシュフロー 主な内訳

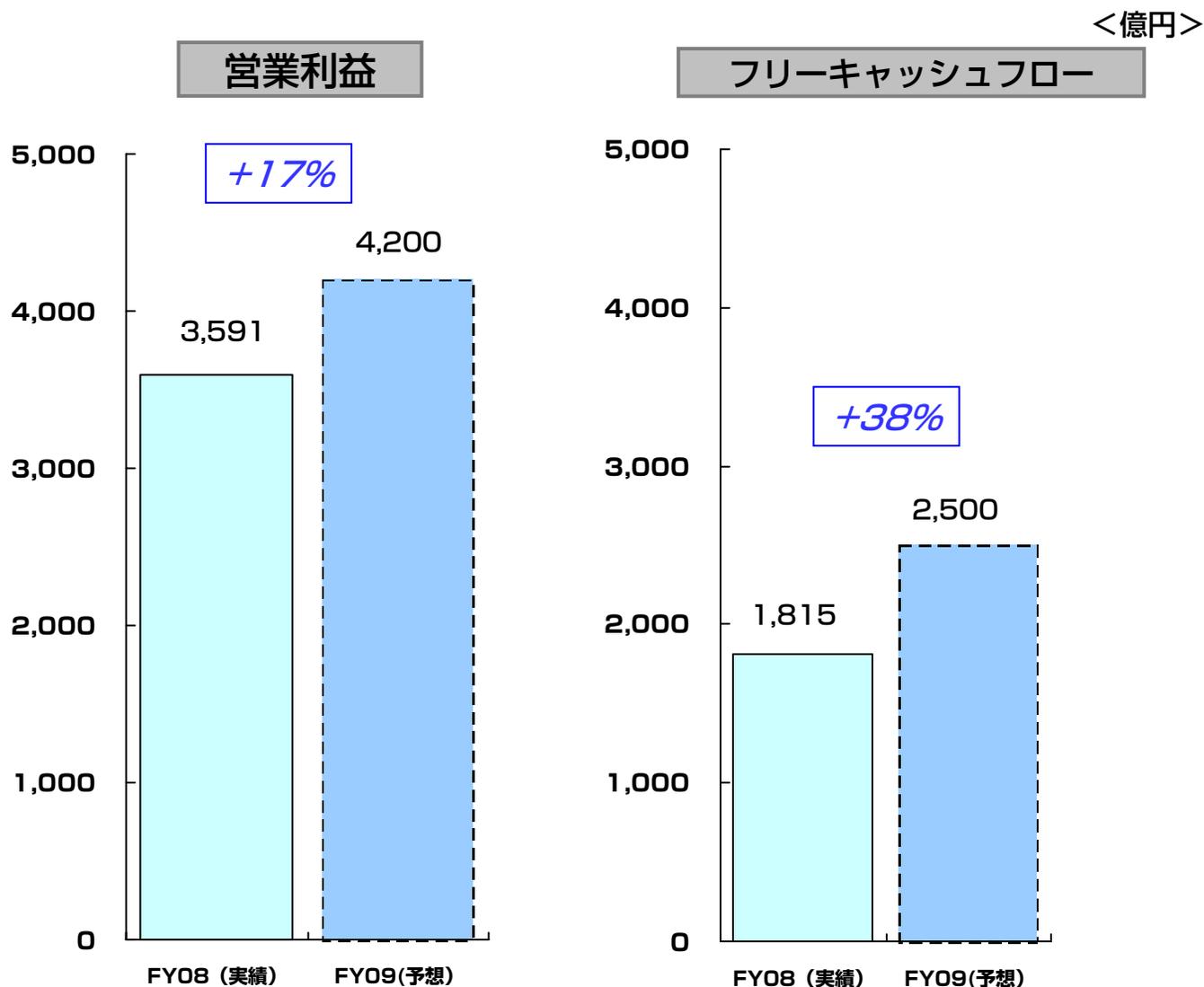
<C/F-1>



※1.(参考)前期の割賦売掛金増加による減少 (▲3,022)

※ 連結キャッシュフロー計算書に記載している項目のうち、金額の大きいものを記載しています。

連結業績の見通し



定義：フリーキャッシュフロー(FCF) = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー

連結範囲および持分法適用の範囲

	社数	主な会社名
連結子会社数	108	ソフトバンクモバイル、ソフトバンクBB、ソフトバンクテレコム、ヤフー、ソフトバンク・テクノロジー、アイティメディアなど
新たに連結子会社となった会社数	11	ソフトバンクテレコムパートナーズ（※1）、アリババなど
連結の範囲から除外された会社数	12	ブロードメディアなど
非連結子会社数 (=①+②)	65	重要性の低い小規模な会社
持分法適用非連結子会社数 ①	4	
新たに持分法適用となった会社数	1	
持分法適用関連会社数	70	ガンホー・オンライン・エンターテイメント、マイスペース、Alibaba Group Holding Limitedなど
新たに持分法適用となった会社数	15	ブロードメディアなど
持分法適用から除外された会社数	9	
持分法非適用非連結子会社数 ②	61	重要性の低い小規模な会社
持分法非適用関連会社数	20	重要性の低い小規模な会社

	連結子会社数	持分法適用会社数	主なグループ会社	主な事業内容
移動体通信事業	6	2	ソフトバンクモバイル（SBM）	携帯電話サービスの提供、携帯電話端末の販売など
ブロードバンド・インフラ事業	6	3	ソフトバンクBB（SBB）	ADSL、光ファイバーによる高速インターネット接続サービス提供など
固定通信事業	3	-	ソフトバンクテレコム（SBTM）	固定通信サービスの提供など
インターネット・カルチャー事業	17	18	ヤフー	インターネット上の広告事業など
イーコマース事業	7	4	ソフトバンクBB、ベクター、カービュー	PC向けソフトウェア、PCや周辺機器等のハードウェアの流通、電子商取引など
その他の事業	69	47	ソフトバンク・テクノロジー、アイティメディア	テクノロジー・サービス事業、メディア・マーケティング事業、海外ファンド事業など
合計	108	74		

※1：2008年7月1日に日本テレコムインボイスから商号を変更

※2：SBB、SBTM、ヤフーは複数のセグメントに属する事業を営んでいますが、SBBはブロードバンド・インフラ事業、SBTMは固定通信事業、ヤフーはインターネット・カルチャー事業の連結子会社にそれぞれ含めています。

財務編

ソフトバンク株式会社
財務部長

後藤 芳光

2008年度の財務戦略に対する成果

適正レバレッジ追求のステージへ

- ◆事業毎のFCF最大化および有利子負債の削減
- ◆各種負債系財務指標および自己資本比率の着実な改善
- ◆上記テーマの遂行の結果としての格付向上

- 2008年度FCF 1,815億円
前年比3,457億円改善
- 有利子負債削減額 1,325億円
- 有利子負債/EBITDA倍率改善
4.0(FY07) ⇒ 3.5(FY08)
- 格付は2008年度据置き

マーケット環境変化に対する機動的対応

- ◆市場毎の財務リスク極小化
- ◆多様な調達手法の確保と環境に応じた最適選択
- ◆目的別及び事業主体別の調達コストの適正化

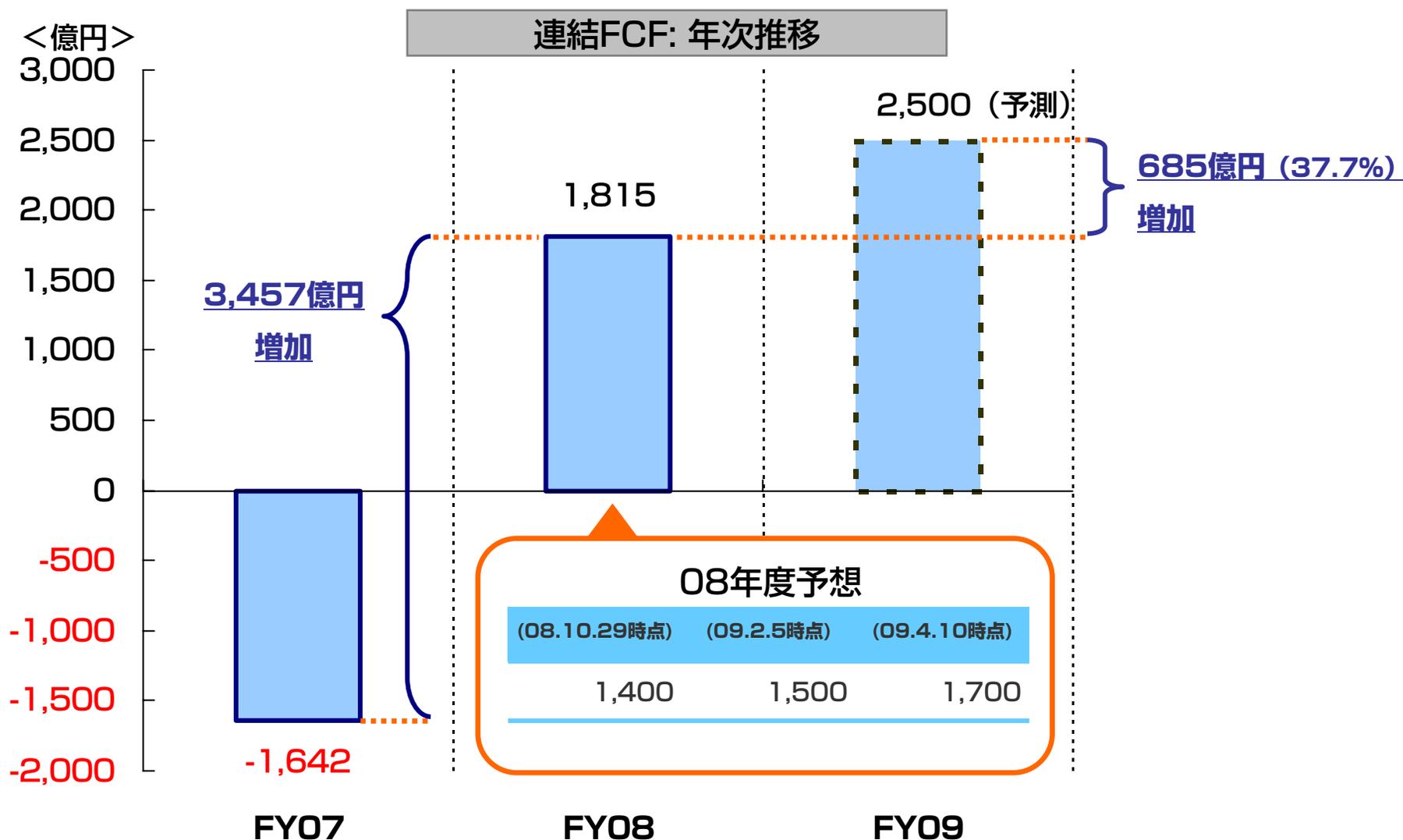
- 割賦債権流動化による調達
2,096億円
- コミットメントライン増額更改
2,010億円
- 旧ボーダフォン公募社債にかかる
信用補完 750億円(社債元本相当額)

事業拡大スピードをカバーできるトップレベルのIR

- ◆四半期毎に国内、海外におけるIRミーティングを積極継続
- ◆すべての投資家層へのアプローチ
- ◆デット、エクイティ両方のマーケットの要請に徹底対応

- 業績予想の開示
- FCFのコミットメント
2008年度 1,400億円 (08.10.29時点)
2009年度 2,500億円

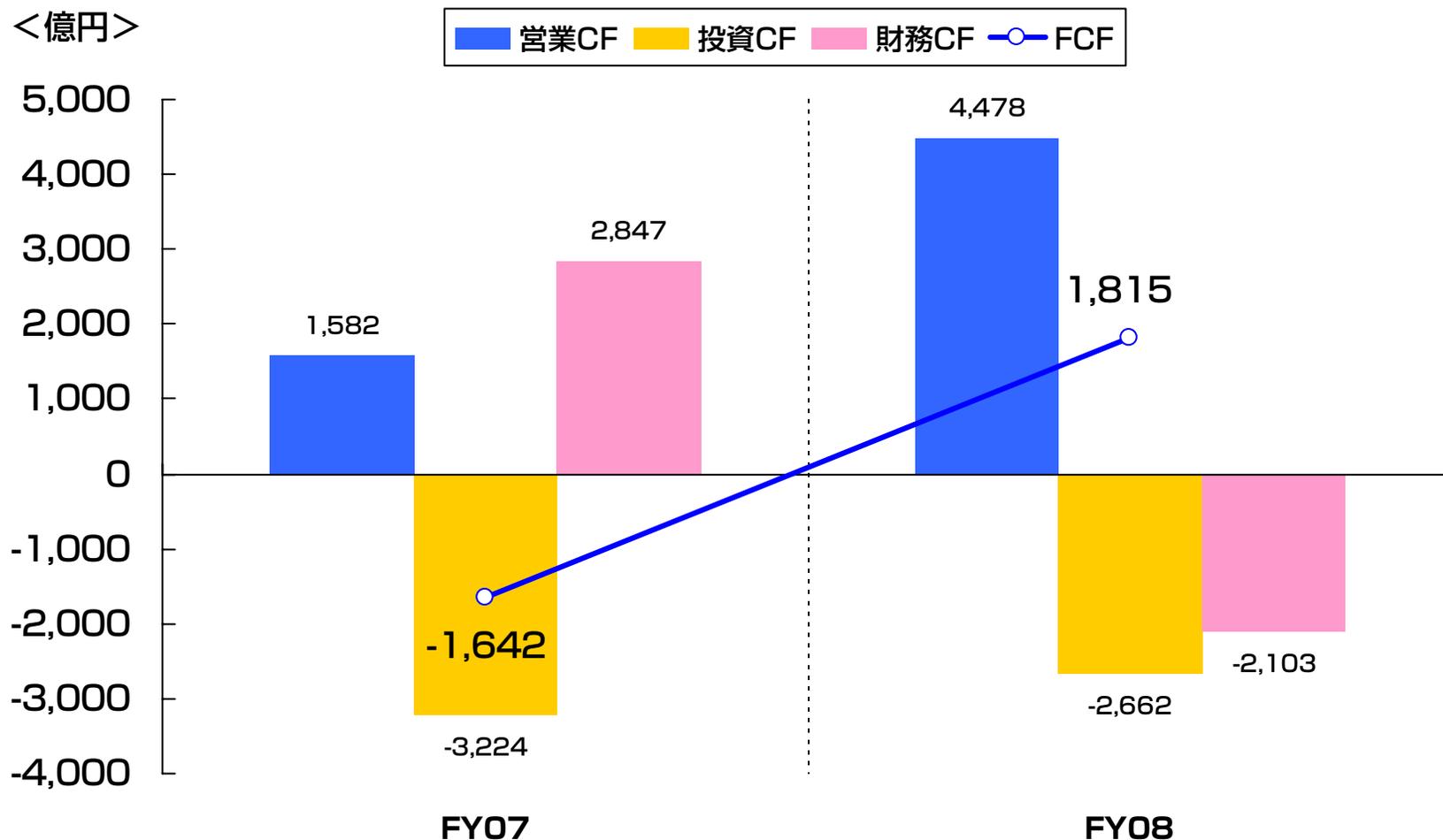
フリーキャッシュフロー実績／予想



定義：フリーキャッシュフロー(FCF) = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー

キャッシュフローの推移

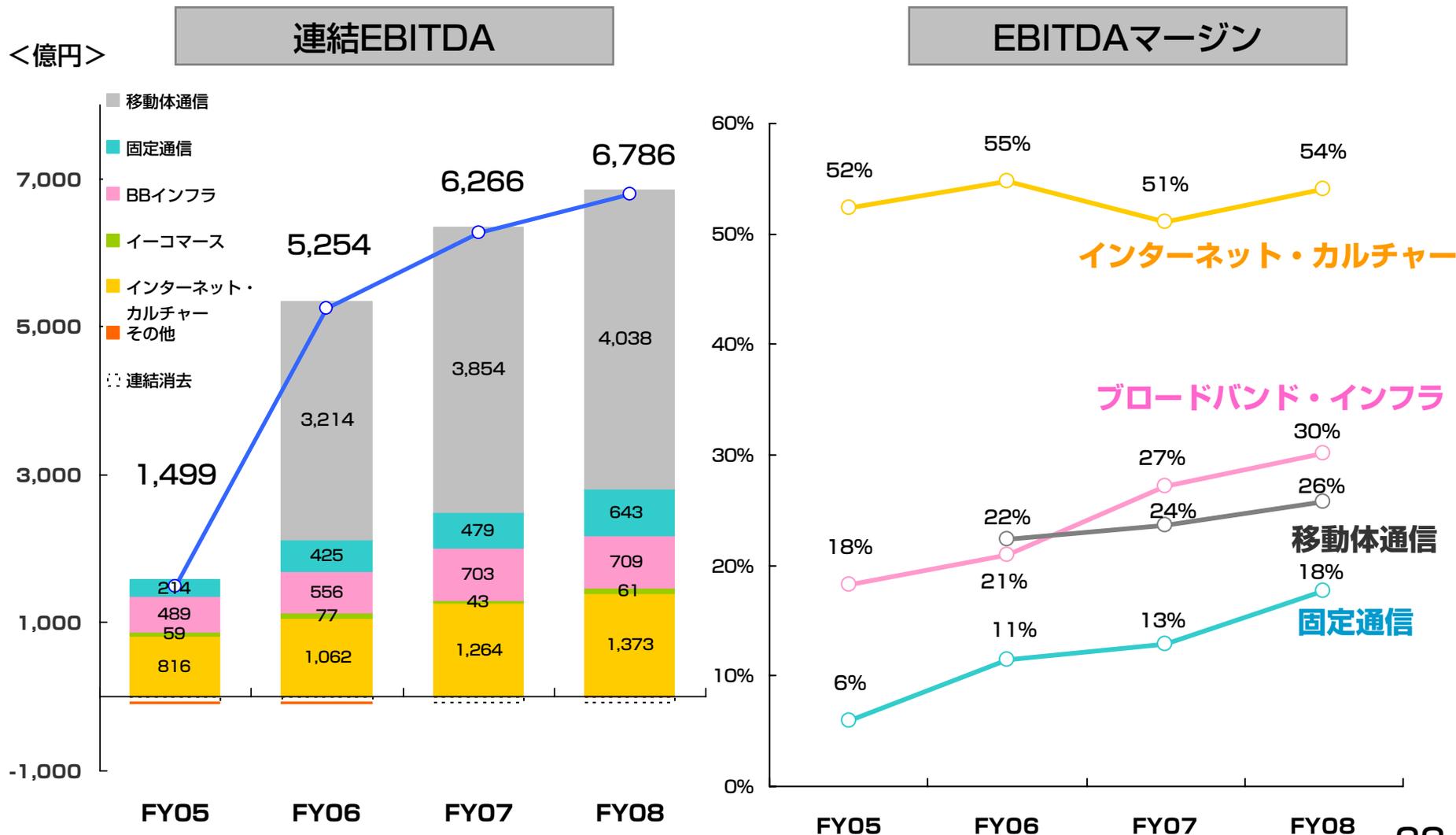
連結CF: 年次推移



定義：フリーキャッシュフロー(FCF) = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー

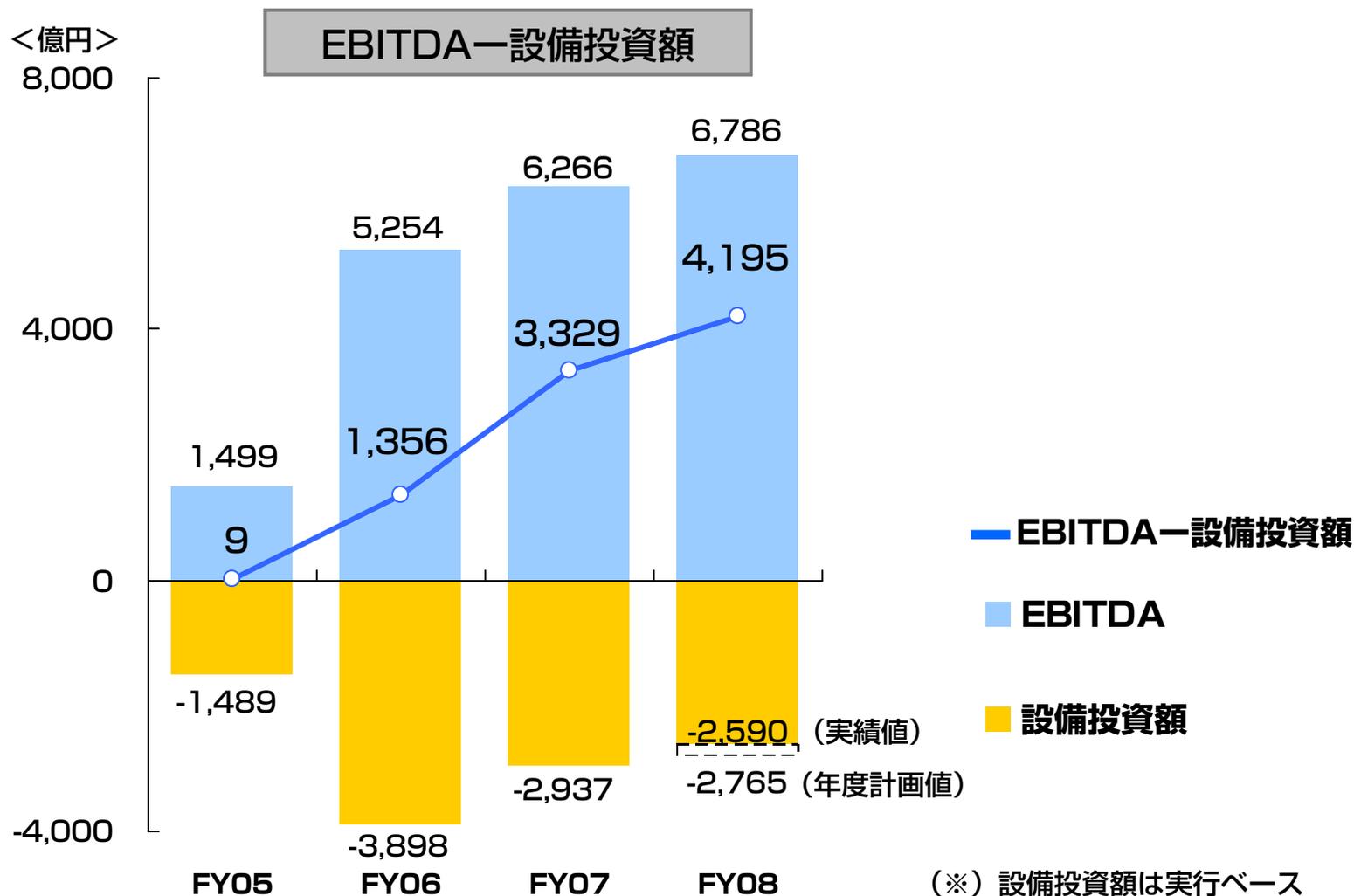
EBITDA・EBITDAマージン（セグメント別）

■各セグメントともにEBITDAは着実に成長



EBITDA－設備投資額

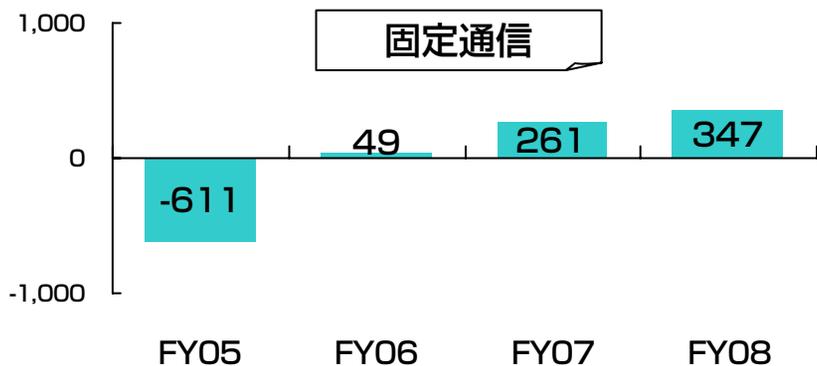
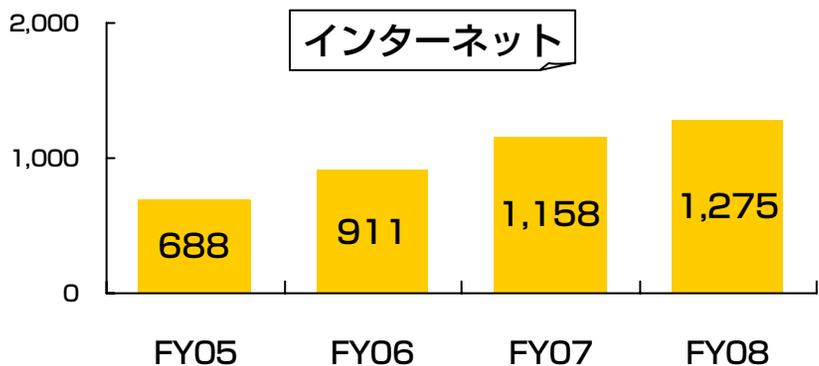
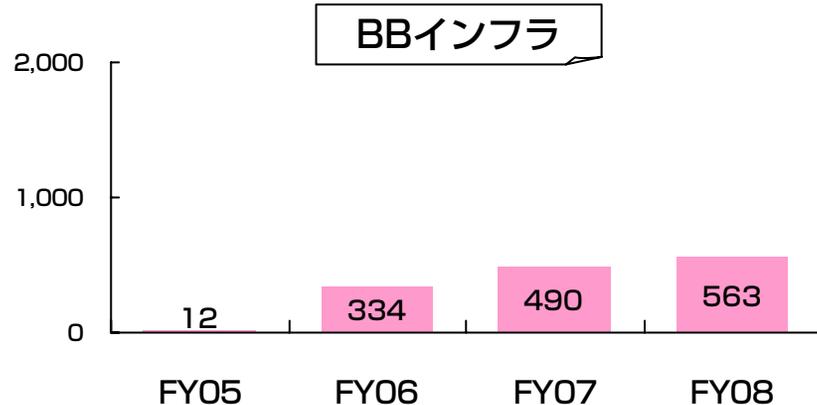
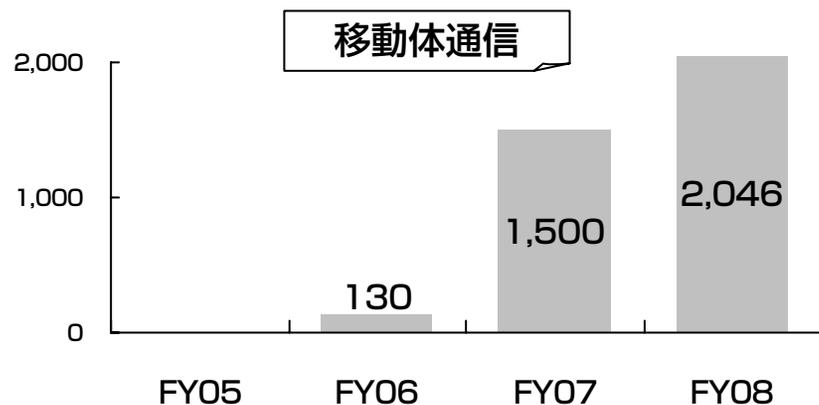
EBITDAの拡大と設備投資の一巡により着実に増加



EBITDA－設備投資額（主要セグメント別）

EBITDA－設備投資額

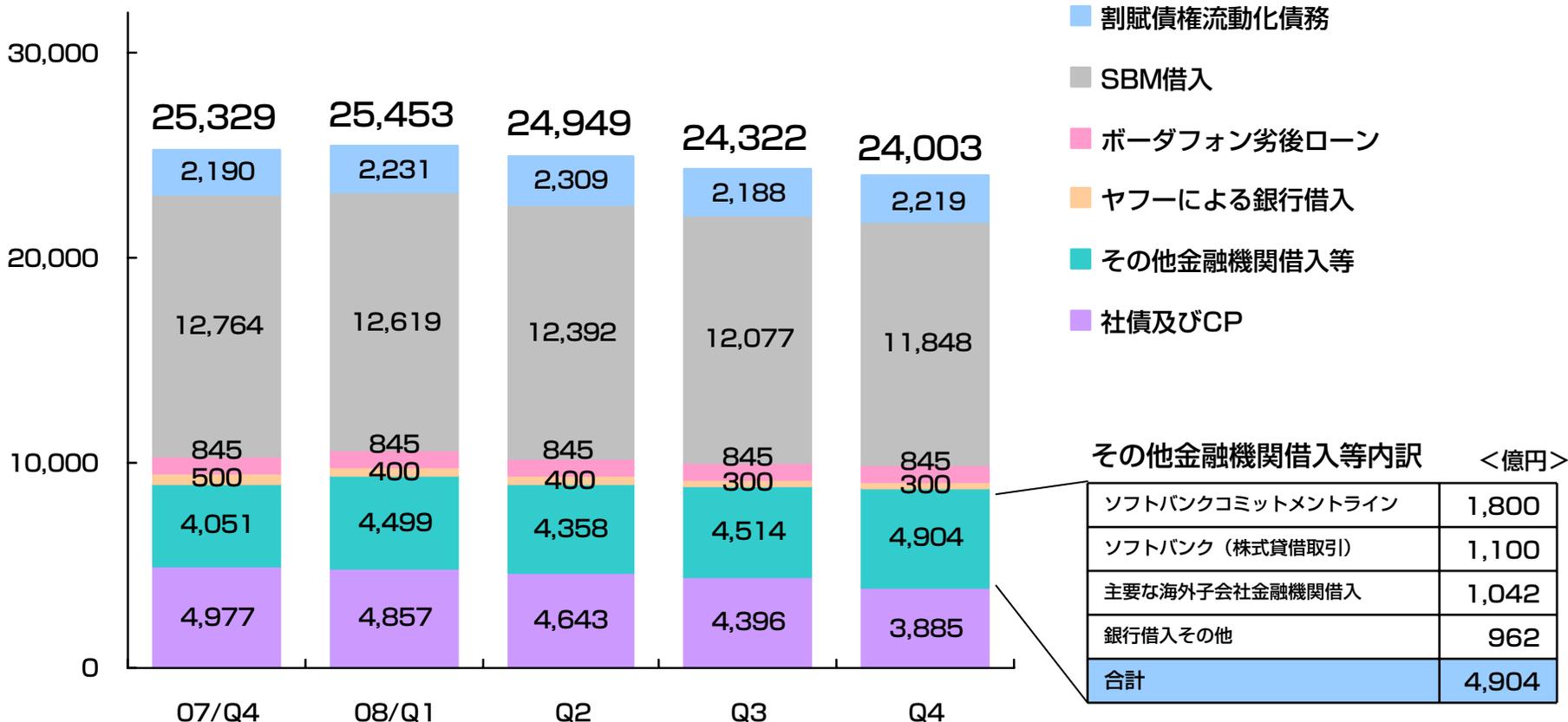
<億円>



有利子負債（調達手段別）

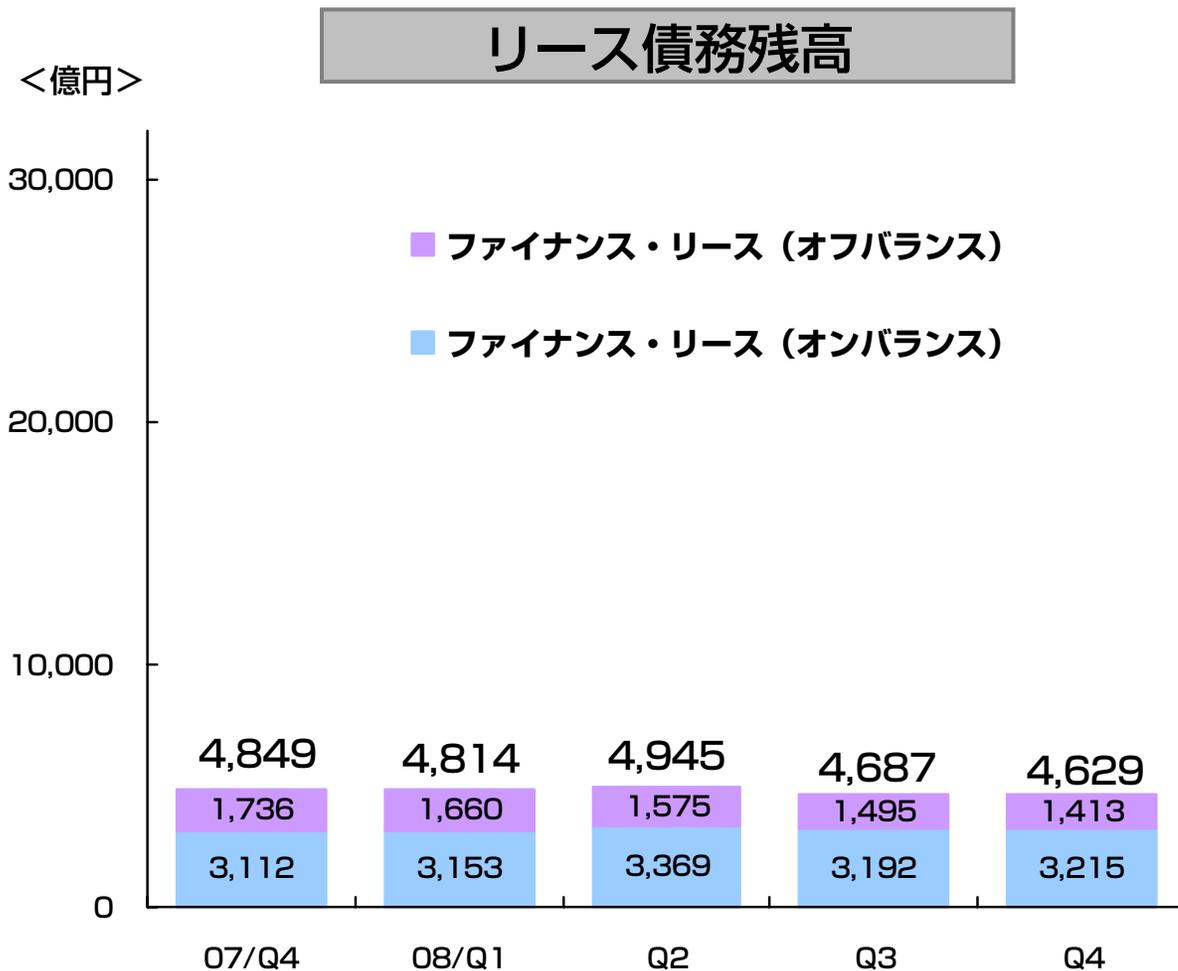
有利子負債

<億円>



(※)有利子負債にはリース債務は含んでおりません。リース債務は次ページをご参照ください。

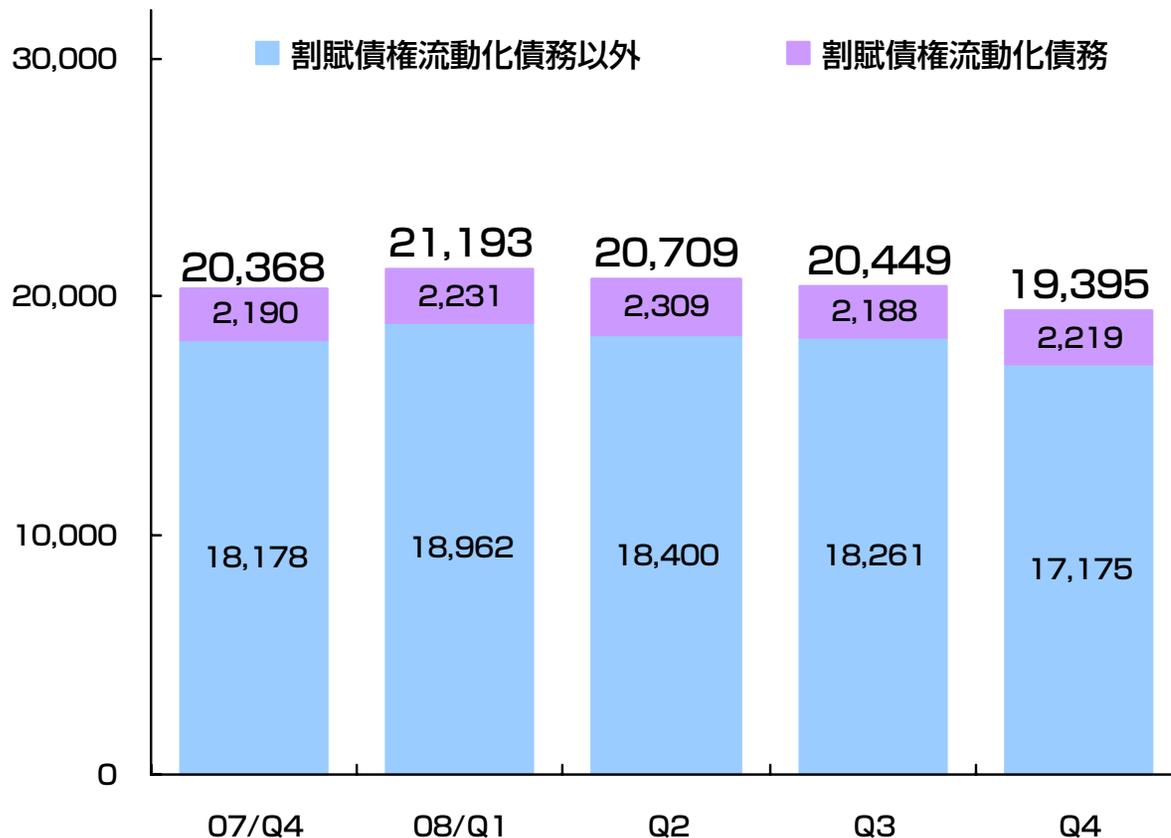
リース債務残高



純有利子負債残高

純有利子負債

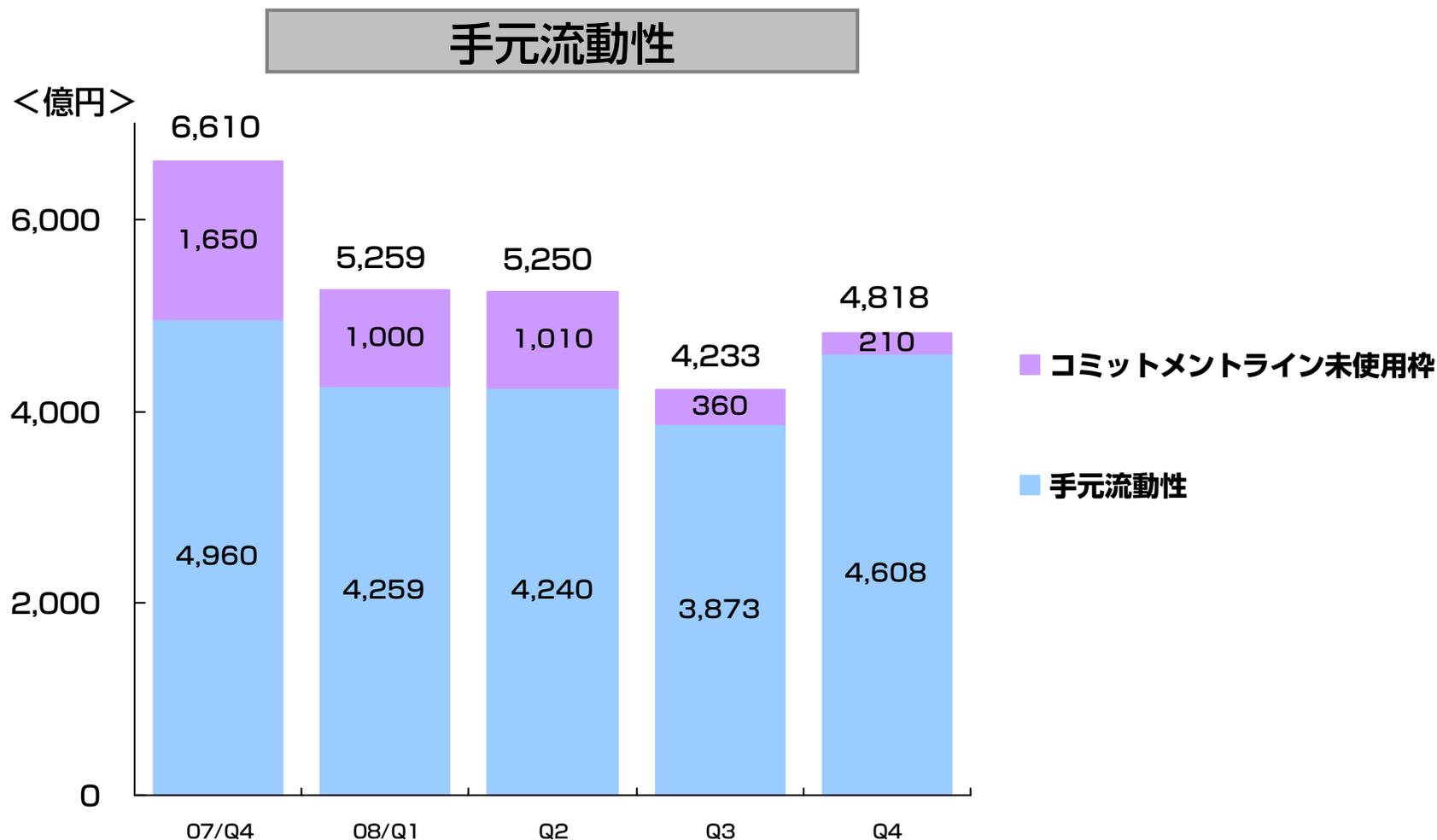
<億円>



定義：純有利子負債＝有利子負債－手元流動性

(※)有利子負債にはリース債務は含んでおりません。

手元流動性

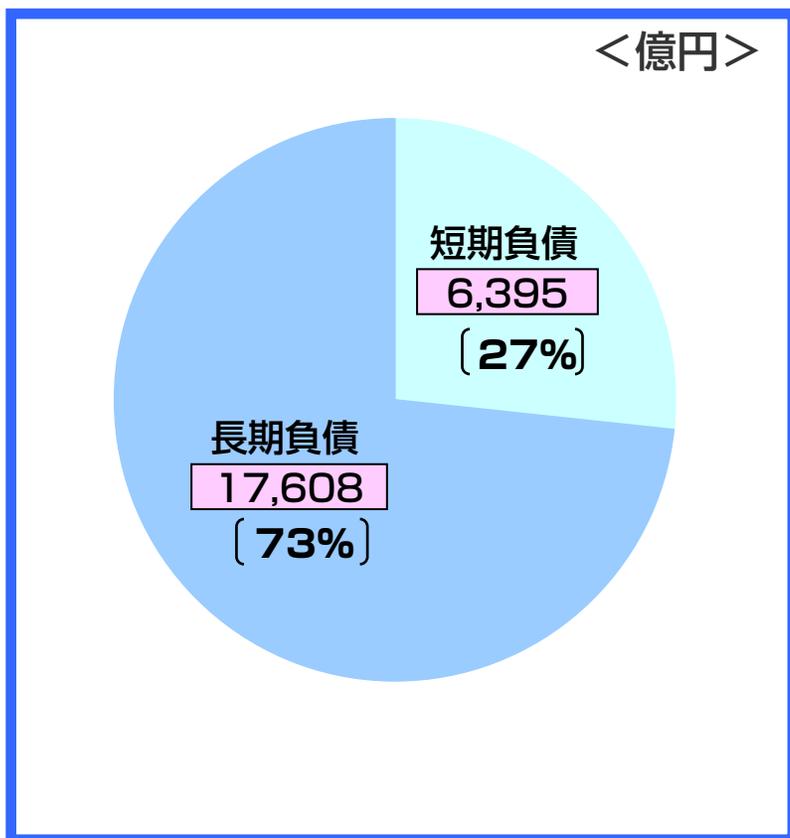


定義：手元流動性＝現預金及び流動性有価証券

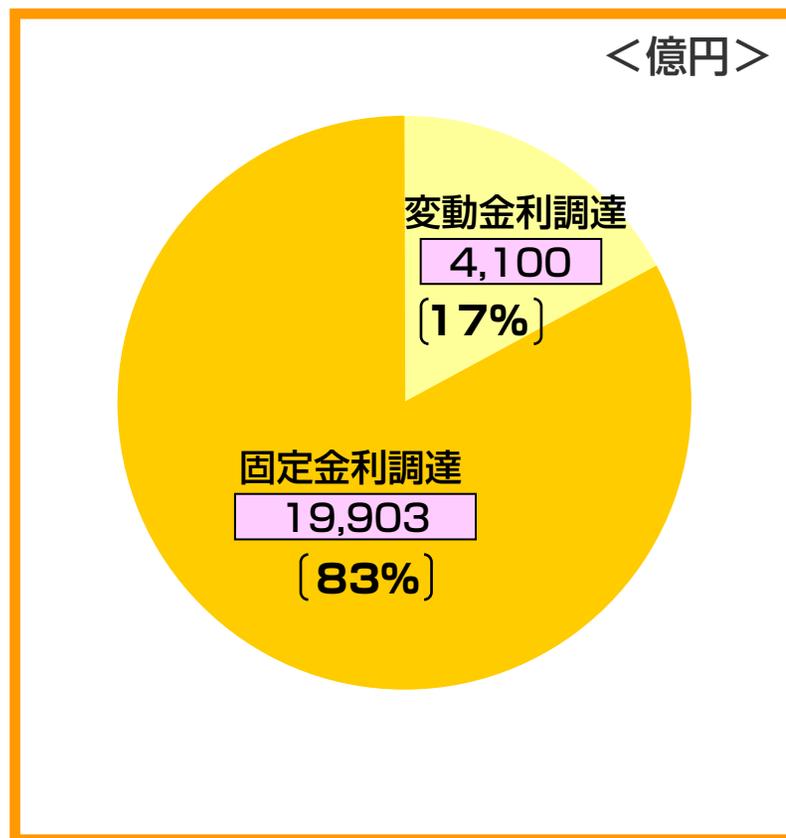
コミットメントライン未使用枠＝コミットメントライン枠総額－コミットメントライン借入額

有利子負債の長短・固定変動比率(09年3月末)

有利子負債
長短比率



有利子負債
固定変動比率



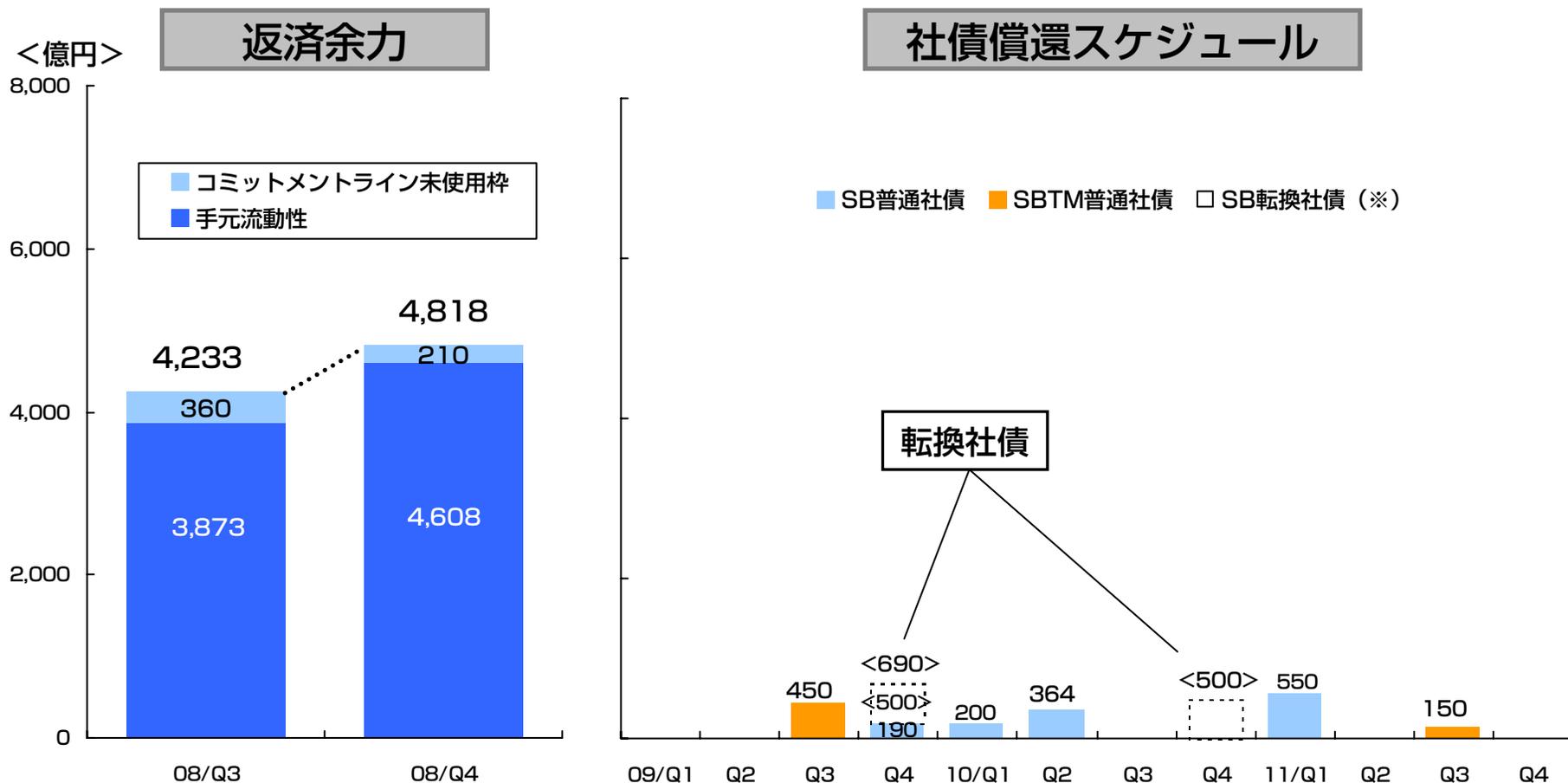
1年内返済債務の内訳（09年3月末）

短期借入金	3,212	<億円>
コミットメントライン（SB）	1,800	
株式貸借取引に係る預り担保金	1,100	
銀行借入（SB）	260	
その他	52	
1年内長期借入金	2,542	
割賦債権流動化債務（SBM）	1,856	
銀行借入（SBTM）	200	
銀行借入（SB）	200	
銀行借入（ヤフー）	200	
その他	86	
1年内償還社債	640	
普通社債（SB）	190	
普通社債（SBTM）	450	
合計	6,395	

(※) 2013年満期の新株予約権付転換社債500億円については、2010年3月期第4四半期において、債券保有者のプットオプション行使による繰上償還の可能性があります。

社債償還スケジュール

■社債償還スケジュールに対して十分な返済余力を保有



(※) 2013年満期転換社債、2014年満期転換社債につきましては、債券保有者の請求により、それぞれ2010年3月、2011年3月に繰上償還の可能性があります。また一定の条件を満たした場合、当社の請求による繰上償還の可能性があります。上表では債券保有者によるプットオプションが行使された場合を想定しております。

社債明細表

(単位：百万円)

会社名	銘柄	発行年月日	償還期限	利率 (%、年)	担保	08年3月末	08年6月末	08年9月末	08年12月末	09年3月末	対前四半期末 比
ソフトバンク	第20回無担保普通社債 (第1回福岡ソフトバンクホークス社債 ^(*))	2005年6月9日	2008年6月9日	1.41	なし	12,500	-	-	-	-	-
	第21回無担保普通社債	2005年9月14日	2008年9月12日	1.17	なし	20,000	20,000	-	-	-	-
	第23回無担保普通社債 (第2回福岡ソフトバンクホークス社債 ^(*))	2005年11月29日	2008年11月28日	1.36	なし	20,000	20,000	20,000	-	-	-
	第19回無担保普通社債	2005年1月31日	2010年1月29日	1.97	なし	19,000	19,000	19,000	19,000	19,000	-
	第24回無担保普通社債 (第3回福岡ソフトバンクホークス社債 ^(*))	2007年4月26日	2010年4月26日	2.72	なし	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	-
	第22回無担保普通社債	2005年9月14日	2010年9月14日	1.98	なし	36,400	36,400	36,400	36,400	36,400	-
	第25回無担保普通社債	2007年6月19日	2011年6月17日	3.39	なし	55,000	55,000	55,000	55,000	53,900	-1,100
	2013年満期ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債 ^(※1)	2003年12月30日	2013年3月31日	1.50	なし	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	-
	2013年満期ユーロ円建普通社債 ^(※2)	2006年10月12日	2013年10月15日	7.75	なし	57,311 (425Mユーロ)	55,799 (415Mユーロ)	54,457 (408Mユーロ)	51,755 (388Mユーロ)	51,766 (388Mユーロ)	11
	2014年満期ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債 ^(※1)	2003年12月30日	2014年3月31日	1.75	なし	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	-
	第26回無担保普通社債	2007年6月19日	2014年6月19日	4.36	なし	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	-
2015年満期ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債 ^(※1)	2003年12月30日	2015年3月31日	2.00	なし	50,000	50,000	50,000	50,000	-	-50,000	
ソフトバンクテレコム	第1回無担保普通社債	2004年12月7日	2009年12月7日	2.00	なし	45,000	45,000	45,000	45,000	45,000	-
	第2回無担保普通社債	2004年12月7日	2011年12月7日	2.88	なし	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	-
Phoenix JT	Subordinated Notes Due 2016	2004年12月24日	2016年12月15日	5.95	なし	32,400	32,400	32,400	32,400	32,400	-
その他の社債	-	-	-	-	-	140	140	100	100	100	-
合計	-	-	-	-	-	497,751	463,739	462,357	439,655	388,566	-51,088

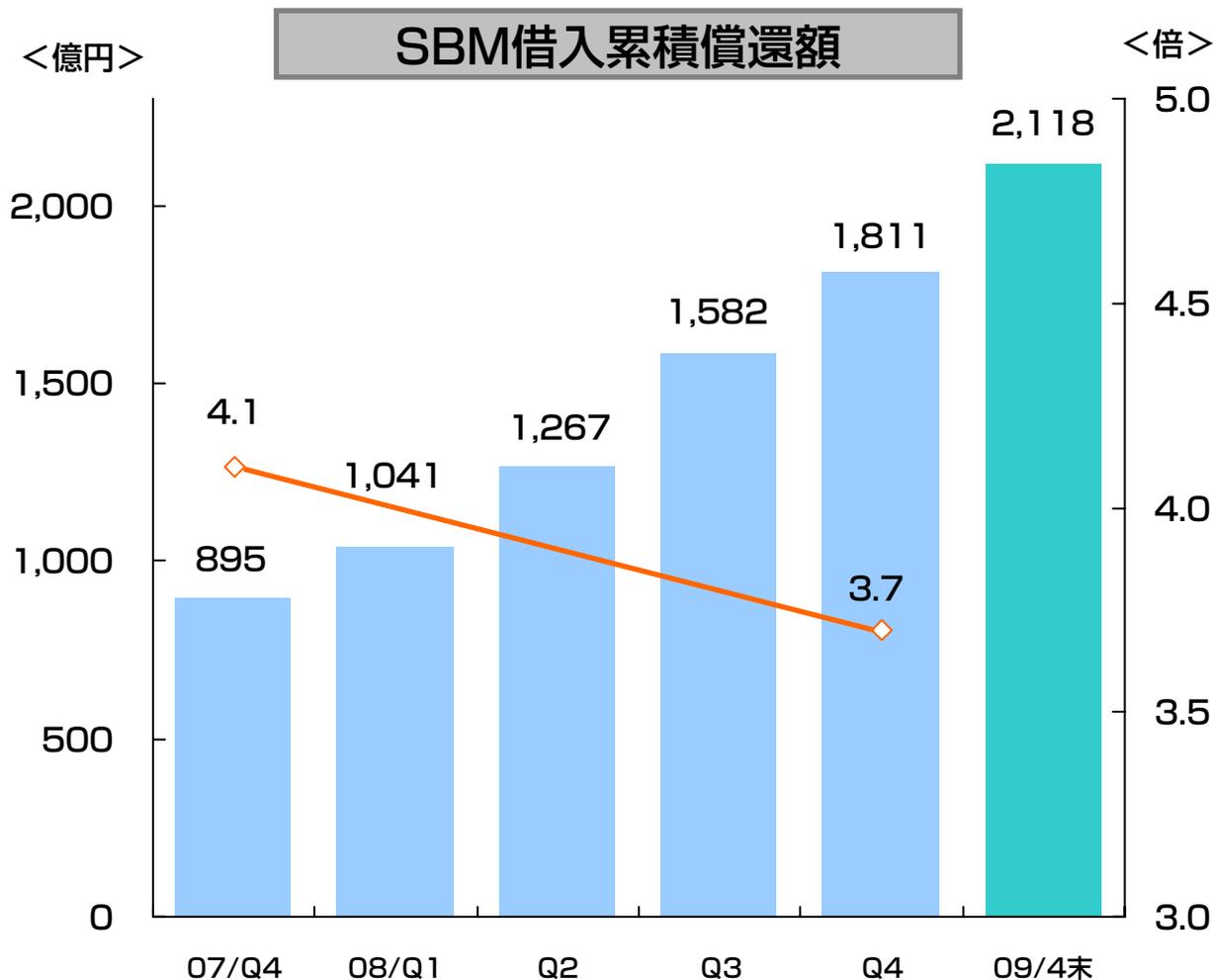
(※1) 2013年満期転換社債、2014年満期転換社債については、債券保有者の請求により、それぞれ2010年3月、2011年3月に繰上償還の可能性があります。また、一定の条件を満たした場合、当社の請求による繰上償還の可能性があります。

(※2) 2013年満期ユーロ円建普通社債については、元本112.5百万ユーロについて買入消却を実施しております。

(※3) 上表には実質的ディフィギュアランスを実施したソフトバンクモバイルの普通社債は含んでおりません。当該社債の償還資金についてはみずほコーポレート銀行により信用補完されております。

SBM借入累積償還額

■計画を上回るペースで返済中



移動体通信事業
レバレッジレシオ(※)

3.7倍
(FY08)

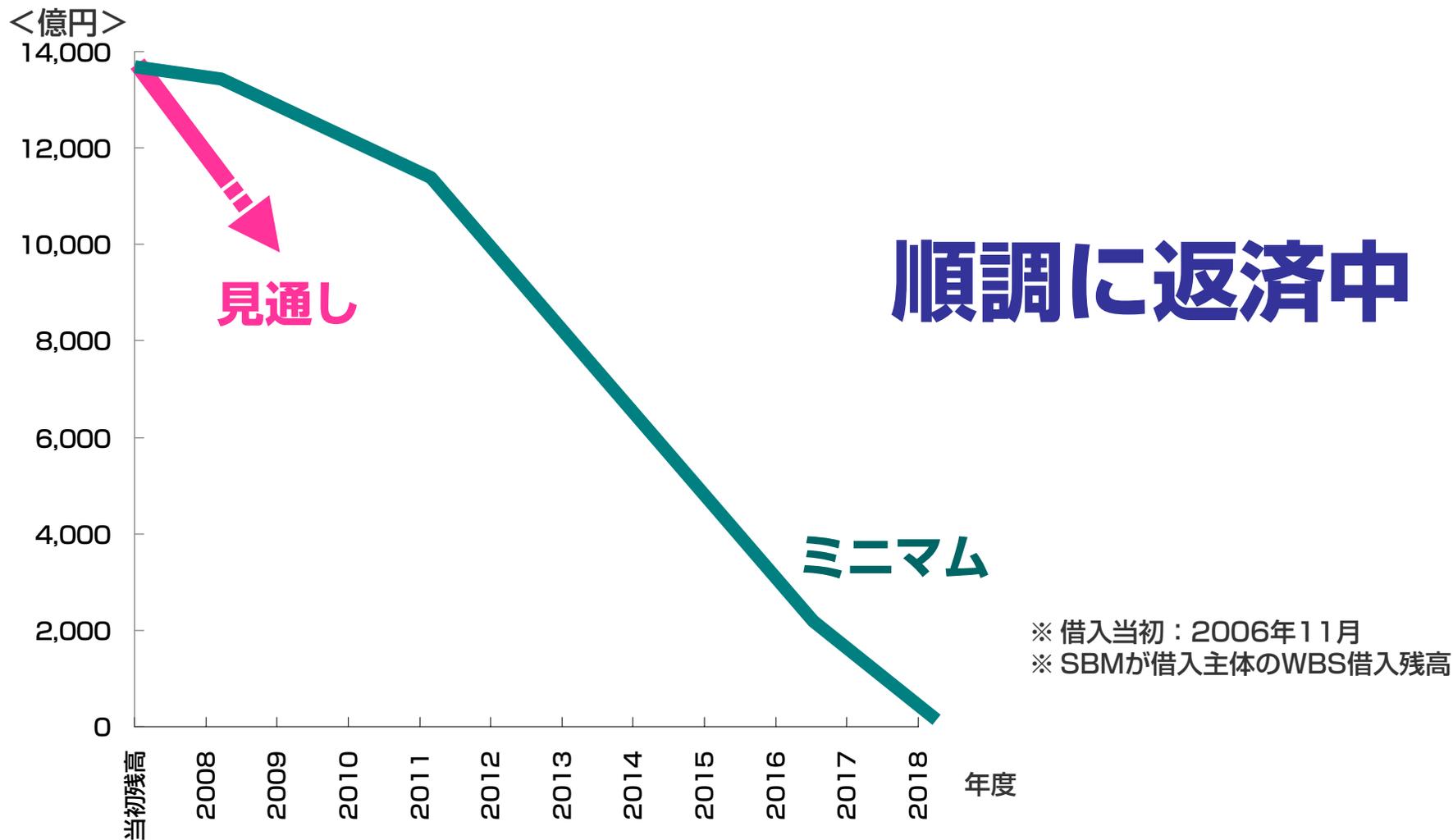
純有利子負債ベース

3.0倍

※レバレッジレシオ
=有利子負債(移動体通信事業)
÷EBITDA(移動体通信事業)

携帯事業買収に伴う借入残高推移

■計画を上回るペースで返済中

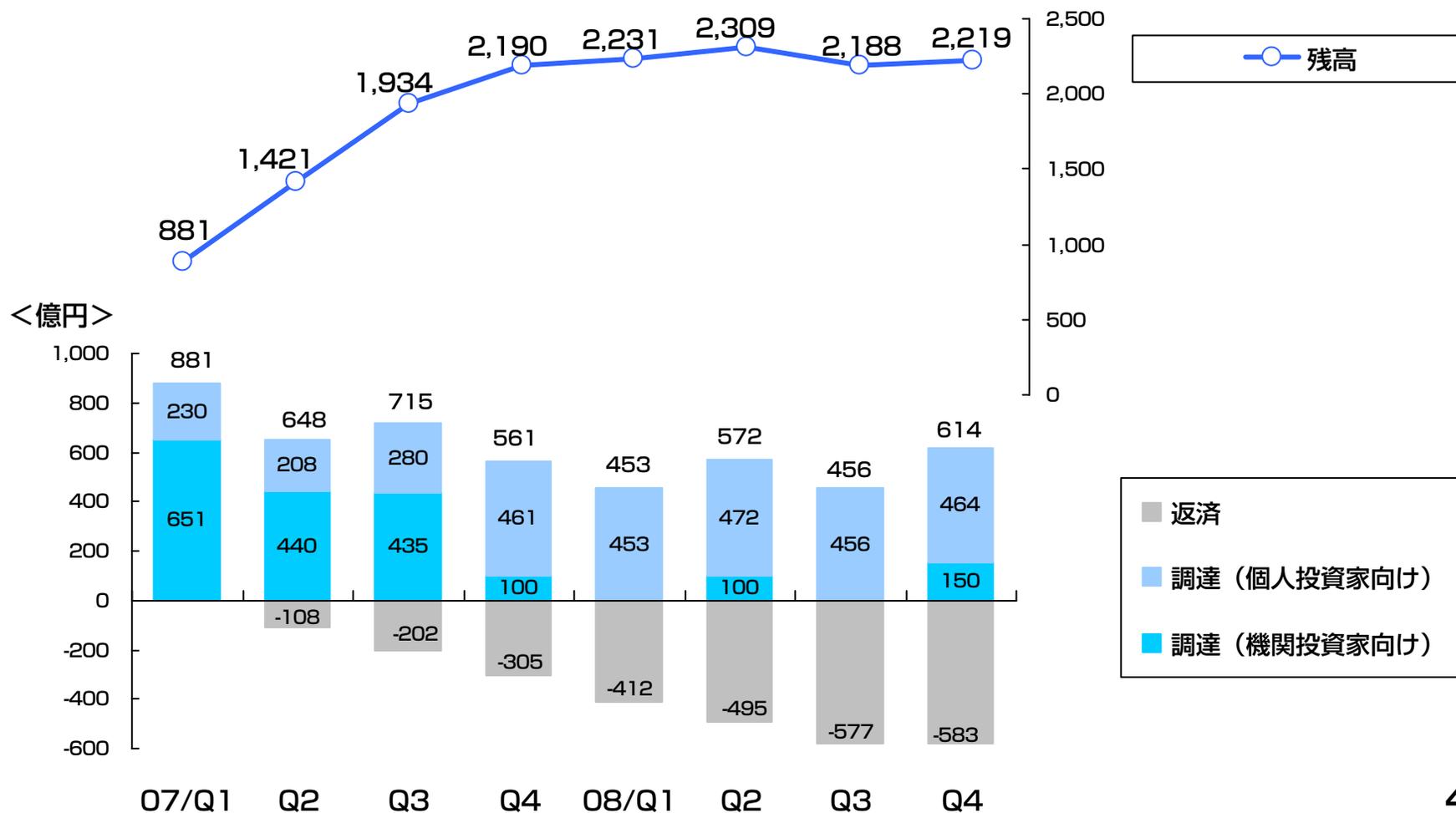


携帯事業の割賦債権流動化

■ 割賦債権流動化による調達は今後も継続

割賦債権流動化

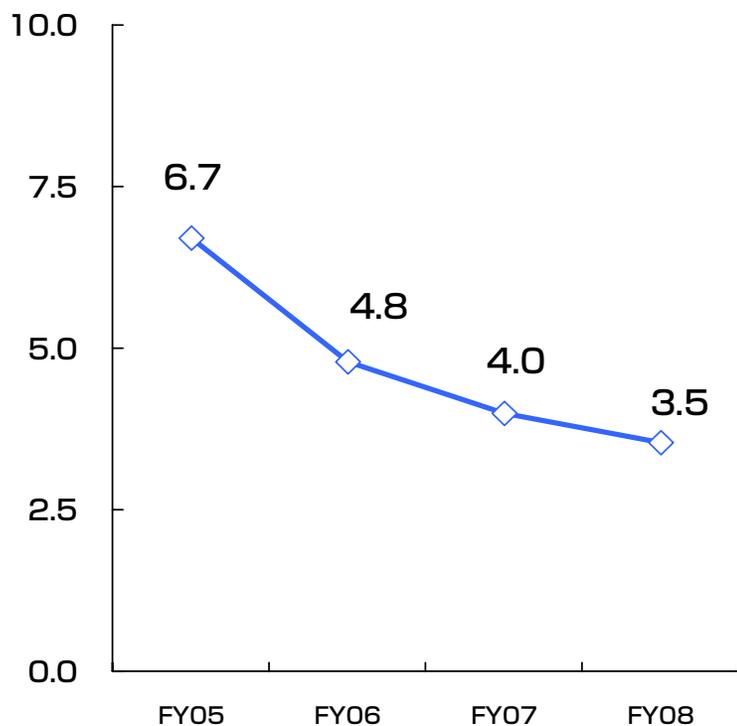
<億円>



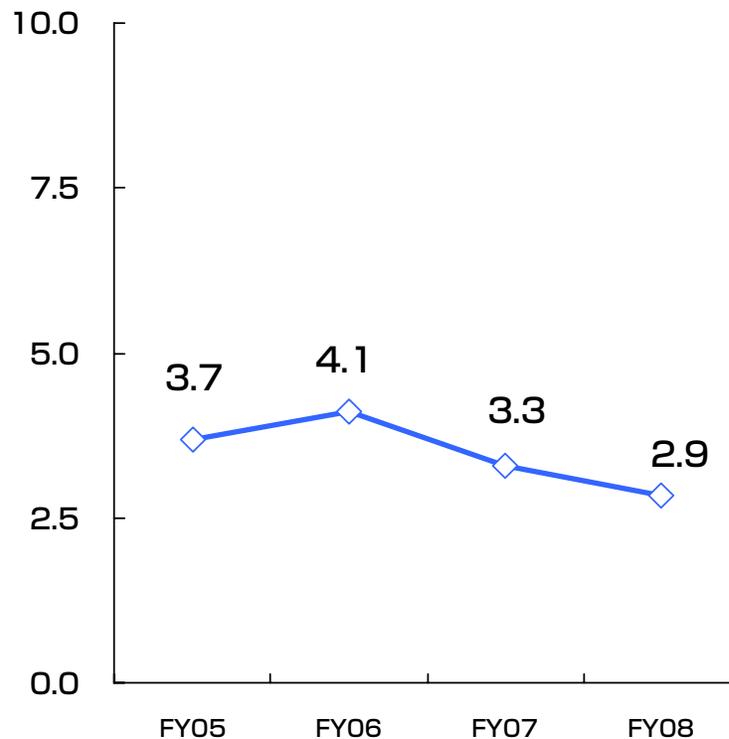
指標改善① 有利子負債／EBITDA倍率

EBITDAが拡大し有利子負債削減へ

<倍> 有利子負債／EBITDA倍率



<倍> (参考) 純有利子負債／EBITDA倍率

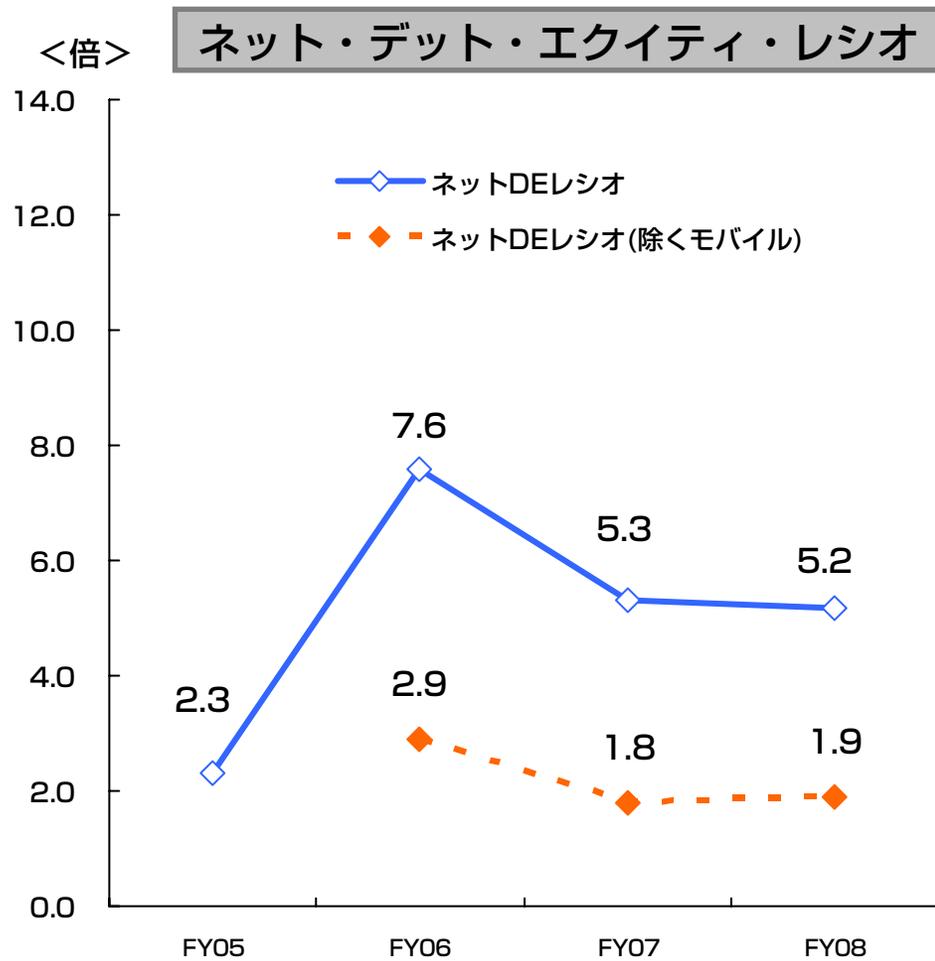
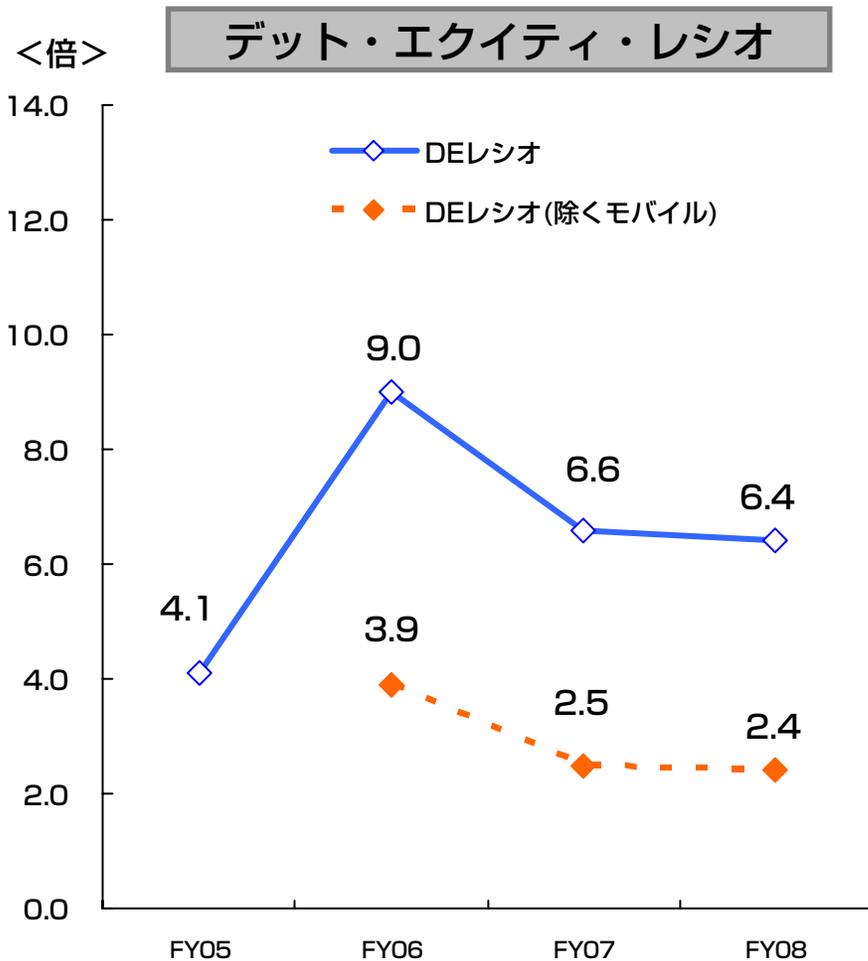


(※1)FY06以前の有利子負債・純有利子負債の額は株券寄託取引に係る預り担保金残高を加算して遡及修正しております

(※2)有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

指標改善② デット・エクイティ・レシオ

■着実に改善



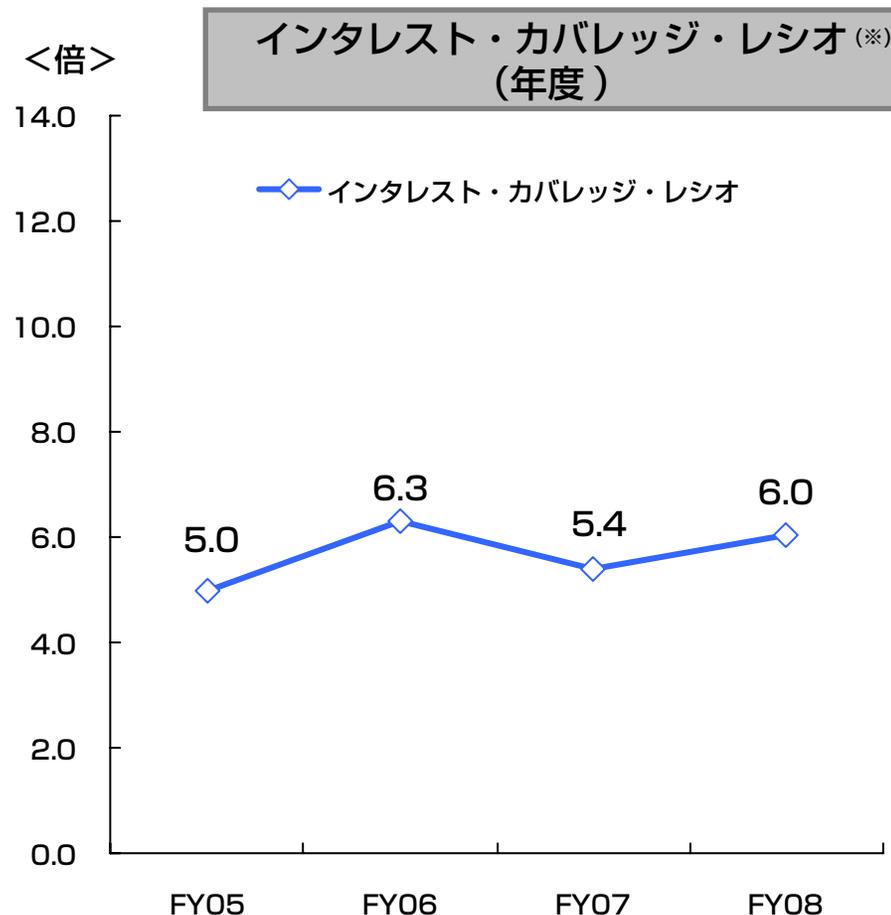
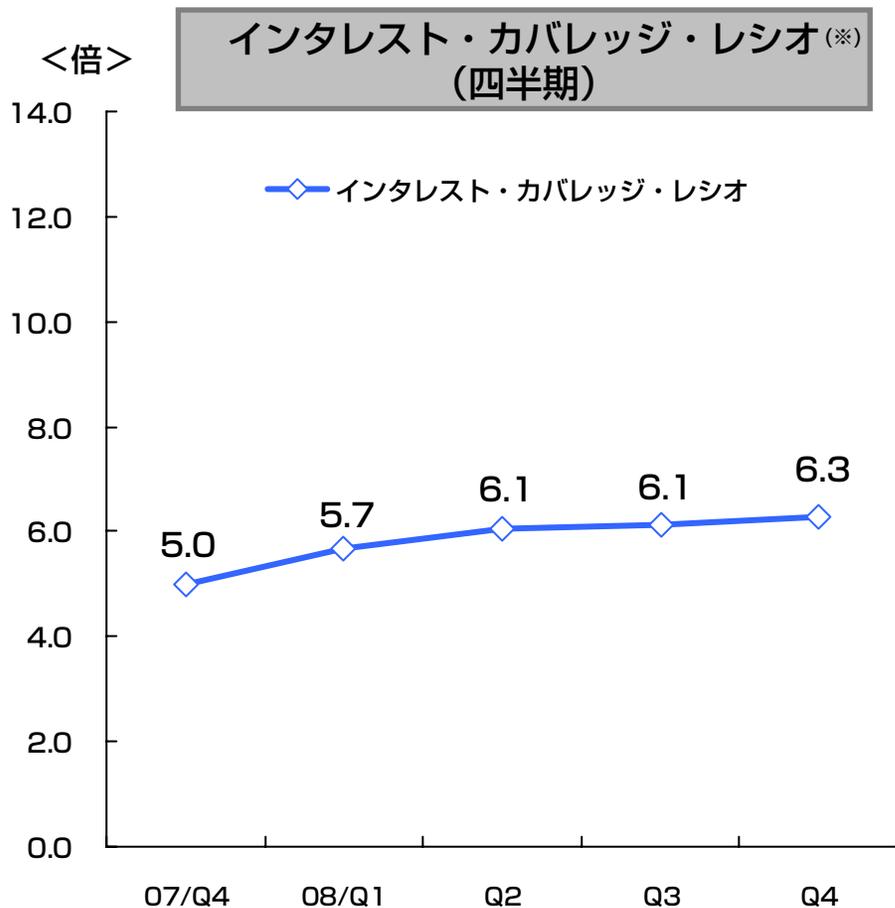
(※1)FY06月末以前の有利子負債・純有利子負債の額は株券寄託取引に係る預り担保金残高を加算して遡及修正しております。

(※2)有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

(※3)除くモバイル：連結有利子負債および純有利子負債残高からソフトバンクモバイルおよびBBモバイルの残高をそれぞれ控除

指標改善③ インタレスト・カバレッジ・レシオ

■安定的な水準を維持



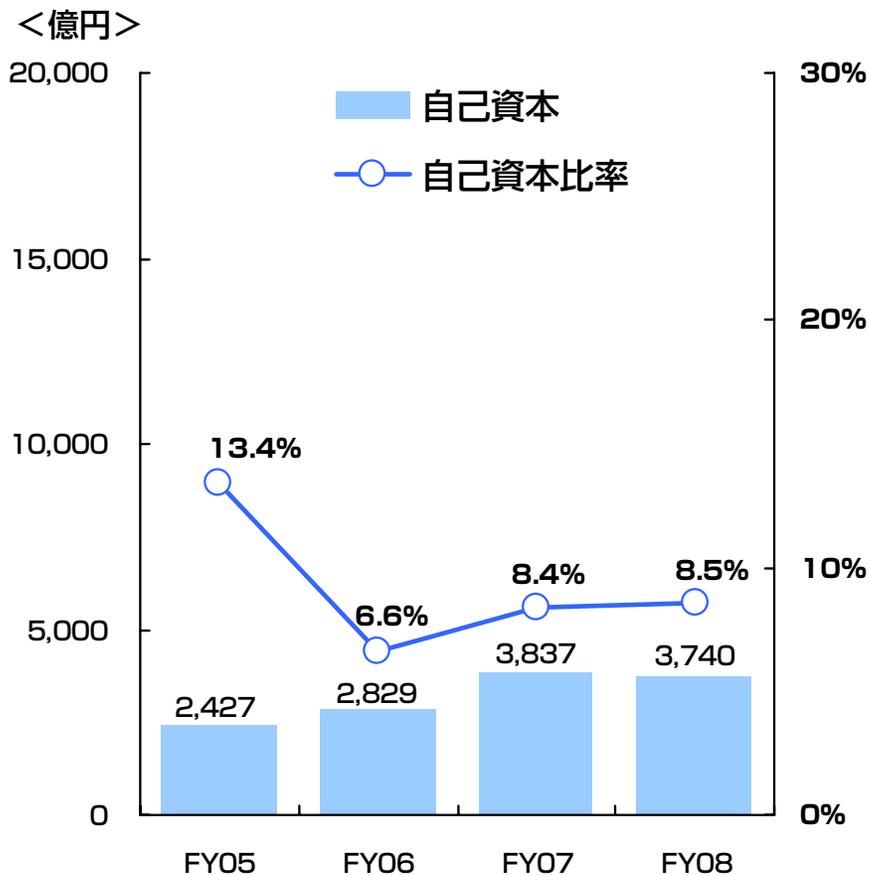
(※)インタレスト・カバレッジ・レシオ=EBITDA/支払利息

(※) FY2007/Q4以前の支払利息には株券等寄託取引手数料を遡及修正しております

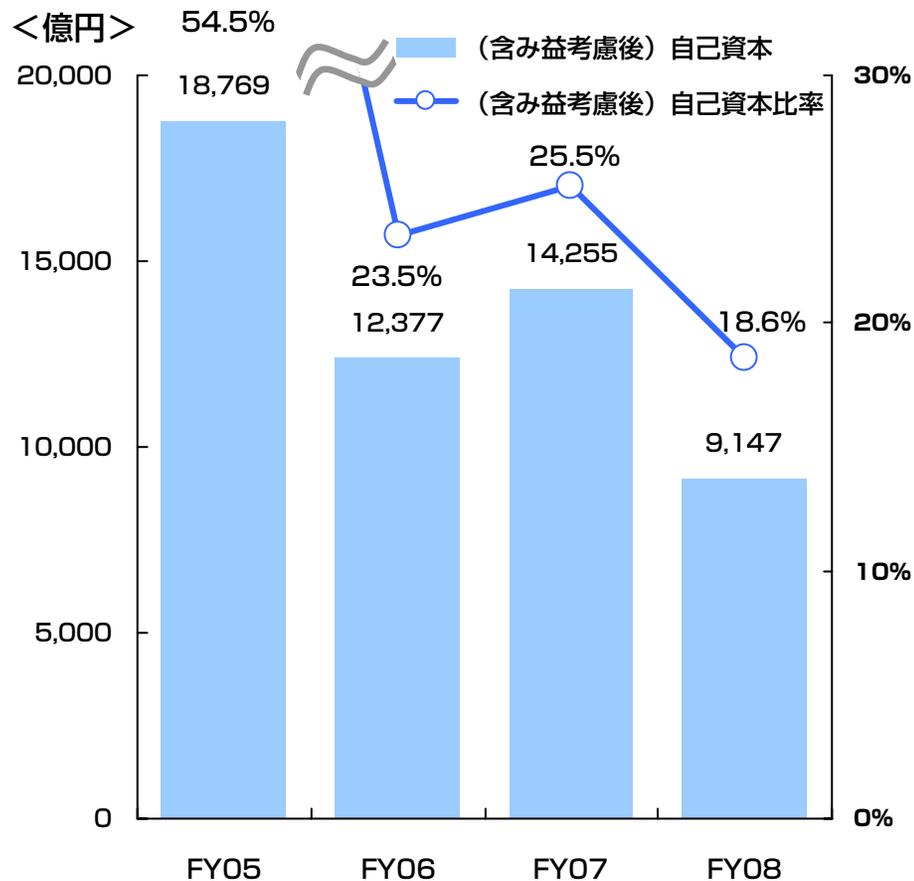
指標改善④ 自己資本比率

■着実な利益の積み上げで自己資本比率を改善へ

自己資本比率

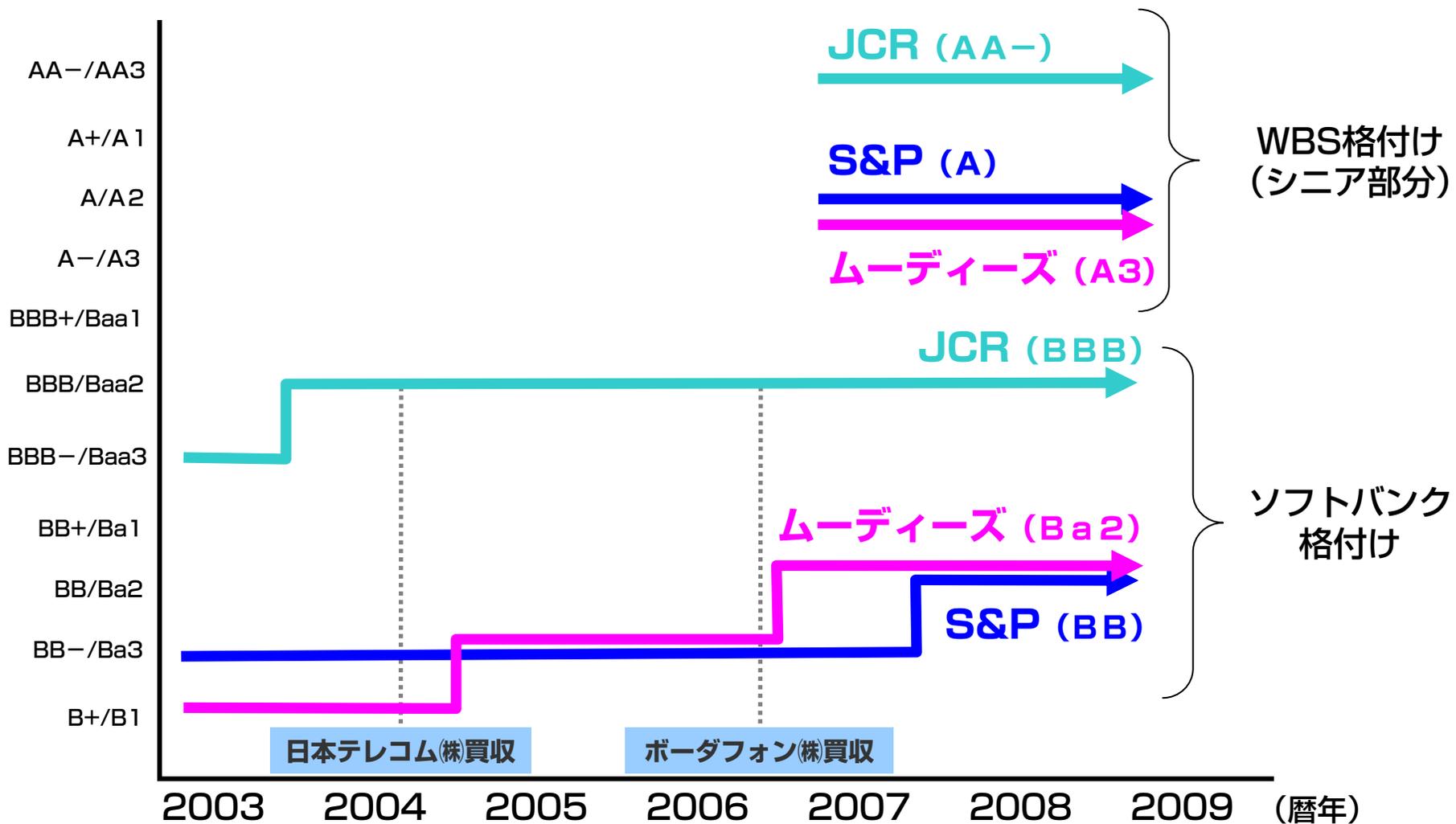


(ご参考) 自己資本比率^(※)
 <株式含み益考慮後>



(※)計算根拠については補足資料の8ページをご参照下さい。

格付け推移



2008年度の主な財務活動

■マーケット環境変化に対する機動的対応

内容	金額（億円）
携帯事業割賦債権流動化による安定調達	2,096
コミットメントライン増額更改	2,010
実質的ディファイザンスの対象である旧ボーダフォン公募社債に関する信用補完の実施	750 (※1)
リース調達（移動体通信事業）	837
潤沢な手元流動性の維持（09/3末）＜コミットメントライン未使用枠含む＞	4,818

(※1) 社債元本相当額

■その他の財務活動

年月	内容	金額（億円）
2008年4月	Oak Pacific Interactiveへの投資	102
	ソフトバンクテレコムパートナーズ(※2)への投資	255
2008年6月	第20回無担保普通社債償還	125
2008年9月	第21回無担保普通社債償還	200
2008年10月	グループキャッシュマネジメントシステム導入	-
2008年11月	第23回無担保普通社債償還	200
2009年3月	2015年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債償還	500

(※2) 2008年7月1日に日本テレコムインボイスから商号を変更

キャッシュフロー経営の強化

**3年間の
フリーキャッシュフロー
1兆円前後へ**

(3年間累計目標：09～11年度)

* 1株当たりフリーキャッシュフロー換算 約1,000円 (3年間累計)

純有利子負債 削減目標

2年度後(11年度)に

純有利子負債^{*} 半減へ

5年度後(14年度)に

純有利子負債^{*} ゼロへ

*リース債務を除く

投資の基本方針

「純有利子負債^{*}ゼロ」達成までの間は
大規模投資は実行しない

*リースを除く

2009年度の財務戦略

「純有利子負債ゼロ」に向けて

- ◆営業CFの増大、投資CFの適正化によるフリーキャッシュフローの最大化
- ◆着実な負債削減による各種財務指標の継続的改善
- ◆財務体質強化の結果としての格付向上

市場環境に応じた保守的な財務運営

- ◆多様な調達手段の深耕および昨今の金融環境下における最適選択
- ◆長期安定資金の確保および長期負債比率の改善
- ◆潤沢な手元流動性の維持

トップレベルのIR活動の実現

- ◆デット／エクイティ両マーケットのあらゆる投資家層へのアプローチ
- ◆業績予想の開示を伴った成長シナリオの明示
- ◆更なる開示内容の充実化

事業編

ソフトバンクモバイル株式会社 取締役 常務執行役員 兼 CFO
ソフトバンクBB株式会社 取締役 常務執行役員 兼 CFO
ソフトバンクテレコム株式会社 取締役

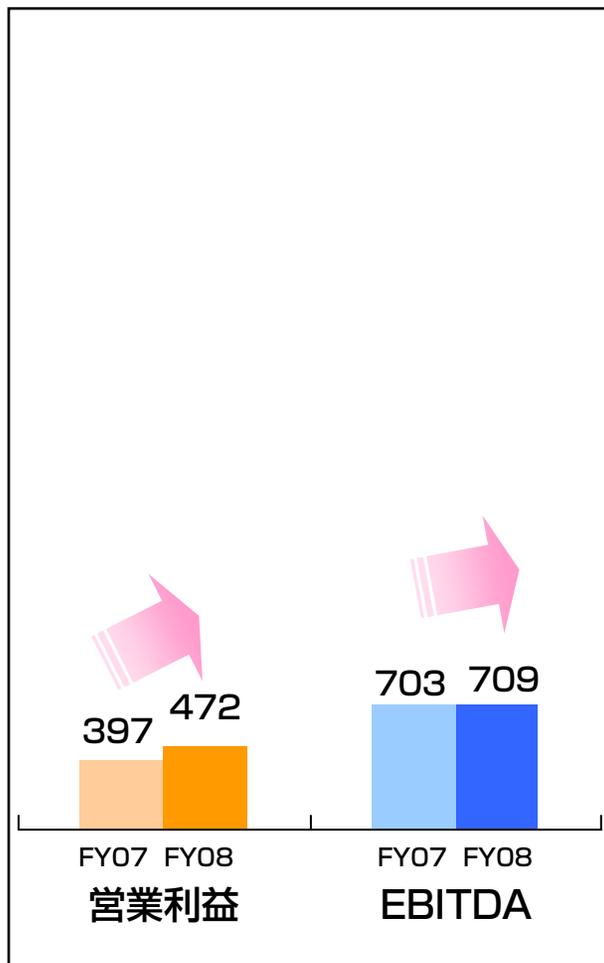
ふじはら
藤原 和彦

通信3事業の業績概要

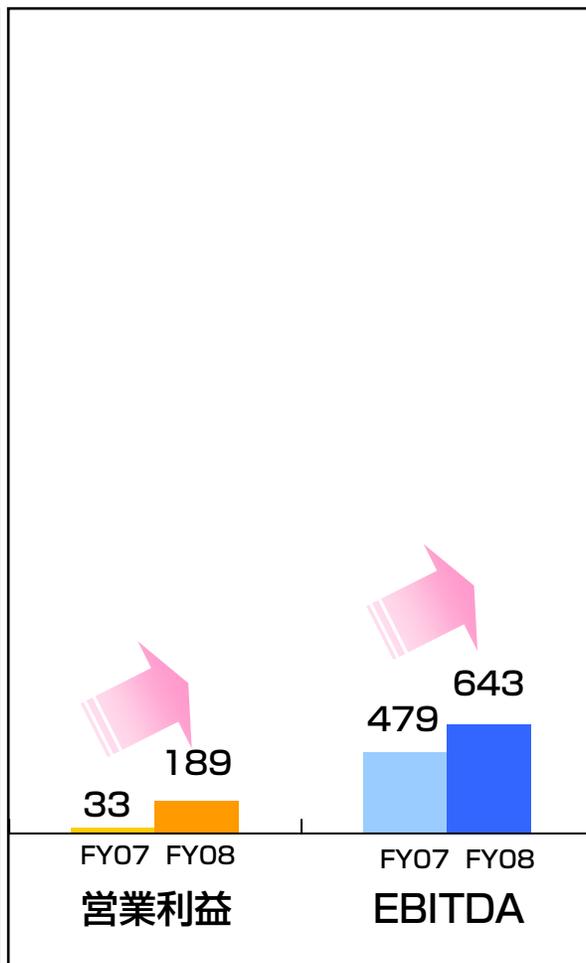
■通信3事業は着実に利益を計上

<億円>

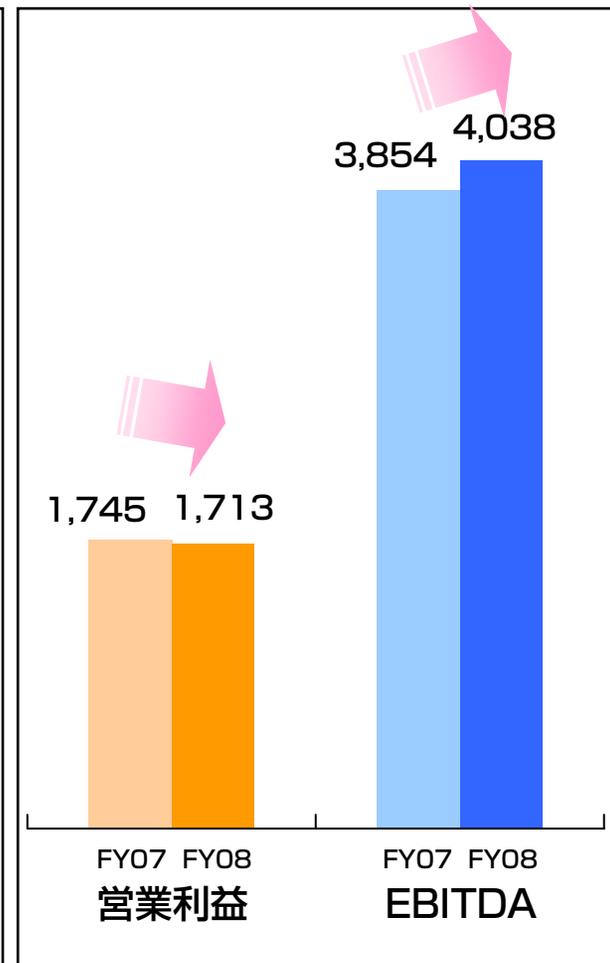
BBインフラ事業



固定通信事業



移動体通信事業



ブロードバンド・インフラ事業

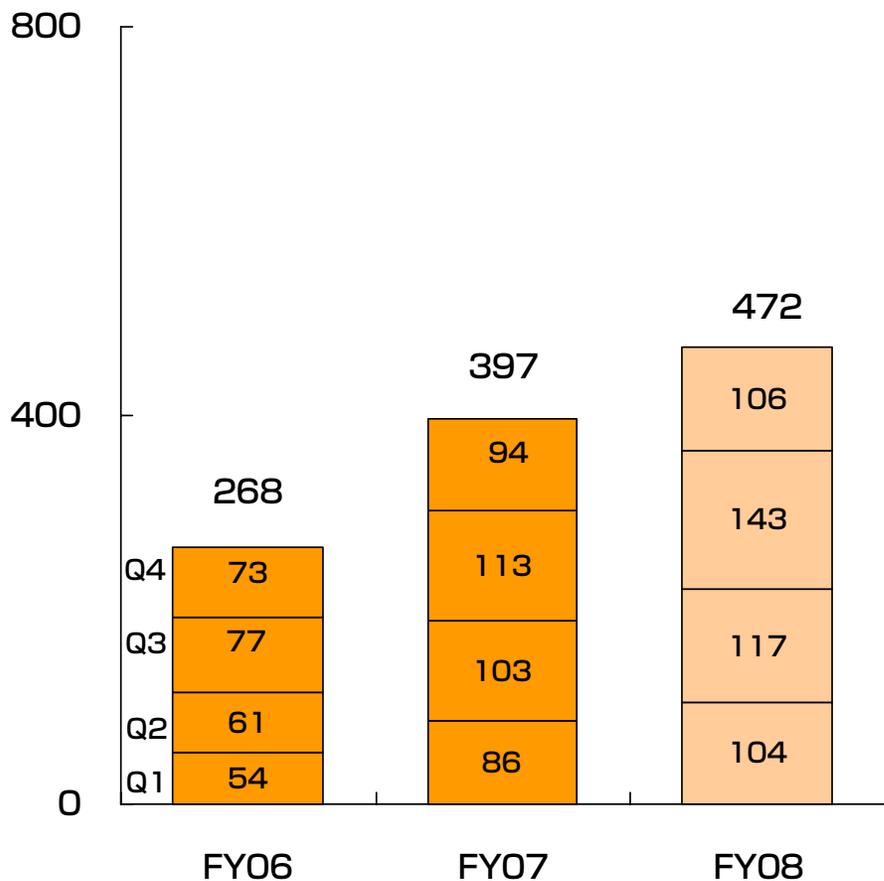
営業利益・EBITDA (BB事業)

<BB-1>

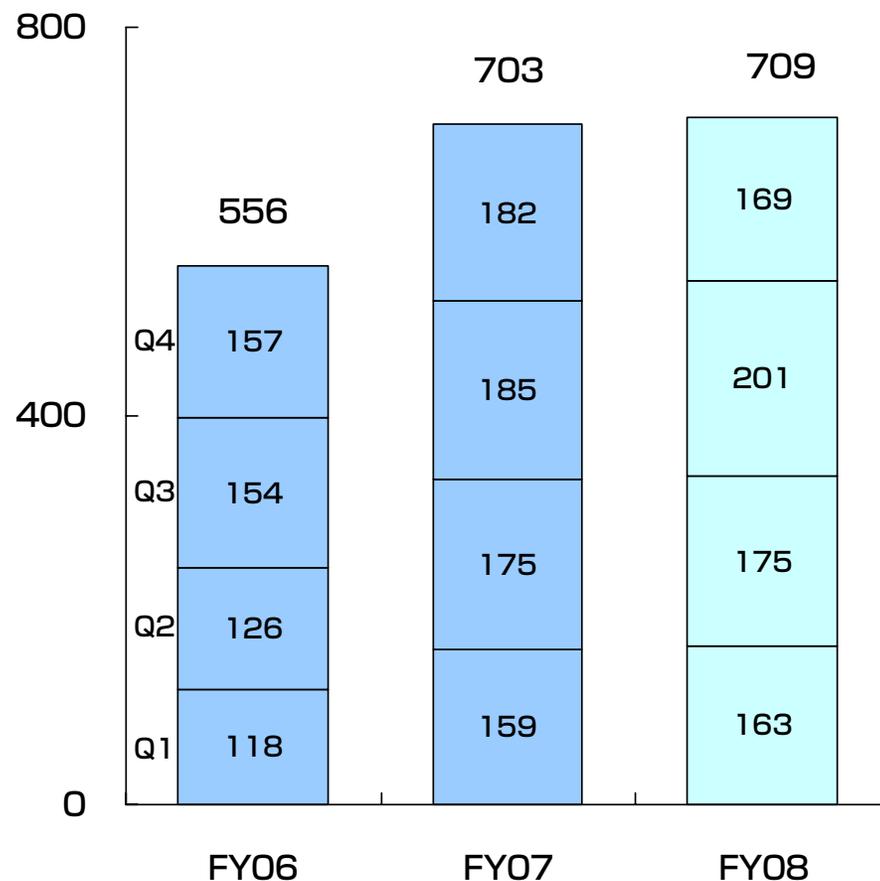
■コスト削減に取り組み増益トレンドを維持

<億円>

営業利益



EBITDA

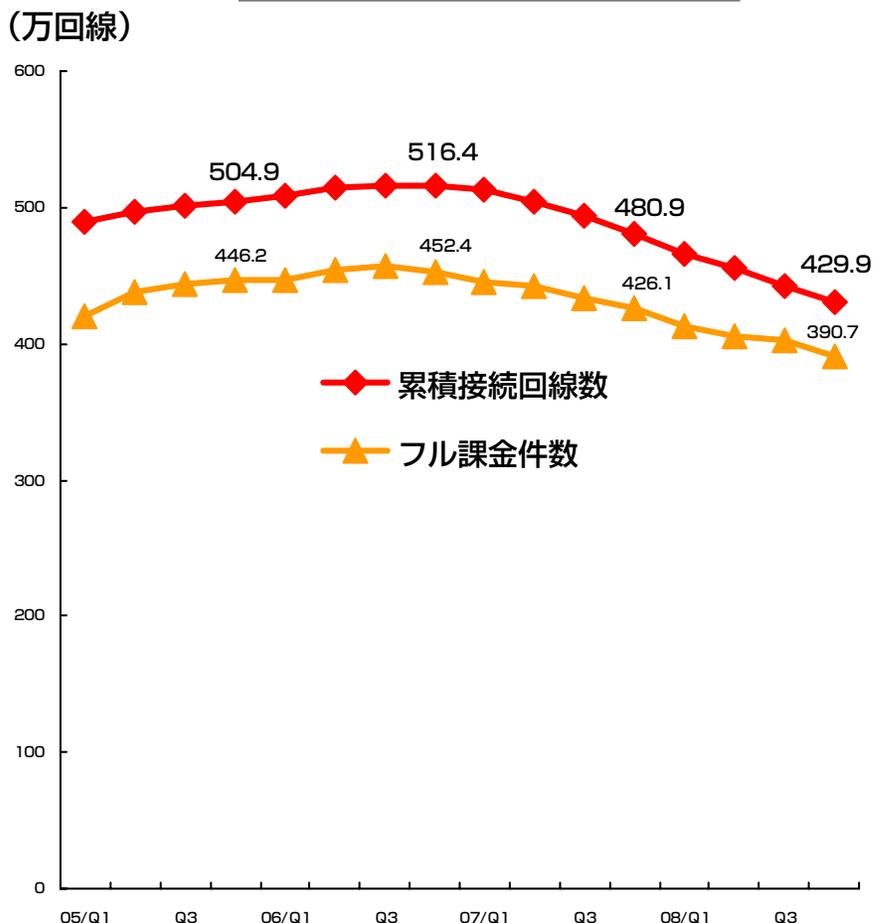


Yahoo! BB ADSL 回線数とARPU

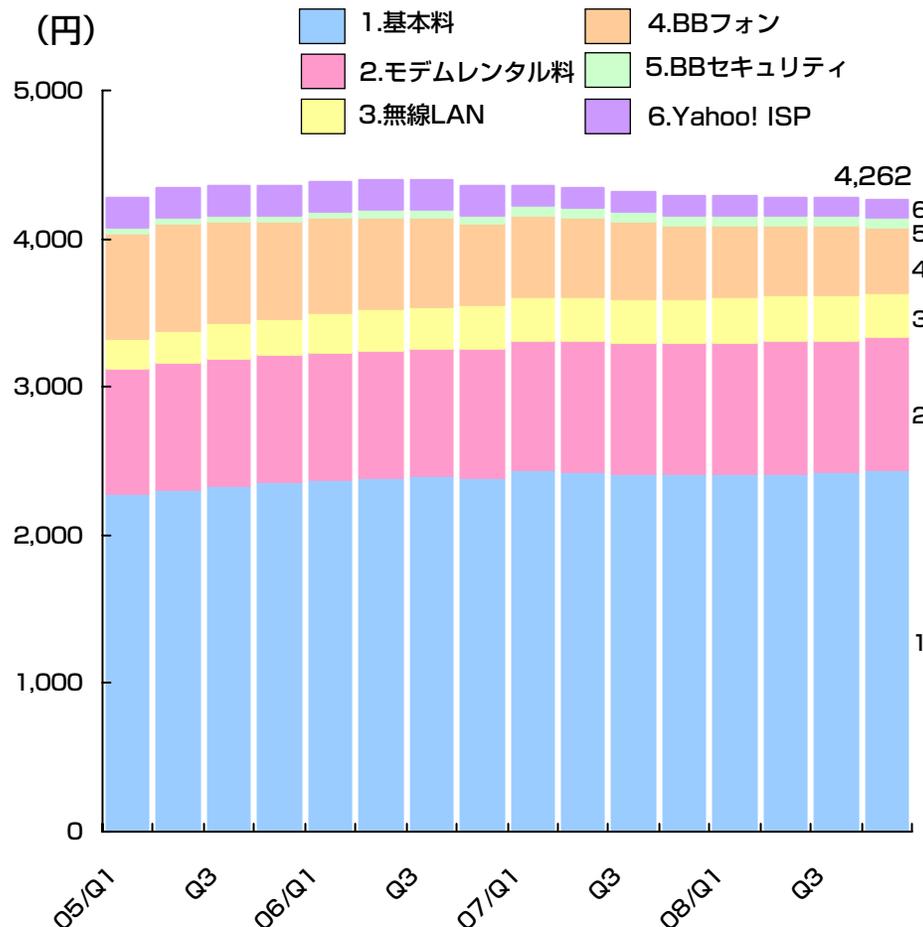
<BB-2>

■ADSL回線数は減少傾向。ARPUは横ばい。

回線数と課金件数



ARPU



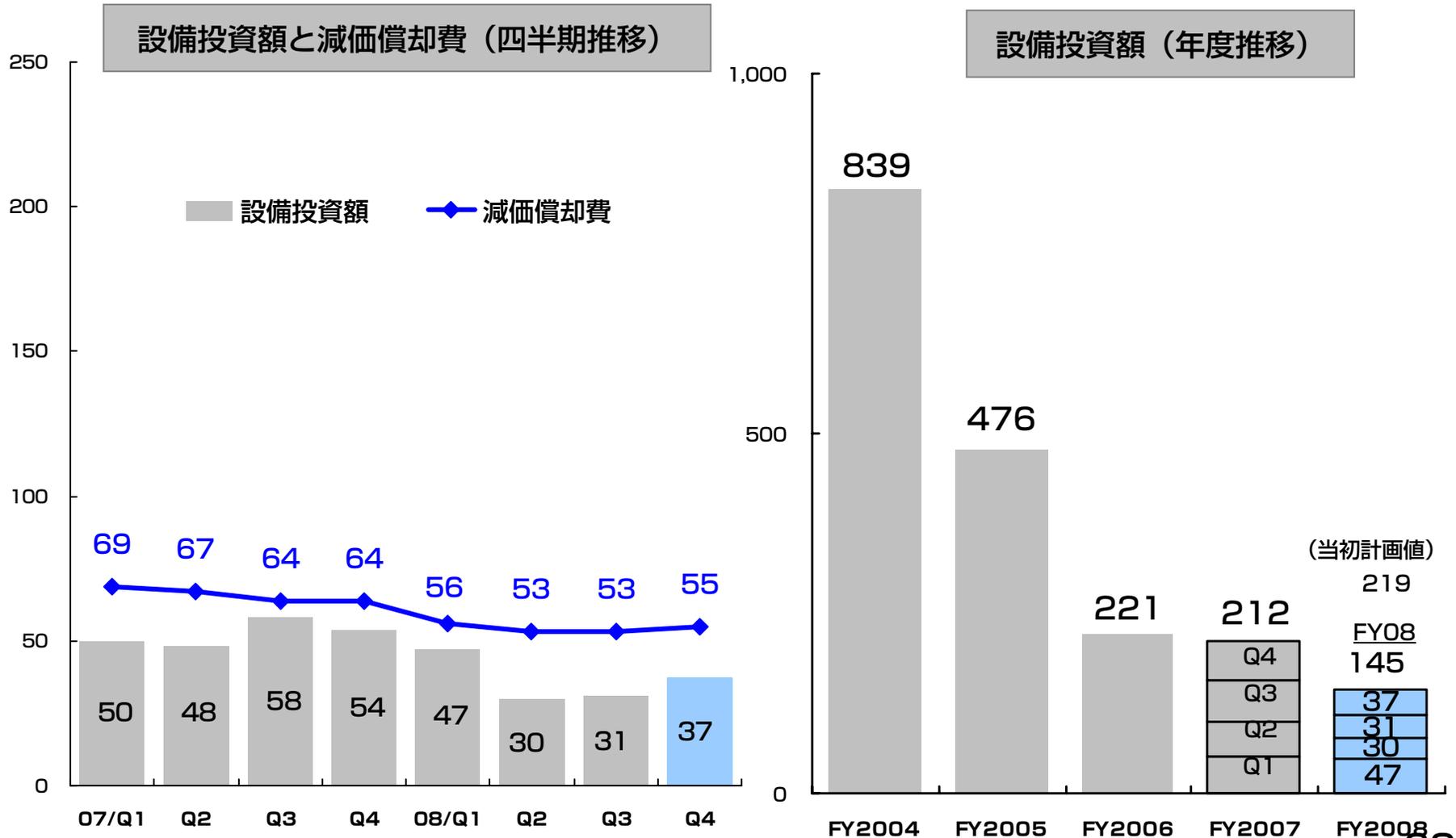
*ARPU: フル課金ユーザーの支払いベース。モデムレンタル事業売却に伴う影響を含まず
FY07/Q1よりヤフーとの契約変更によりYahoo! ISP収入の一部を基本料部分に計上 (ユーザー負担に変更なし)

設備投資 [実行ベース] (BB事業)

<BB-3>

■設備投資額は減価償却費の範囲内で安定推移

<億円>



固定通信事業

営業損益・EBITDA（固定通信事業）

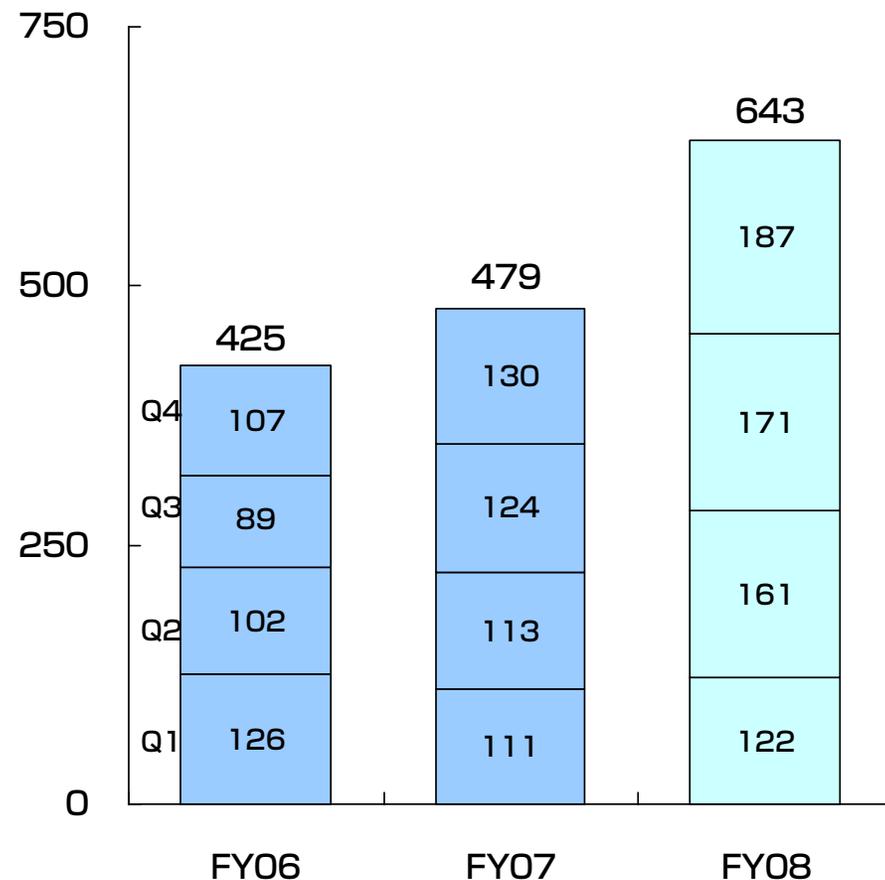
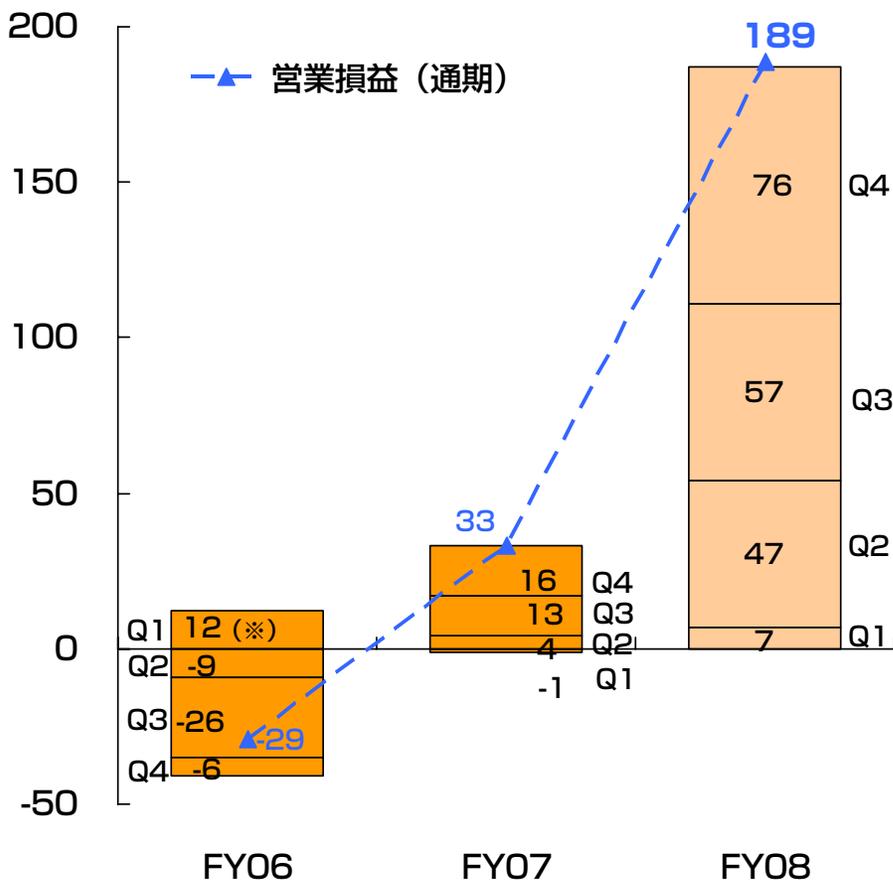
<固定-1>

■法人強化と経営スリム化で増益のトレンド

<億円>

営業損益

EBITDA

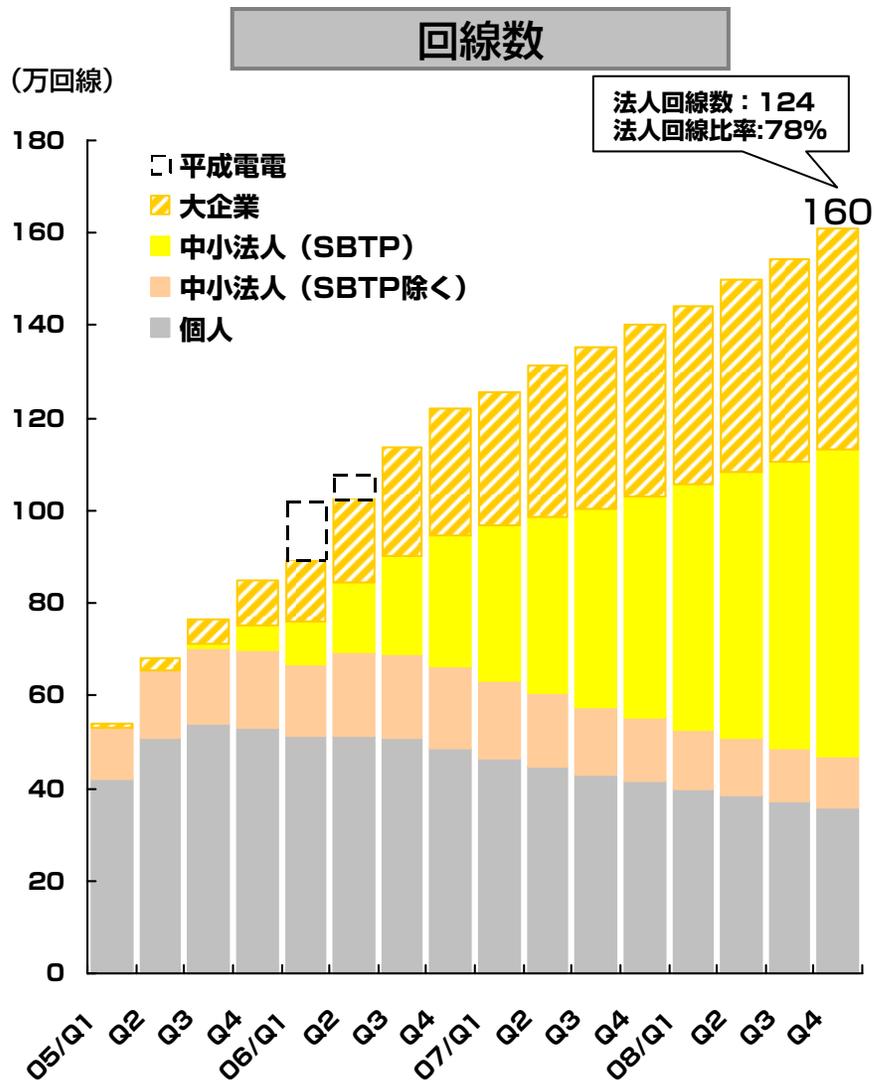


※06/Q1:一時的要因（退職給付戻入）25億を含む

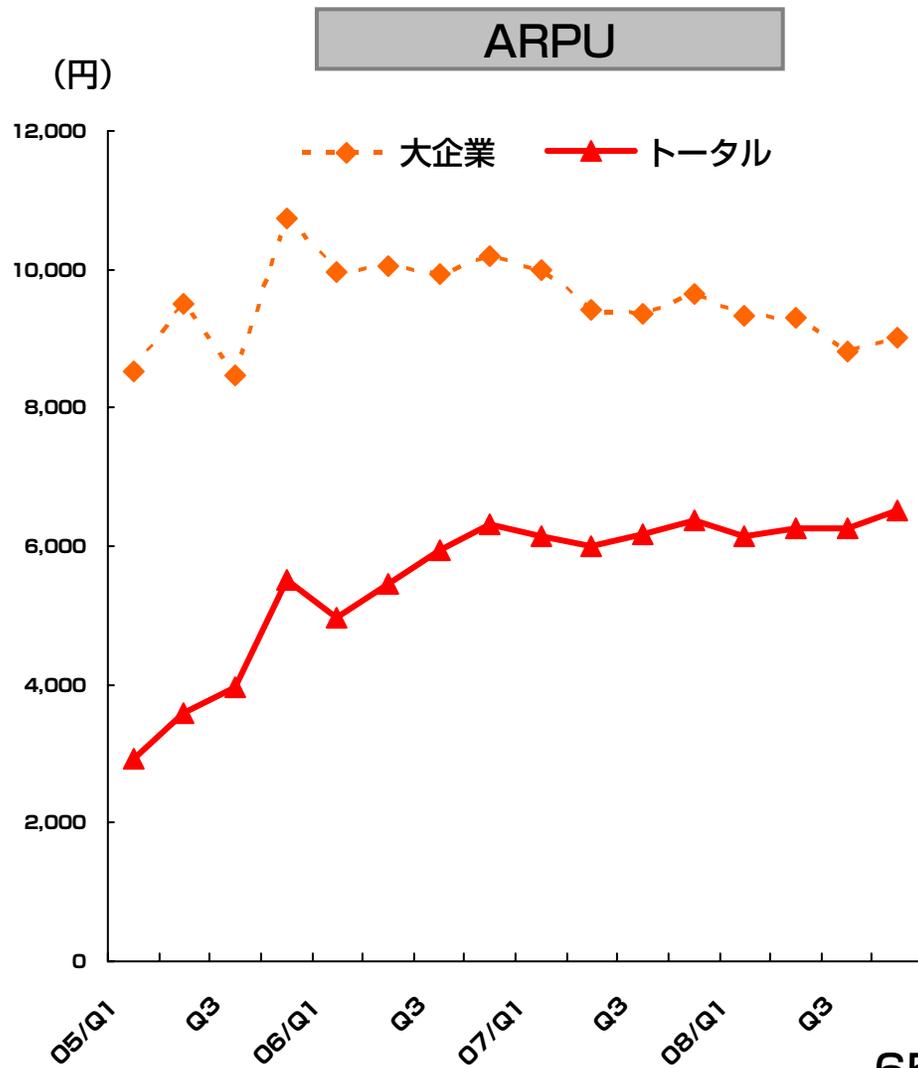
おとくライン 回線数とARPU

<固定-2>

■回線数とARPUは法人向けの強化で堅調に推移



※SBTP：ソフトバンクテレコムパートナーズ

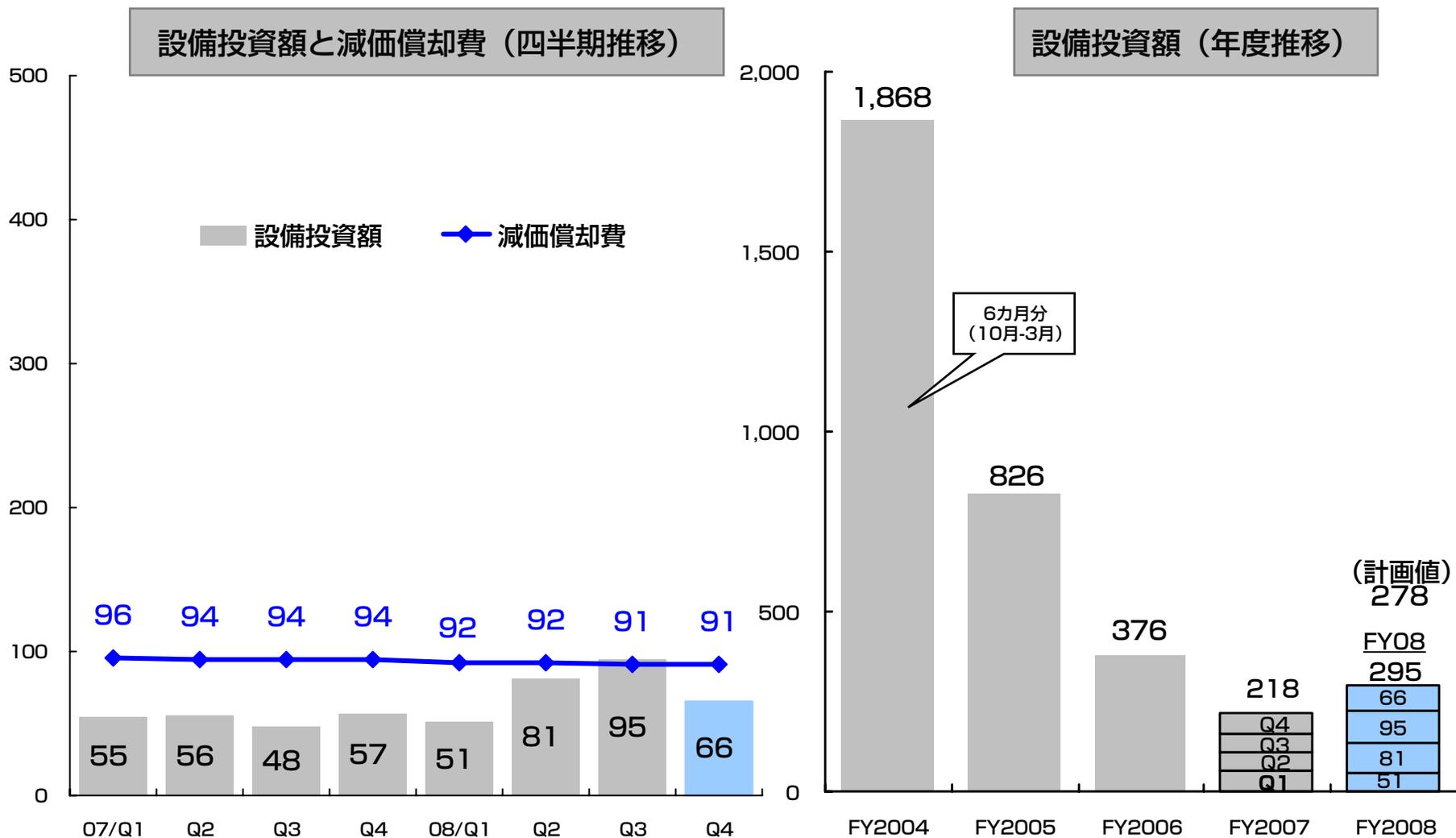


設備投資 [実行ベース] (固定通信事業)

<固定-3>

■設備投資額は引き続き安定推移。

<億円>



移動体通信事業

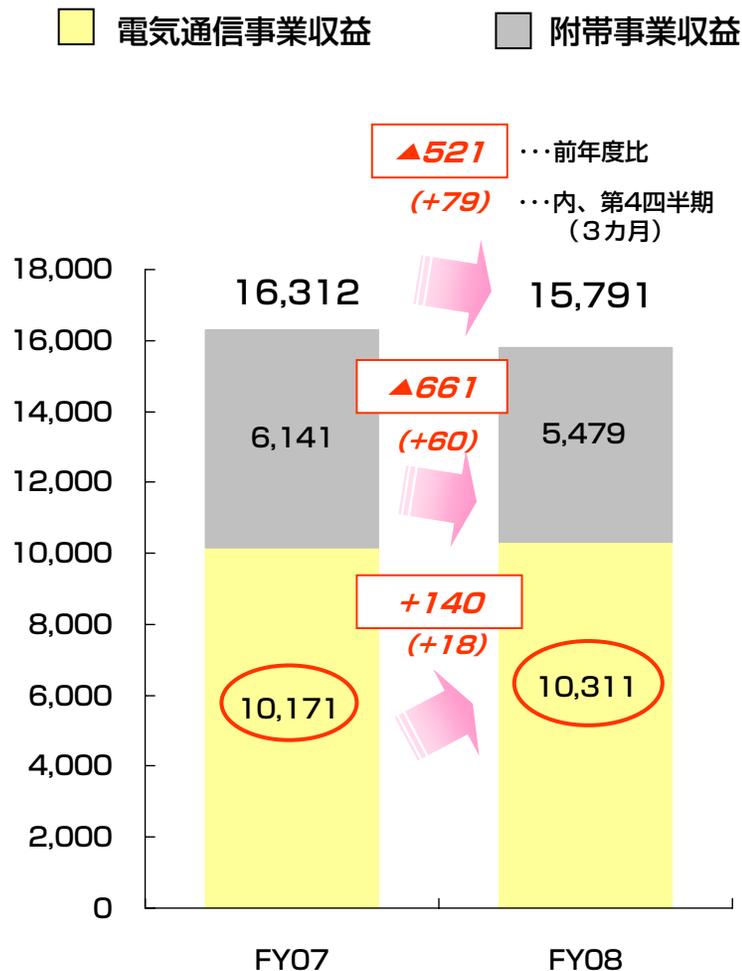
SBM連結 売上高

<移動体-1>

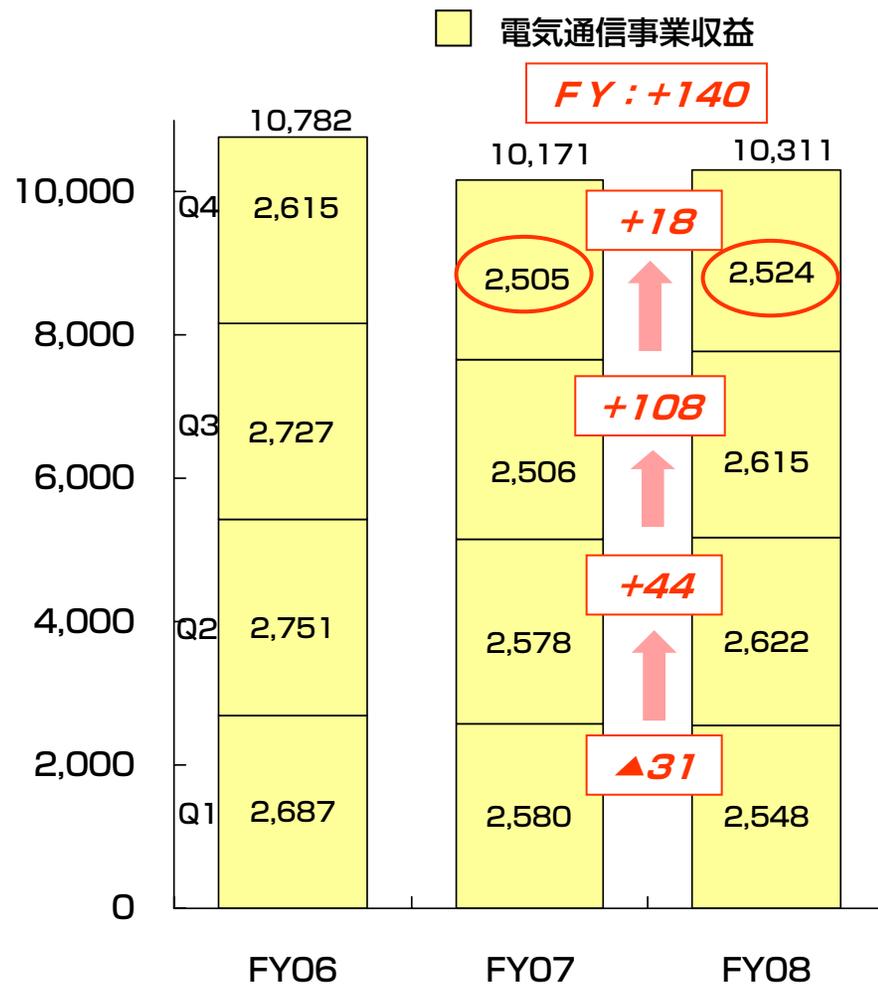
■ 端末売上減少により減収。電通収入は前年比増収に。

<億円>

SBM連結売上高：年度比較



SBM連結電通収益：四半期比較

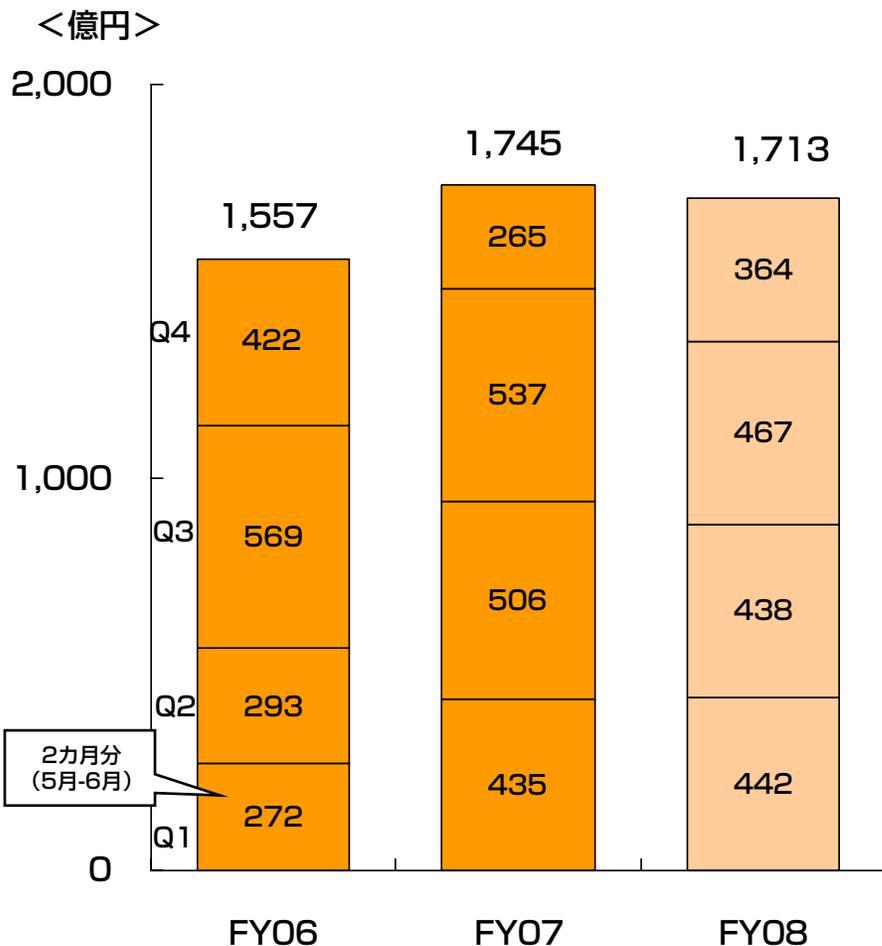


営業利益（SB連結・SBM連結）

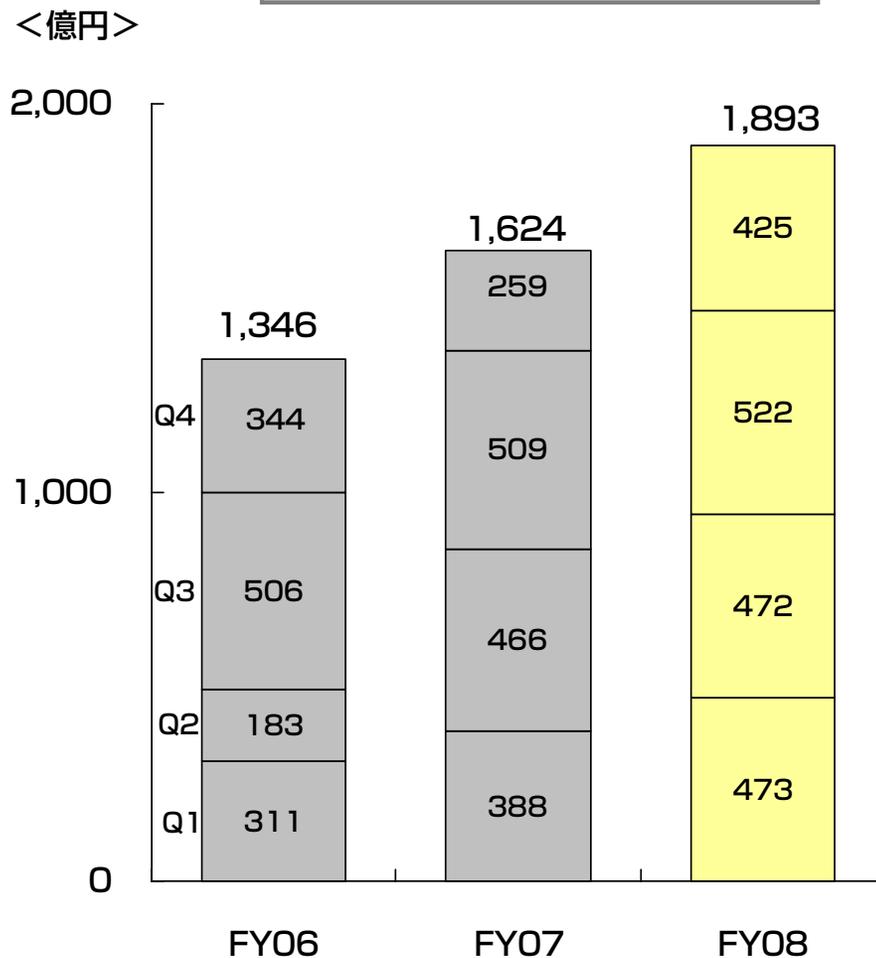
<移動体-2>

■ 経営効率化が進展し堅調に推移。Q4は増収増益

SB連結 移動体セグメント



SBM連結



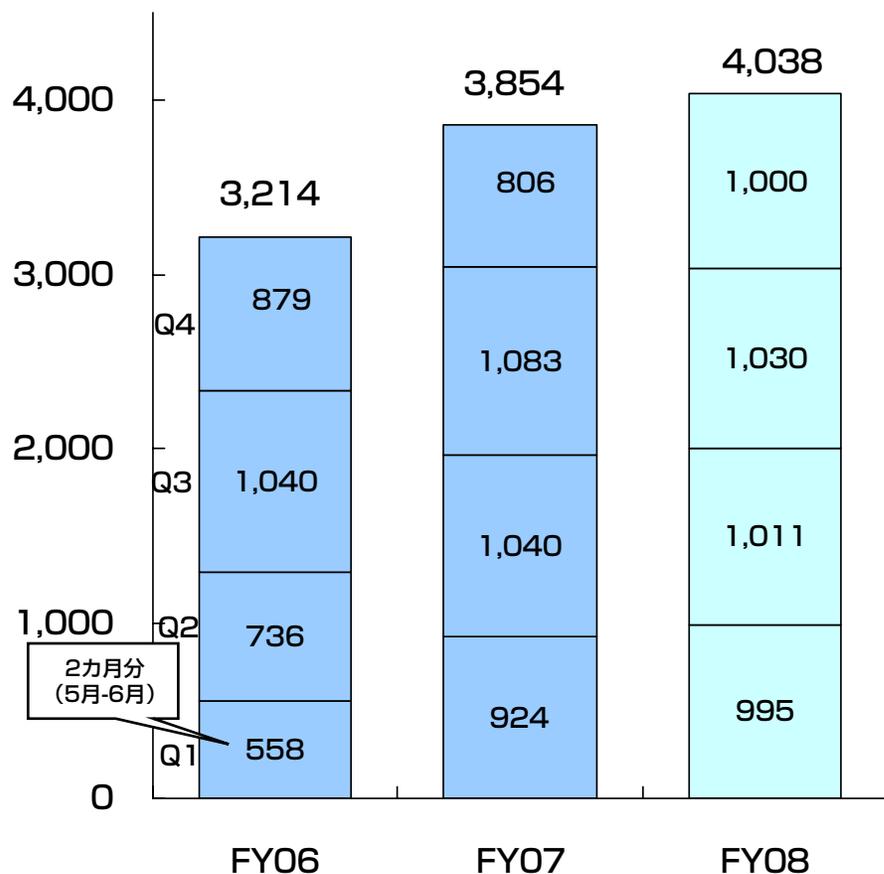
EBITDA (SB連結・SBM連結)

<移動体-3>

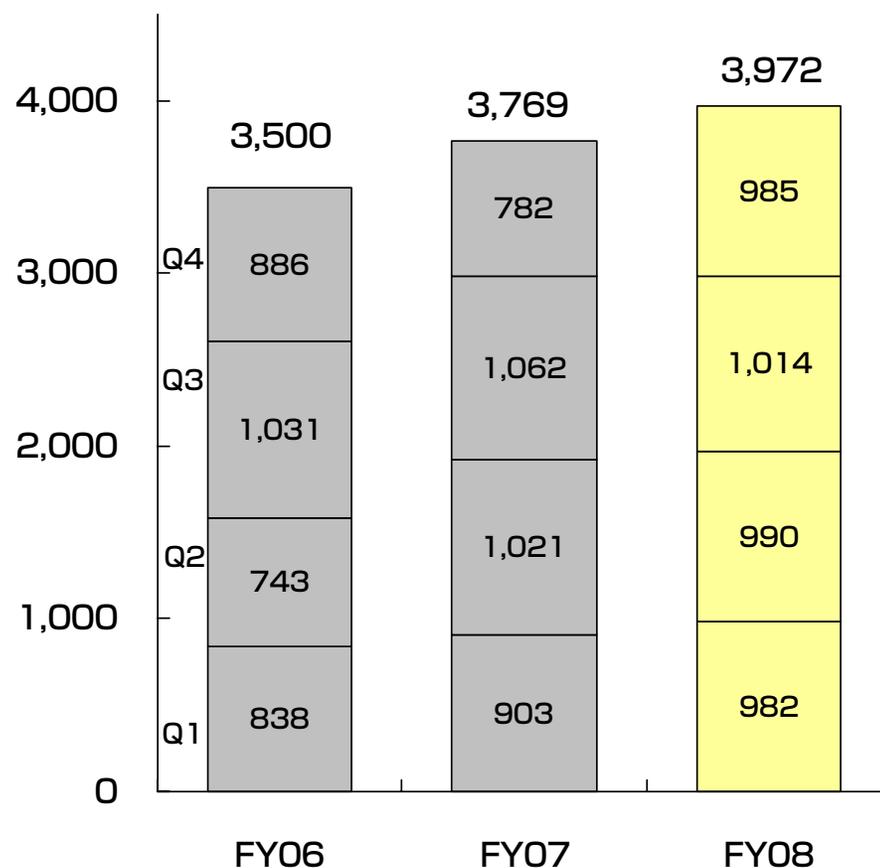
■ 経営効率化が進展し堅調に推移。

<億円>

SB連結 移動体セグメント



SBM連結

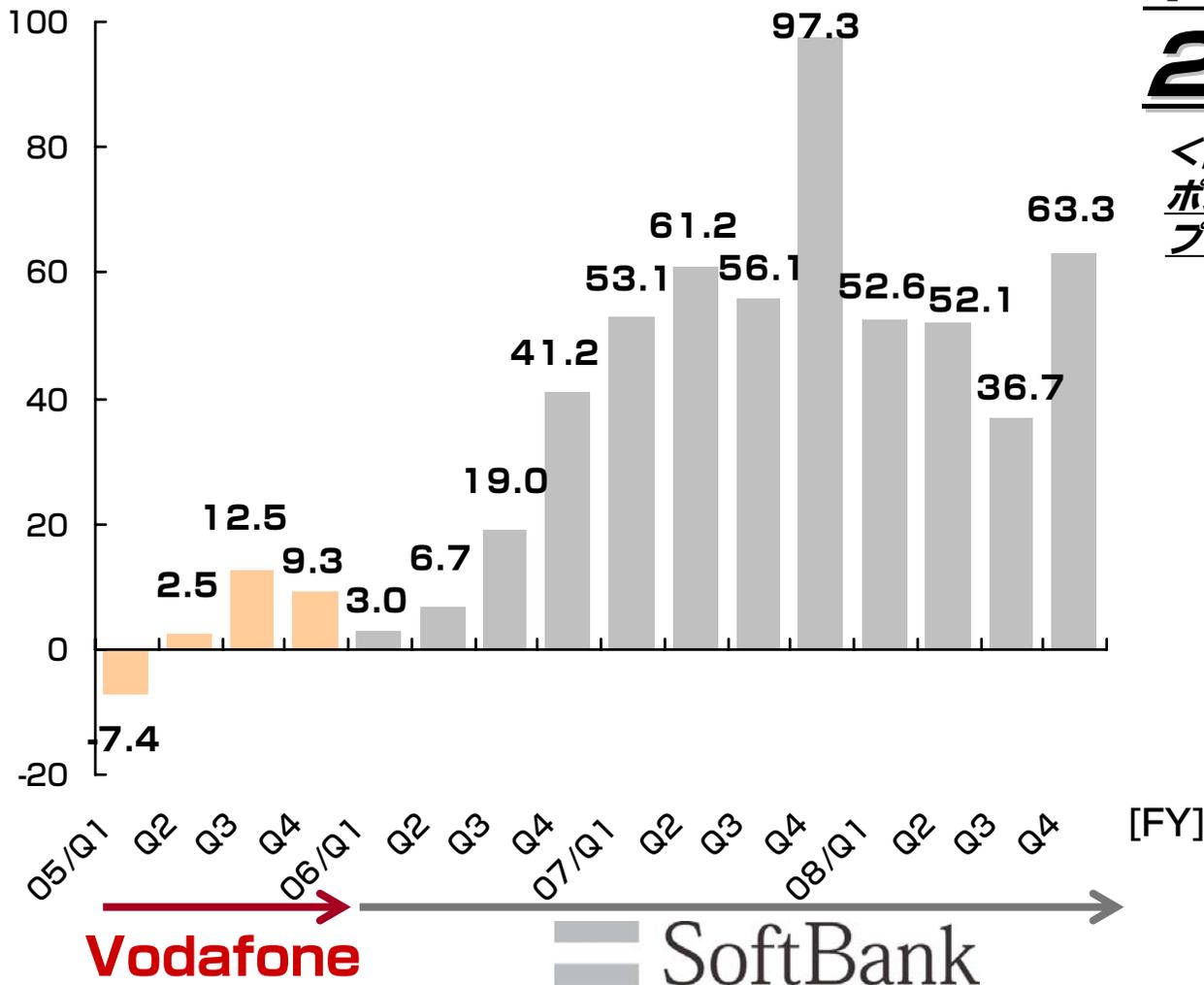


純増契約数（四半期）

<移動体-4>

■23カ月連続純増No.1を継続中。

<万契約>

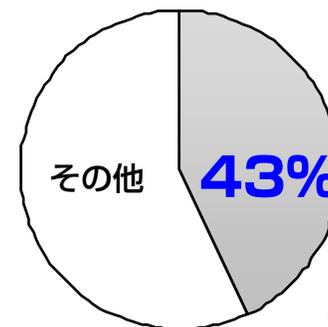


FY08 純増数
204.6万

<内訳>

ポストペイド +222.8万
プリペイド ▲18.1万

FY08 純増シェア



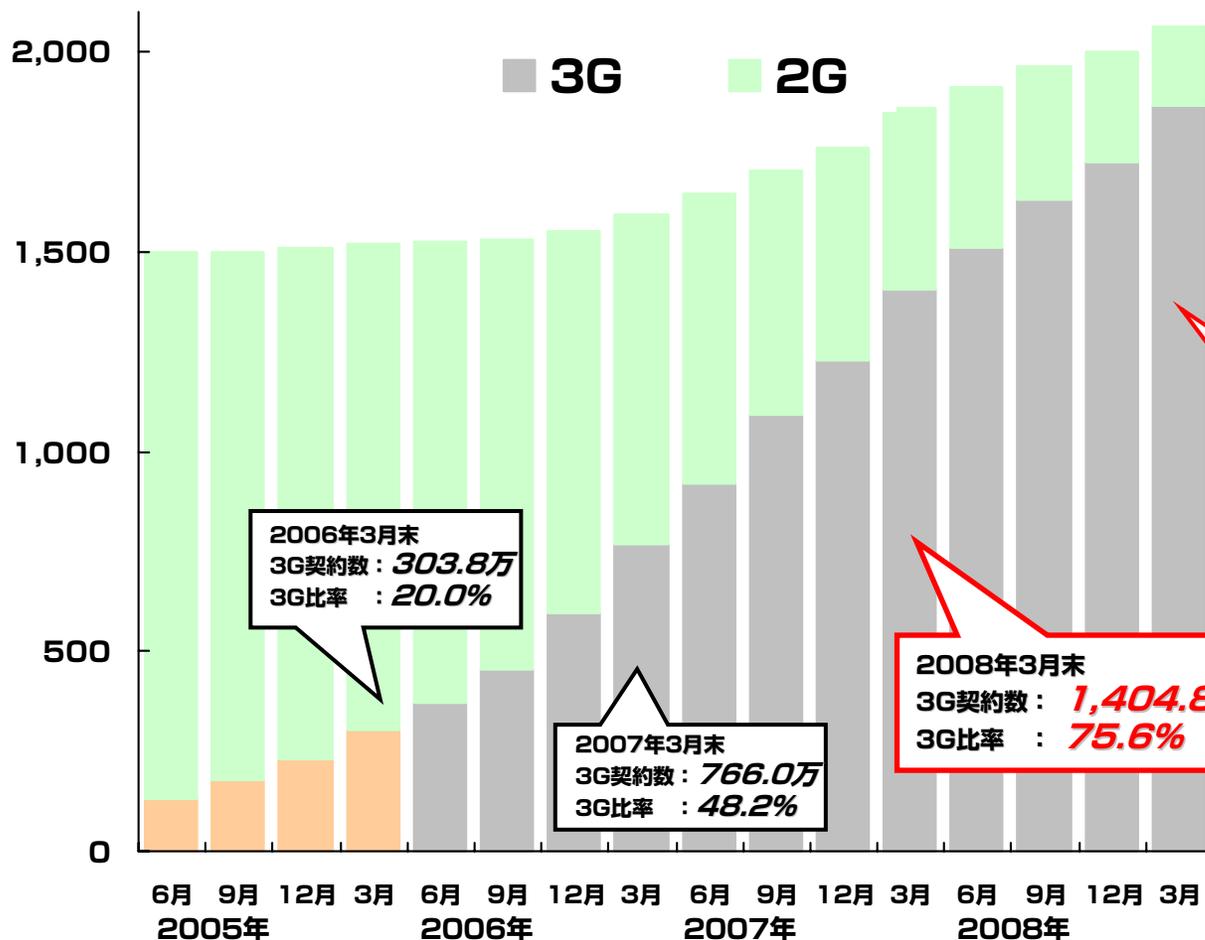
(参考)
FY07 純増シェア
45%

累計契約数・3G契約数の推移

<移動体-5>

■累計契約数は順調に拡大し2000万突破。3G契約も90%超

<万契約>



累計契約数
2,060万突破

(前年同期比11%増)

2009年3月末
契約数合計: **2,063.3万**
3G契約数: **1,865.4万**
3G比率: **90.4%**

2008年3月末
3G契約数: **1,404.8万**
3G比率: **75.6%**

2006年3月末
3G契約数: **303.8万**
3G比率: **20.0%**

2007年3月末
3G契約数: **766.0万**
3G比率: **48.2%**

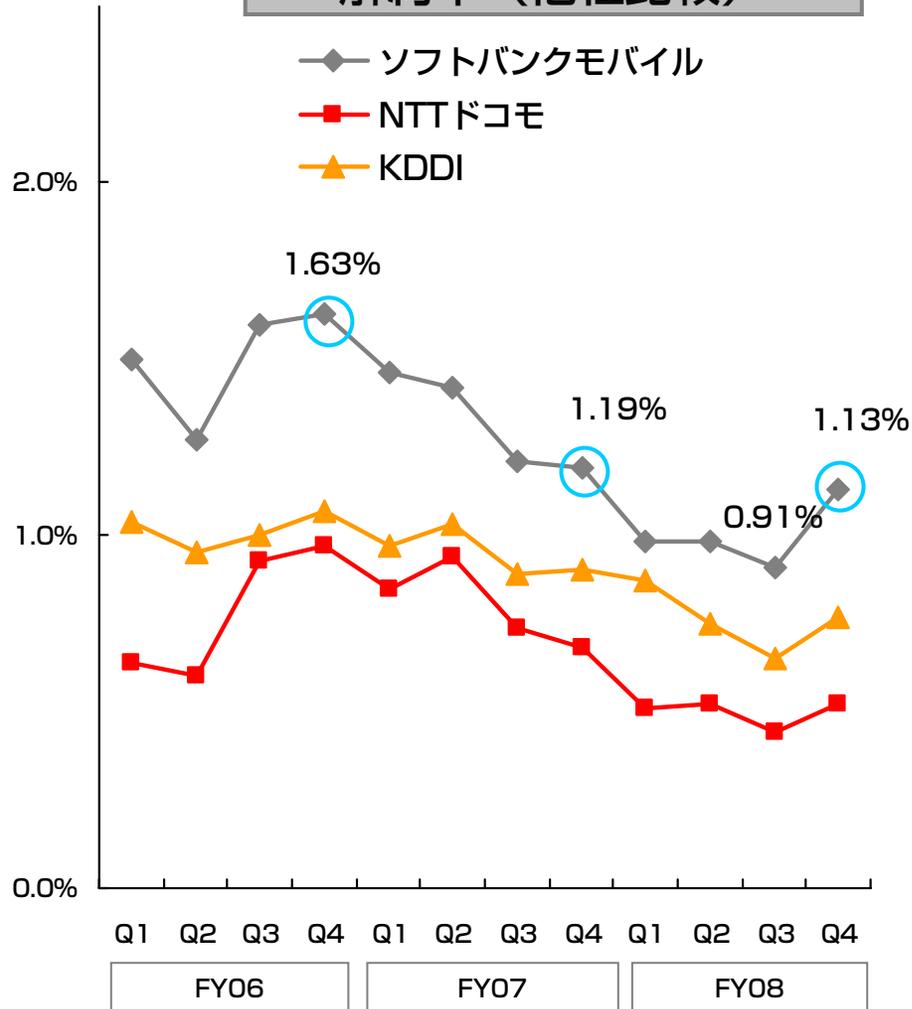
→
Vodafone

⇄
SoftBank

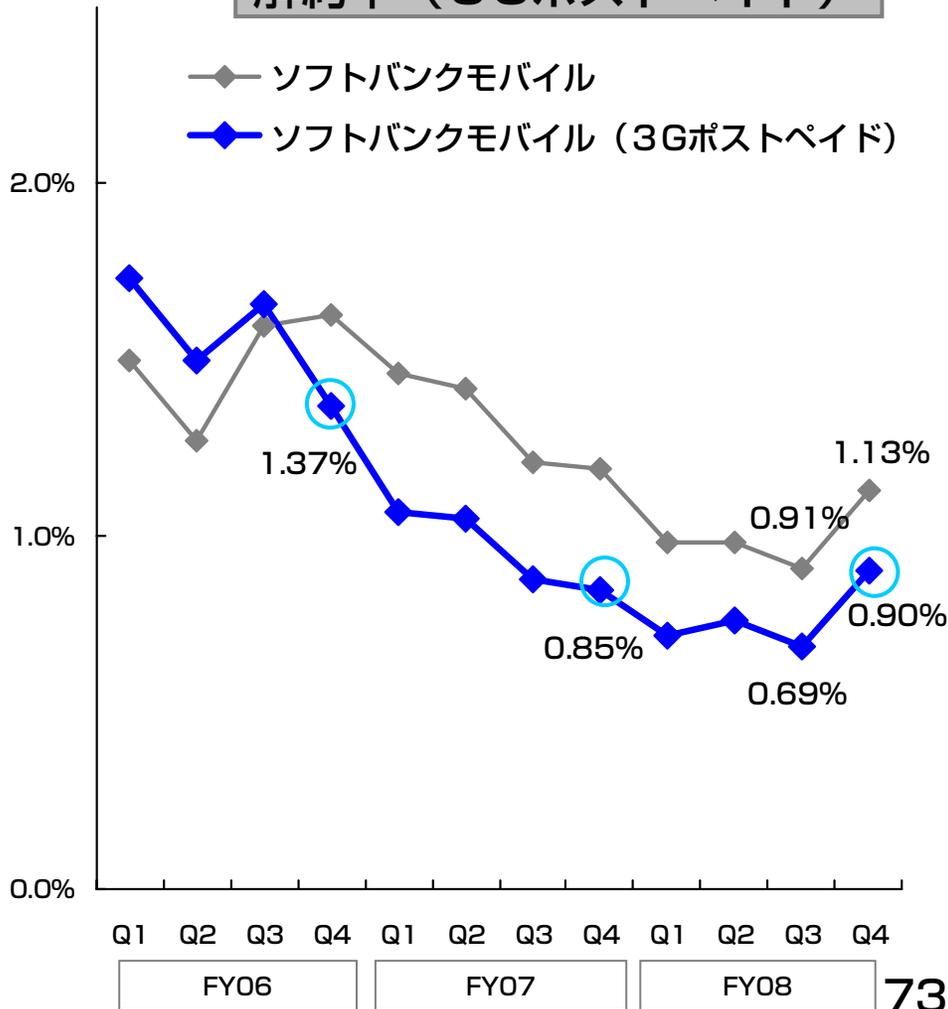
解約率（他社比較と3Gポストペイド） <移動体-6>

■Q4は季節要因、割賦満期、2G乗換促進等の影響で上昇

解約率（他社比較）



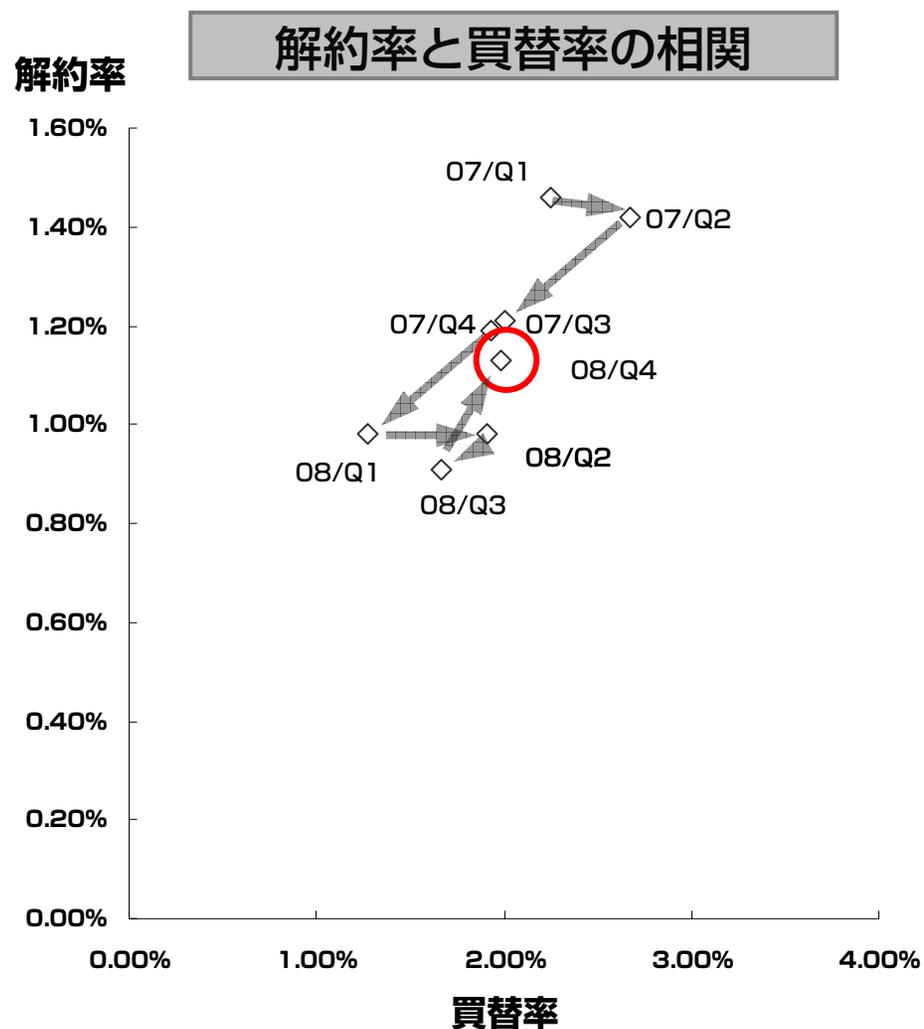
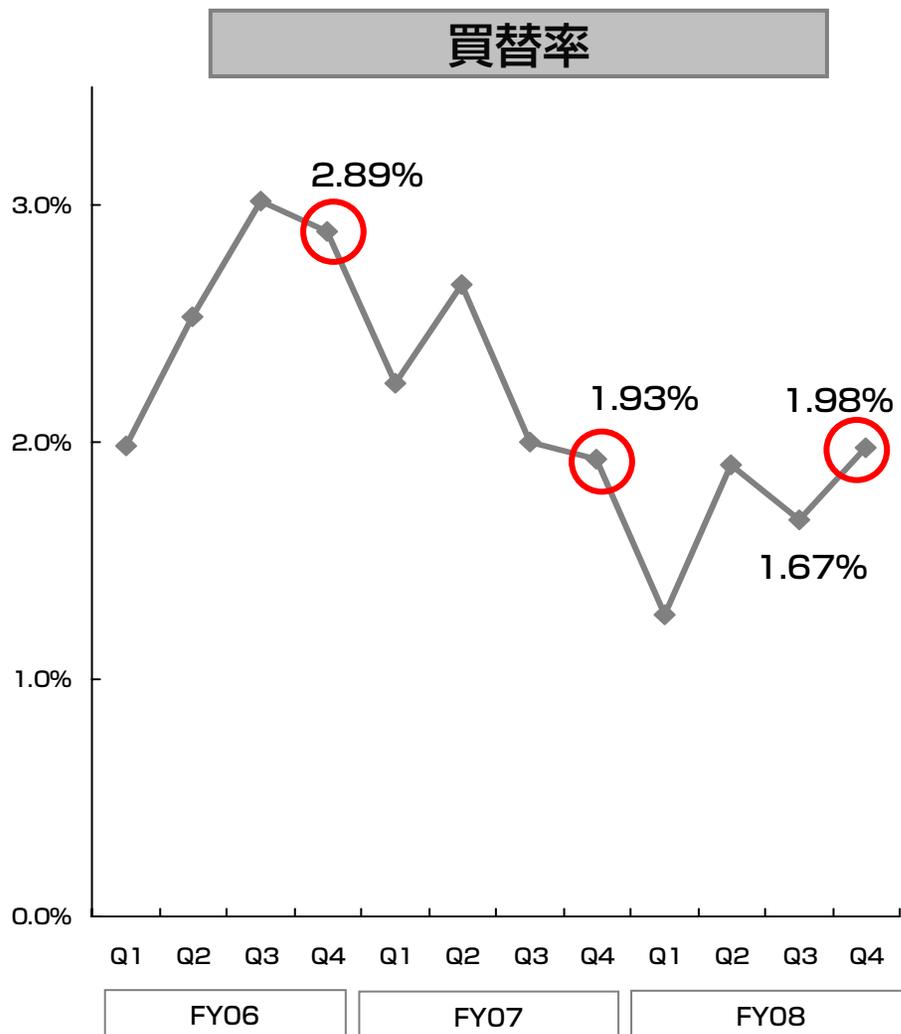
解約率（3Gポストペイド）



買替率と解約率

<移動体-7>

■2Gからの買替えが進展し上昇。

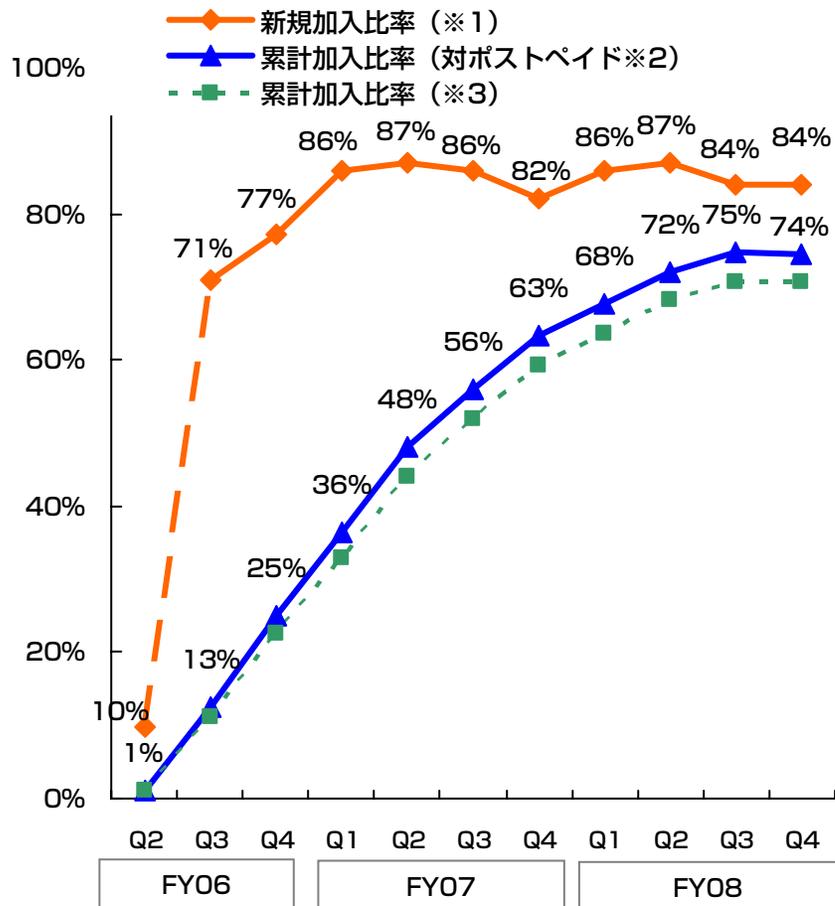


新スーパーボーナス加入率と割賦売掛金残高 <移動体-8>

■高加入率維持。割賦売掛金残高はピークアウト。流動化も順調に推移

新スーパーボーナス加入率

(スーパーボーナスを含む)



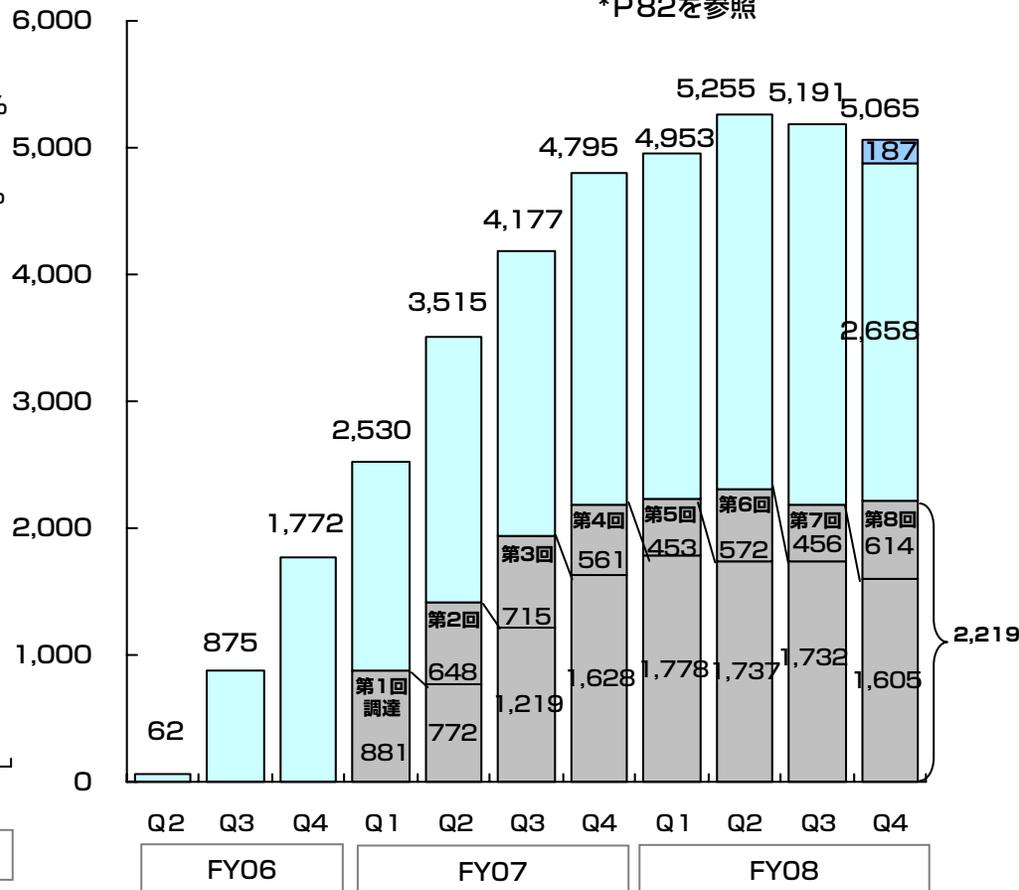
割賦売掛金残高

<億円>

□ うち債権流動化残高

□ うち長期の残高

*P82を参照



※1 新規加入比率=期中の新規契約数(ポストペイド)および機種変更件数に占める新スーパーボーナス加入比率

※2 累計加入比率(対ポストペイド)=ポストペイド契約数に占める新スーパーボーナス契約数(月月割が終了した契約を除く)の比率

※3 累計加入比率=累計契約数に占める新スーパーボーナス契約数(月月割が終了した契約を除く)の比率

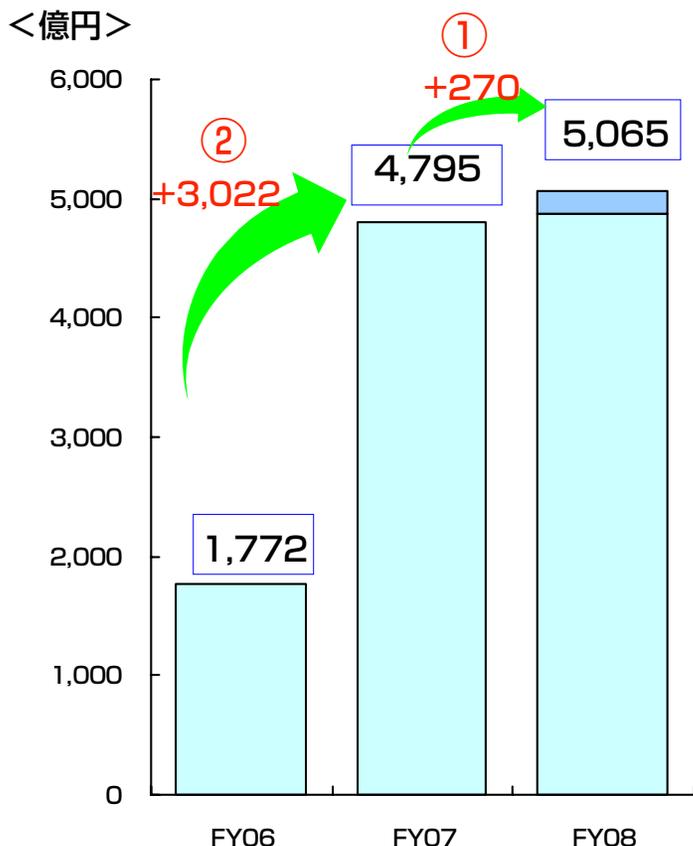
割賦売掛金増減のキャッシュフローへの影響

■割賦売掛金の増加が一巡し、営業CFへの影響が縮小。

<移動体-9>

割賦売掛金残高（年度）

□ うち長期の残高



割賦売掛金の増加額が減少
(営業CFのマイナス要因の減少)

<億円>

	割賦債権 期首残高	割賦債権 期末残高	割賦売掛金 の増加	営業CFへ の影響
FY08	4,795	5,065	① +270	▲270
FY07	1,772	4,795	② +3,022	▲3,022
差額			▲2,752	+2,752

営業CFの前期比改善要因

(参考)

<億円>

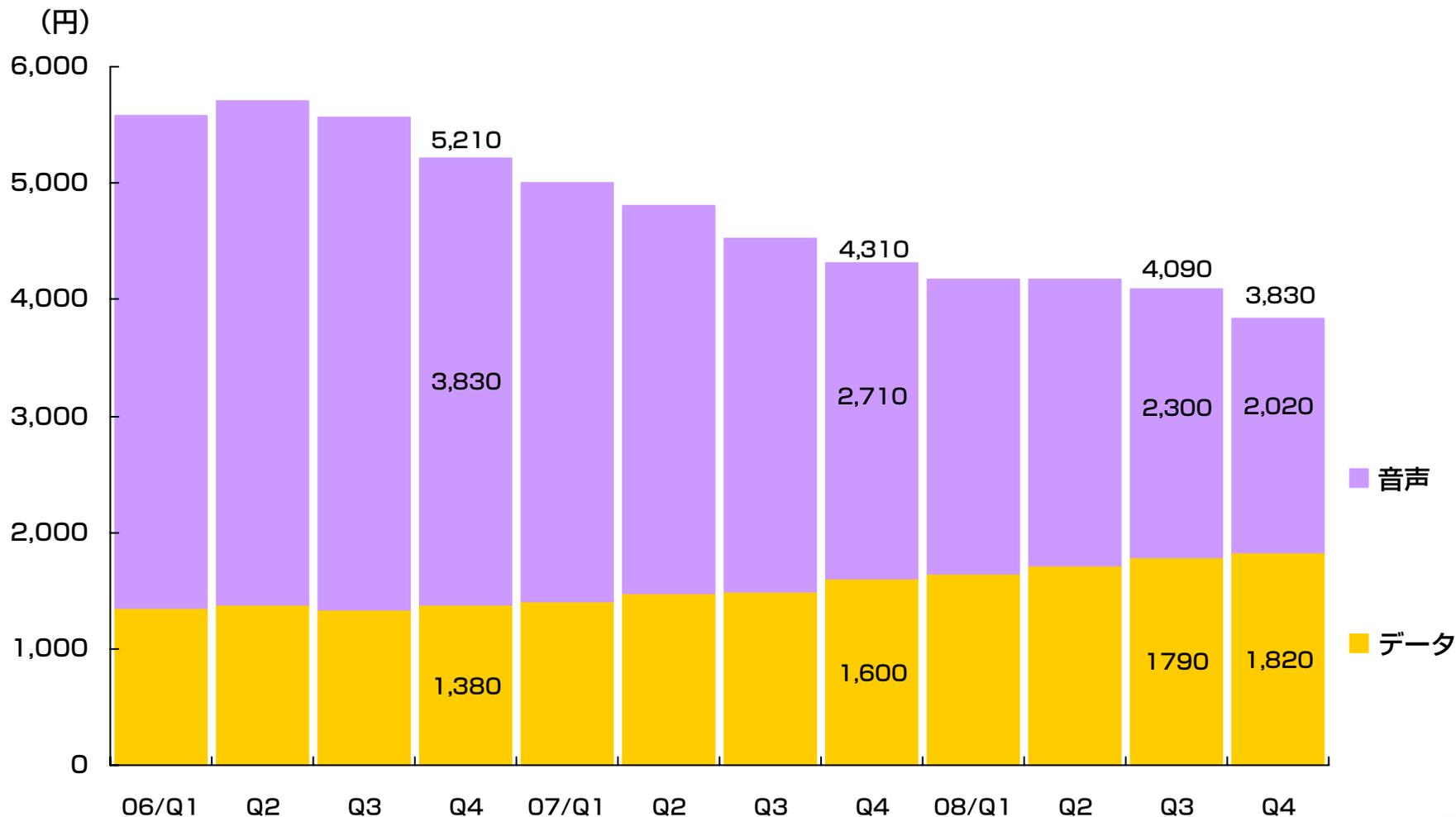
	FY07	FY08	増減
SB連結FCF	▲1,642	+1,815	+3,457

ARPU

<移動体-10>

■音声ARPUは月月割*等の影響で減少。

■データARPUは増加トレンド。



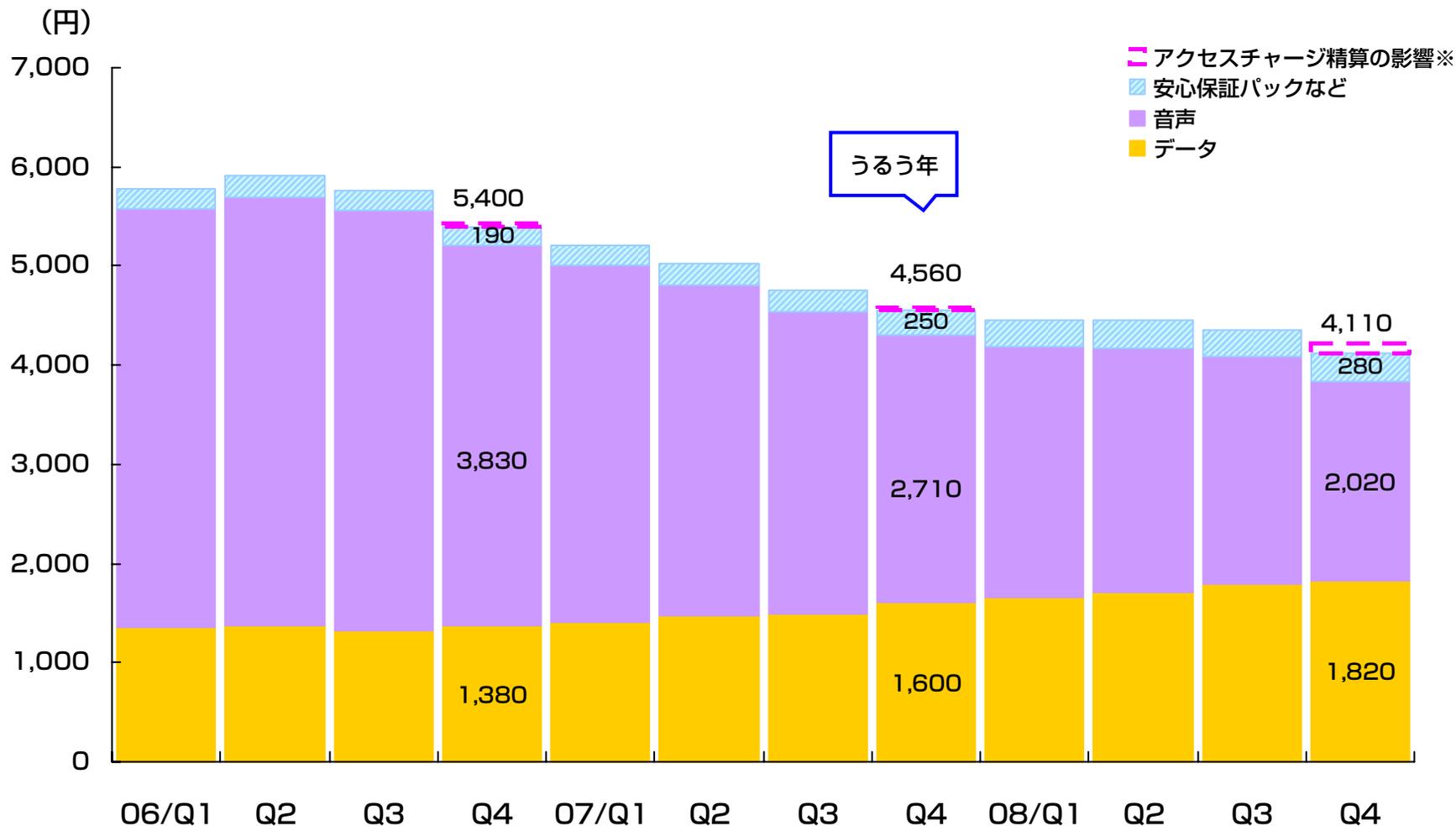
*2008年11月1日より「新スーパーボーナス特別割引」を「月月割」に名称変更

1人当たり売上高（ARPU+その他売上）

■ Q4は、季節性に加えアクセスチャージ遡及清算の影響あり。

<移動体-11>

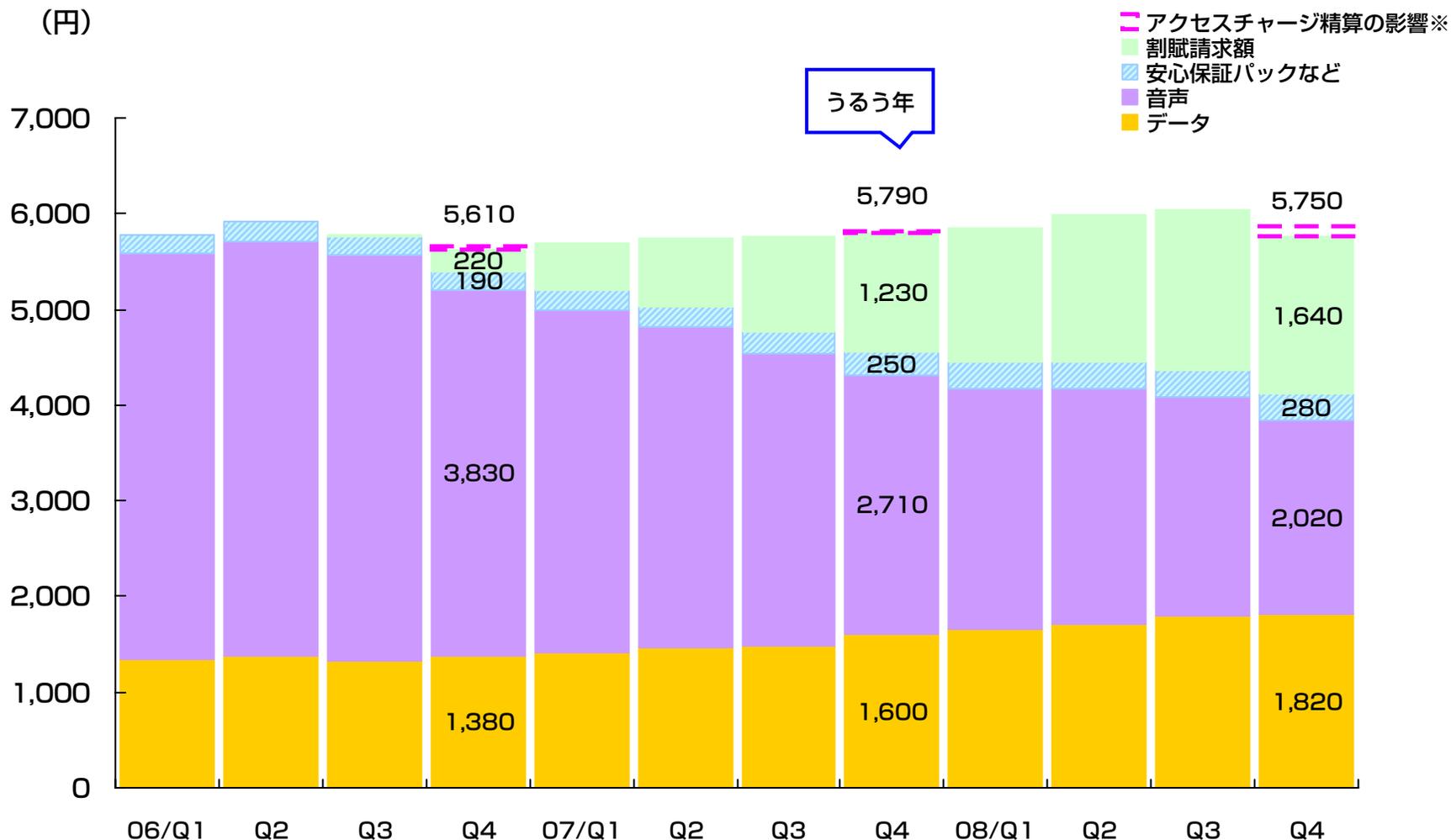
■ 安心パック等の売上も増加傾向（追加開示項目）



※アクセスチャージ精算の影響は1人当たり売上高には含まれない

<ご参考> 1人当たり売上高+割賦請求額 <移動体-12>

1人当たり売上高+割賦請求額（営業CFの改善要因）は堅調



※アクセスチャージ精算の影響は1人当たり売上高+割賦請求額には含まれない

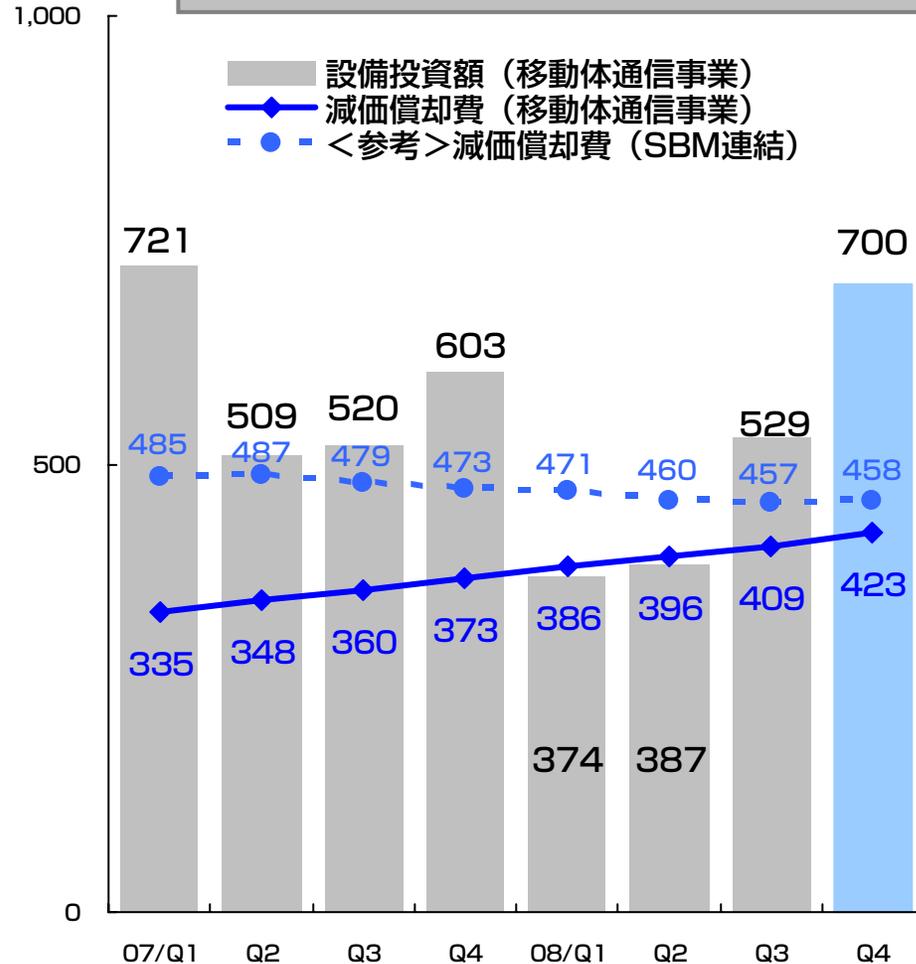
設備投資 [実行ベース] (移動体通信事業)

<移動体-13>

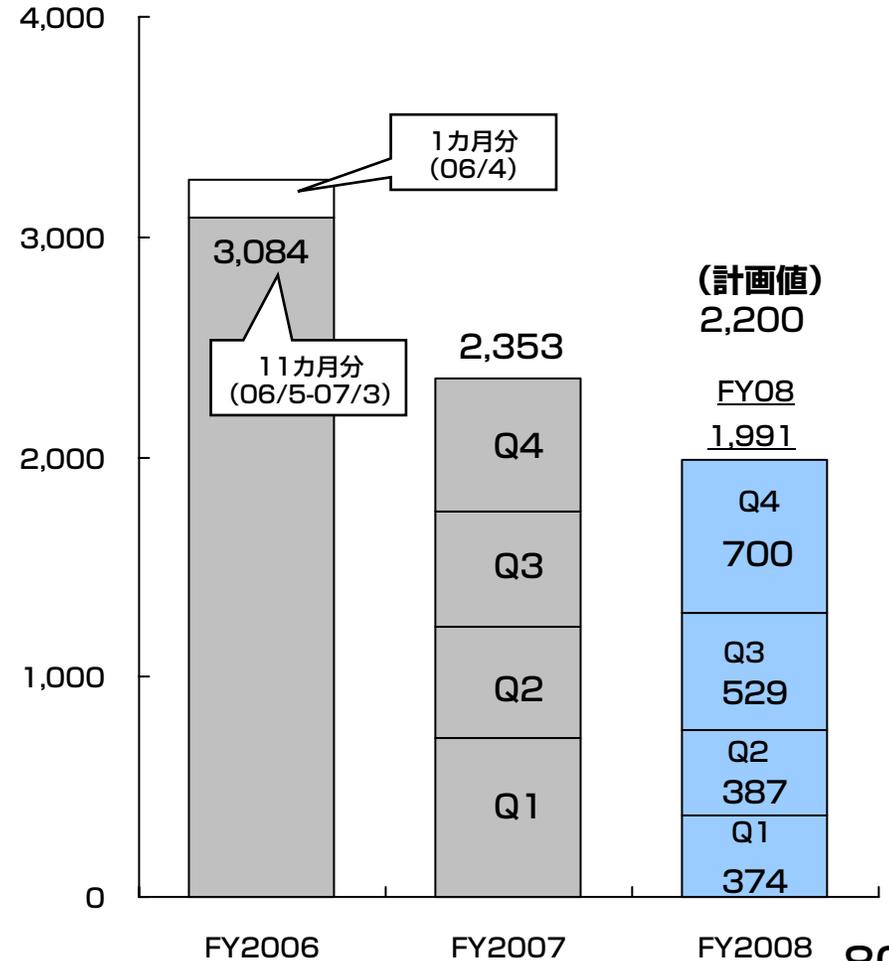
■ 効率的な設備投資を推進

<億円>

設備投資額と減価償却費 (四半期推移)



設備投資額 (年度推移)

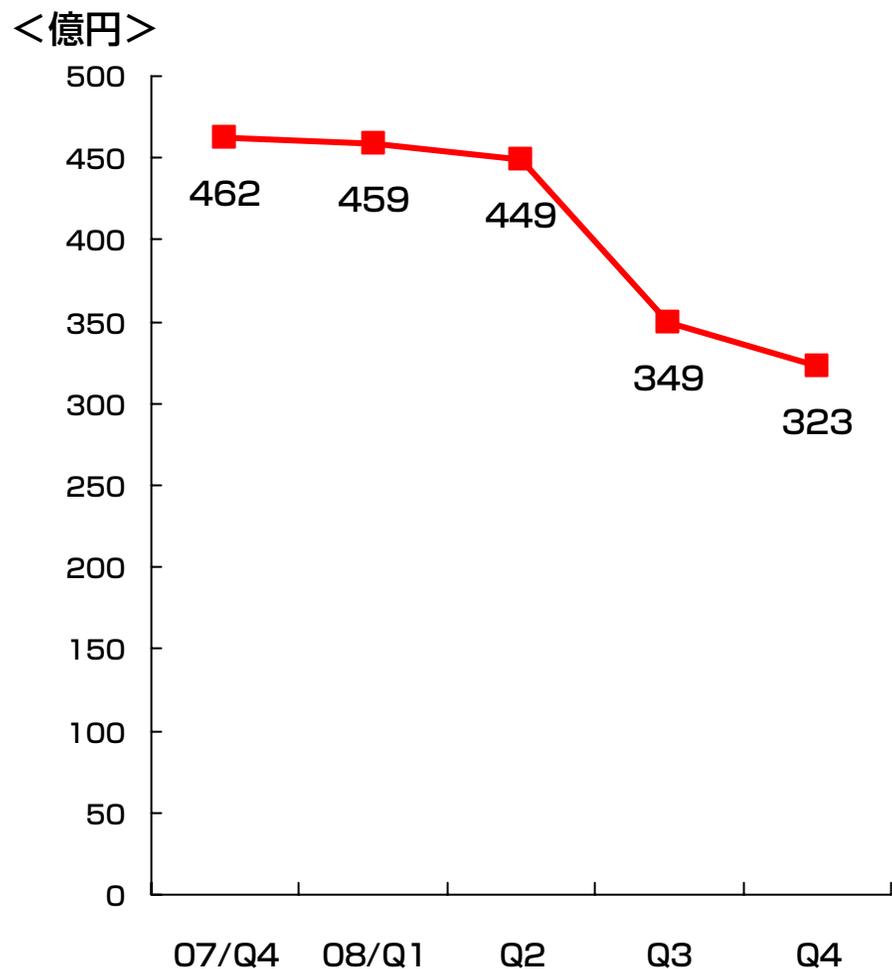


在庫関連の改善

<移動体-14>

■在庫を大幅に削減

SBM 在庫金額(B/S計上額)



<SBM 在庫関連データ (販売台数・在庫金額)>

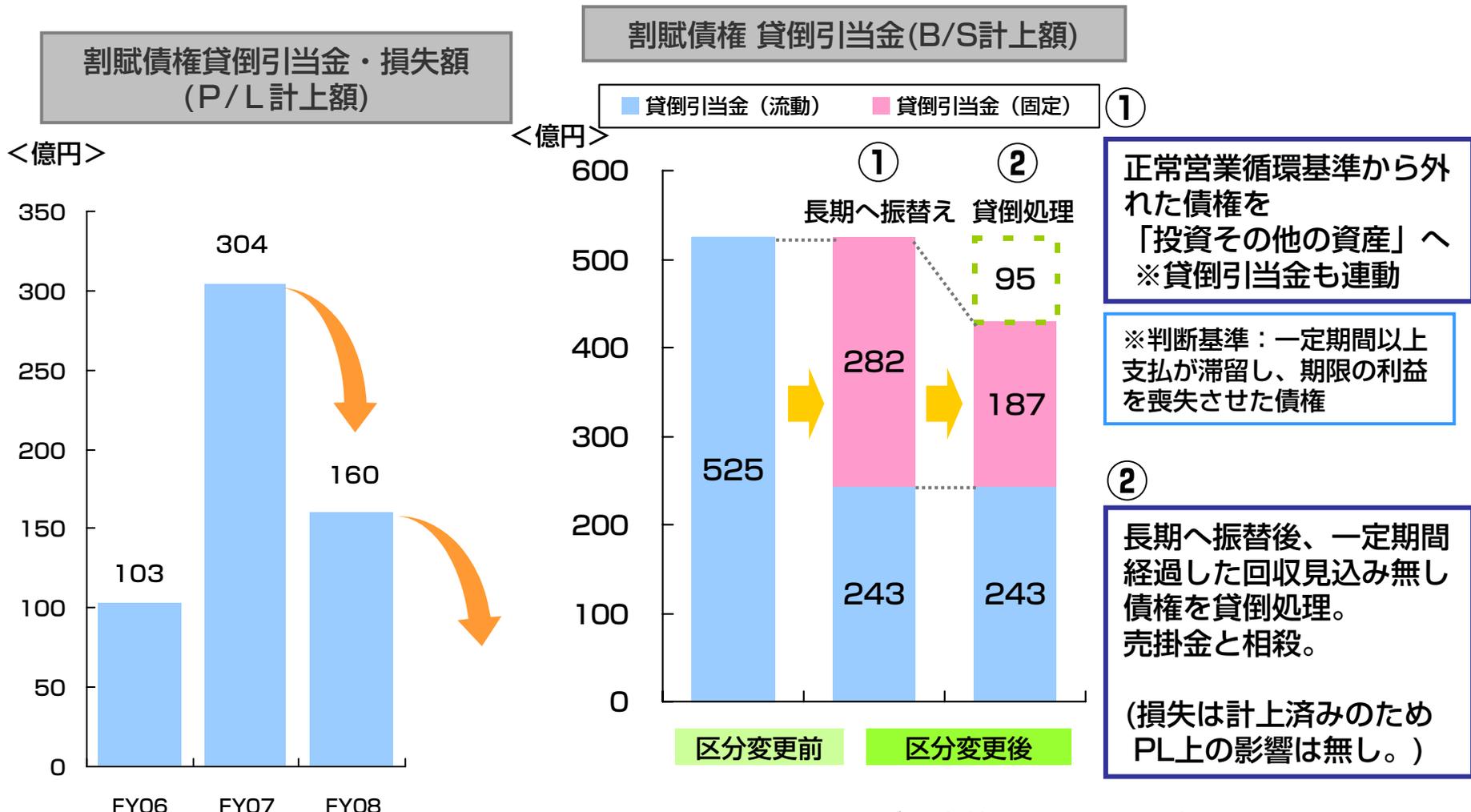
	FY07	FY08	前年比
総販売台数 (万台)	988	842	▲15%
在庫金額 (億円)	462	323	▲30%

※総販売台数 = 新規 + 買替

参考：割賦債権貸倒引当金/損失

<移動体-15>

■貸倒は順調に改善、FY09も改善見込み。BSの両建ても解消へ



① 正常営業循環基準から外れた債権を「投資その他の資産」へ
※貸倒引当金も連動

※判断基準：一定期間以上支払が滞留し、期限の利益を喪失させた債権

② 長期へ振替後、一定期間経過した回収見込み無し債権を貸倒処理。売掛金と相殺。
(損失は計上済みのためPL上の影響は無し。)

※ 1：同一ユーザの通信料についても同じ取り扱い

※ 2：本処理に関する金額のみを記載



- 本資料に記載されている会社名、ロゴ、製品名、サービス名およびブランドなどは、ソフトバンク株式会社または該当する各社の登録商標または商標です。
- 本資料の一部あるいは全体について、当社の許可なく複製および転載することを禁じます。